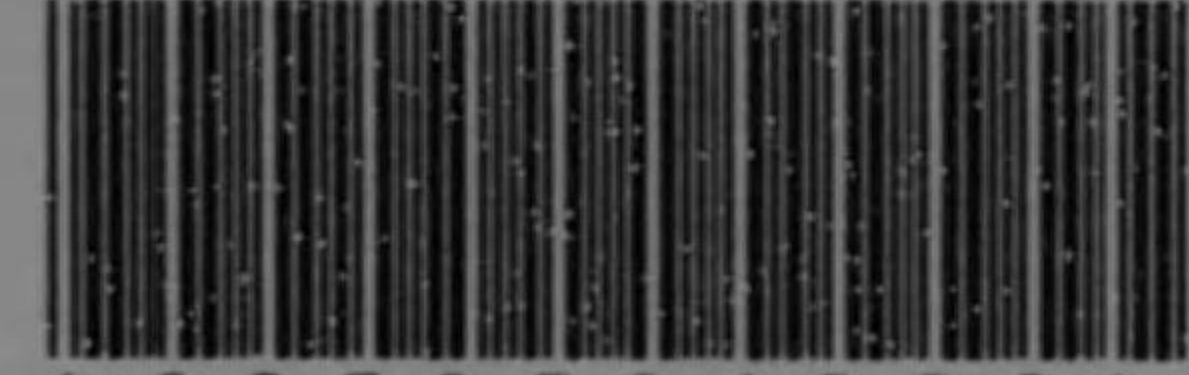


579

459

佐渡四民風俗

原田廣作者



0053564000

0053564-000

579-459

佐渡四民風俗

原田久通・追加

原田広作

昭和4

AIA

佐渡四民風俗

寄贈

原田彦作

頁數	行數	勘	誤	表
八八	一四	詐魚	詐れ魚	
八二	二	割註下戸番此	下戸番所	
七七	六	御製禁	御製禁	
七五	七	蕨粉	蕨粉の毒氣	
七四	七	土方	存不仕	
六	一	細田丹波守	銀山にて掘出	
五	九	江戸へ罷越前	上納金相	
五九	一	南方より	御履成	
五三	一	相見之申候	上納金相	
五二	一	其門試み	御履成	
三三	一	飲賣女	移敷盛哉得	
二六	七	濱邊にえ	切當相像代々	
二三	二	有御座候度	金銀吹分け	
二二	二	再興	公納銀	
二一	二	故款	二千餘	
一七	一	水櫃	御聞し	
一六	一	御盡	其代御代官	
一五	一	故格	廻船高賣	
一四	一	古格	可相成哉	
一三	一	御盡	廻船高賣	
一二	一	永讀	其代御代官	
一一	一	故款	御聞し	
一〇	一	再興	二千餘	
〇九	一	有御座候度	公納銀	
〇八	一	濱邊にえ	金銀吹分け	
〇七	一	飯賣女	切當相像代々	
〇六	一	其内試み	移敷盛哉得	
〇五	一	相見江申候	御履成	
〇四	一	南方より	上納金相	
〇三	一	細田丹波守	御履成	
〇二	一	江戸へ罷越前	上納金相	
〇一	一	上方	銀山にて掘出	
〇〇	一	蕨粉の下原本文	存命不仕	
九九	一	字不明	金銀山の毒氣	
九八	一	御製禁	大工に	
九七	一	下戸番所		
九六	一	詐れ魚		

第
一
章

第
一
章



原田久通書像(出川寒濤筆)及筆蹟



高田備寬筆蹟(永井家藏)

原田久通畫像(出川寒濤筆)及筆蹟



壯士腰間何可彈只看匣裡老龍塔
古人畫掛休居冢病乞子年白日寒
寒濤



高田備寬筆蹟(永井家藏)

高田久左衛門備寬翁略傳

原田廣作 寄贈本

579-459

翁名は備寬久左衛門と稱す本姓仁木氏彦右衛門秀勝の次子出て高田六郎兵衛意正の後を繼ぐ享保の末年勘定役となり元文三年定勘定役に進み翌同四年上計し江戸詰となり爾後延享三年に至る八年間五回江戸詰となれり同四年印銀所定役に轉じ其翌寬延元年吟味方役に任ぜられ奥州半田銀山に赴任し（當時半田は佐渡奉行の支配に移されたり）一年間在勤せり寶曆三年五月在方役に進めり是より先き同元年新任奉行松平帶刀忠陸は赴任後未曾有の大疑獄を裁斷して奉行所内の弊竇を一掃し施政の法を換へ官制を改め役人の淘汰を嚴にせり斯る際に撰拔せられしを見ても翁の人物を知るを得べし去れば上班に猶町方月番の兩役各二人ありて皆一流の評を得殊に首席の岩間政茂の如きは毎に長官の畏敬する所たり寶曆六年に新任せる石谷奉行（名は清昌備後守たり）の着任せる時には前改革が國情に適せざる所あり吏民共に苦情あるを視て更に之を改善せんとし重役等に諮詢し各其所見を開陳せし中に翁は此四民風俗一篇を草して之に答申せり元來翁は五回も江戸に上計して一年間宛彼地に在勤し又半田にも赴任して他國の事情に精通したれば吏



民の風俗を記する間に直言讜議時弊を指摘せるもの切當聞くべきもの多し石谷奉行は是等を參酌して終に不可易の制規を定め後任者の模範を遺せり翁在方役たるここ二十年上級者皆強健長命服務せるため昇進することを得ずして安永二年正月朔日病歿せり年六十餘翁少壯文事武藝に勵み旁ら俳諧を嗜み蘆竹と號せり辭世の句に「折れよこは兼て覺悟の雪の竹」ごあり平生の氣象を見るに足らん。

二

原田久通翁略傳

翁通稱次郎右衛門原田家第七世の祖にして父名は重始の長子なりしも早く父を喪ひ母の覆育する所となる幼にして西川恒山に従ひ經史詩文に通じ兼て槍劍の術に達せり恒山の門良吏を輩出せり先輩中夙に名を著せし者多かりしに四五十年にして歿せるも少からず翁は獨り古稀以上の長壽を保ち最も榮達せり而して其の功業は内藤（忠辰）山岡（景恭）兩奉行が幕府への申請書に詳なれば左に之を摘要し傳記の闕を補ふこころす。

與力格佐州廣間役原田次郎右衛門儀寛政三亥年御抱入佐渡役所御用見習申渡其後追々轉役之上天保十三寅年與力格廣間役申渡當卯年迄六十五年相勤性質篤實にて文武之嗜は勿論一體之覺悟宜敷若年より筆算達者に仕り銀山稼を始め地方向等何れも日用多端之御場所格別出精相勤入組之御用筋は夫々辨別之上不宜仕癖は相改可成丈古例に復し候様取扱御入用筋之儀巨細取調御費を省き殊に金銀山之内中尾間歩之儀近年極不盛に陥り稼方相續致兼候體に相見の廢山相成候ては自然上納金銀相劣其上市街之者産業薄に成り難儀之基に付一山相續之儀厚く

三

勘辨之上同間歩字三艘樋こ唱へ往古盛致候も涌水之爲め廢候敷所地山切貫水吐捨候様取計候積にて右取扱申渡候處種々丹精仕り老年をも更に不顧日々登山敷下り之上働之者共格別爲相勵候故兼て三ケ年も可相掛見込之處僅十八ヶ月にて當三月中切貫成就仕往古之敷所に抜合候に付此末追々稼入候はぐ極て盛穿可仕山出金銀相増御爲に相成候儀不一方次第こ奉存候初發は格別心勞困苦致候は申上候迄も無之當時及老年候得共平日金銀山見廻敷下り度々にて日々艱苦を不厭精勤仕中々壯年之者共も不立及勤方にて都て衆に勝れ候儀に有之候間別段役人一同之勵にも相成候に付可相成御儀に御座候はぐ譜代與力格被仰付候様仕度右次郎右衛門儀は臺徳院様御代元和度より連綿候家筋にて拔群之仁物に御座候間出格之御詮議を以て願之通被仰付度例書相添此段奉願候以上 安政二卯年五月

佐渡奉行内藤茂之助 山岡八郎右衛門

こありしに幕府は之を容れて家格を譜代與力格に昇ほせられたり翁名を久通字を子達こ云ひ其の官歴は少時御用見習より長ずるに及て筋金所役勘定役等を経て地方役となり文政六年江戸に上計し一年間在勤し後目付役山方役等に任じ天保五年

廣間役當分助となり青盤鳥越両坑臨時普請尋て青盤坑水道普請を監督し九年廣間役助に進む適農民愁訴の事あり本役二人座して幽囚せられ翁其の事務を撮せり十一年川路奉行（聖謨）赴任し疑獄の善後を策するに方り此の「四民風俗」を得て參考し猶爾後の變遷を知らんと欲し翁に命ず翁乃ち追加して之を呈せり十三年三月廣間役に昇り弘化四年首席に就く嘉永二年七月願村近海に外國船寄泊せる旨注進あり中川奉行（忠潔）翁をして警備せしむ翁部下數十人を率る武装して發す外船之を望見し錨を抜き駛去りて事なかりき其の末年官營坑中の最たる中尾間歩産礦絶に官民共に之を憂へし際改良工事に盡瘁せし事は前記の如し安政二年年來精勤の功勞を賞せられ譜代の家格に班せらる翌年五月九日病で歿す享年七十二相川二丁目來迎寺に葬る。

序

此の佐渡四民風俗は幕政中に成り本文に追加この二編を合せたり而して二編各其時を異にせるも共に當路官吏が長官の命に依り起草せる所にして風俗産業等を記述せる間弊風陋習に會へば其の改良意見を或は直言し或は諷示する所ありて爾來莅治者の施政上に鴻益を與へし好参考書たりしなり抑舊幕制度は今日より之を見て現代語を以て之を言へば所謂官尊民卑にして其間甚だ阻隔し其政治は専ら舊例に依據し上司の命令を奉行するを主とせり其時に斯る著書が官邊より出來りしは頗る奇蹟とも云ふべきか然らば此書は何時如何にして何人の著せしか先づ其の本文は寶曆六年新任の奉行石谷清昌君の諮に應じ時の廣間役なる高田備寬翁の筆せし所にして追加は則ち天保十一年赴任の奉行川路聖謨君の命に依て時の廣間役原田久通翁の記せし所なり右の兩奉行は共に佐渡に於ける二大疑獄に際し善後の重責を負て赴任せし所なれば前後を通じ希覲傑出の良二千石なり去れば其知を得たる二翁も亦尋常庸吏に非ざりしことは固より言を待たざるなり而して石谷君の赴任は曩に極度の吏弊を摘發檢舉し死罪三人遠島五人追放二人（直訴せし農民は

死罪二人遠島一人追放五人）と云ふが如き大獄讞定後官制及管掌上に一大改革を行ひし後なりしに其改革が國情に適せず早く已に弊因を生じつゝありしを君が慧眼直に之を看破し其の復舊改善を斷行すべく決意し先づ當路吏僚の意見を徴したる内此書を得て之を參酌し君が佐渡在任の第一年は（正徳以後の佐渡奉行は常に二人ありて一人は佐渡に一人は江戸に在り毎年交代して各事務を執る例なり）改善の準備に力め次年江戸に至るや幕閣に建言せしに大抵之を認可せらる（幕閣は改革後僅に四年に過ぎざりし故全部の復舊は難かりしが十年の間には漸次に改善せり）是に於て第二年には着々之を實行し鑛務に民政に一新生面を現し吏民共に之に敬服し其の善治を謳歌し其規定は永く後任者の模範となれり川路君の赴任は相距る八十年の後なりしが其間の奉行中には功を貪り名を求むる者ありて寶曆の規定を右に曲げ左に矯むるありて漸く流弊し半ば其精神を失ひたりしか川路君は疑獄の直後に來り初は制度の改良を決意したりしかは此書を得るや當路の原田翁に命じ爾後の變遷を追加せしめ一方舊制を審査して石谷君の規定制度の全般を發見し此書と對照し且つ佐渡の現状を考察し大に感ずる所ありて曰く己に此良制度

あり全然之に依りて違はずんば佐渡の治平は座して致す可しと一も改むる所なく唯社會教育上大に奨勵する所ありしのみなり蓋し天保の疑獄は寶曆に比すれば吏弊甚だしからざりしも虚に乗せし民暴の慘なるは前度に曾てなき所なりし故なり此の二君世を隔てゝ意氣相投合する此の如く此書に關係せる亦此の如し若し地を易ふる亦然りしならん而して二君共に中央治府の要路に立ちて偉績を丹青に垂れ二翁亦佐渡の重職に任じ功を積み勞を累ね身家共に榮へたり但高田翁は同僚首席に岩間政茂なる一世の偉人ありて之に蔽はれ且つ之に先ち早く歿せしかば生前の功名は高からざりしも此書によりて死後の榮譽は永く傳はれり原田翁も亦當時第三席に在り首席に今岩間と呼ばれし井口方義氏ありしも翁の年は遙に少かりしかば遂に首席に上りしのみならず多年の功勞を賞せられ岩間井口二氏の如く特に譜代に班せられたれば生前死後共に名譽を全くし其の幸運は人の羨む所なりき今回翁の曾孫原田廣作君此書を剞劂に附し廣く之を頒たんとす世の佐渡の地歴風俗を研究する者の益を得ること大なるべくして二翁亦應に地下に感悅せらるべし。

緒言

- 一、本書行文中難解の辭句少なからざるも今一切改刪せず總て原文の儘印行せり
- 一、本書卷頭に著者の墨蹟並に畫像を掲ぐるに付き兩翁の略傳を添ふるここにせり。
- 一、本書印行に際し終始懇切に助力されし岩木擴氏又本書の照合其他に就き特に便宜を與へられし萩野端氏永井榮次氏に深く感謝の意を表す。

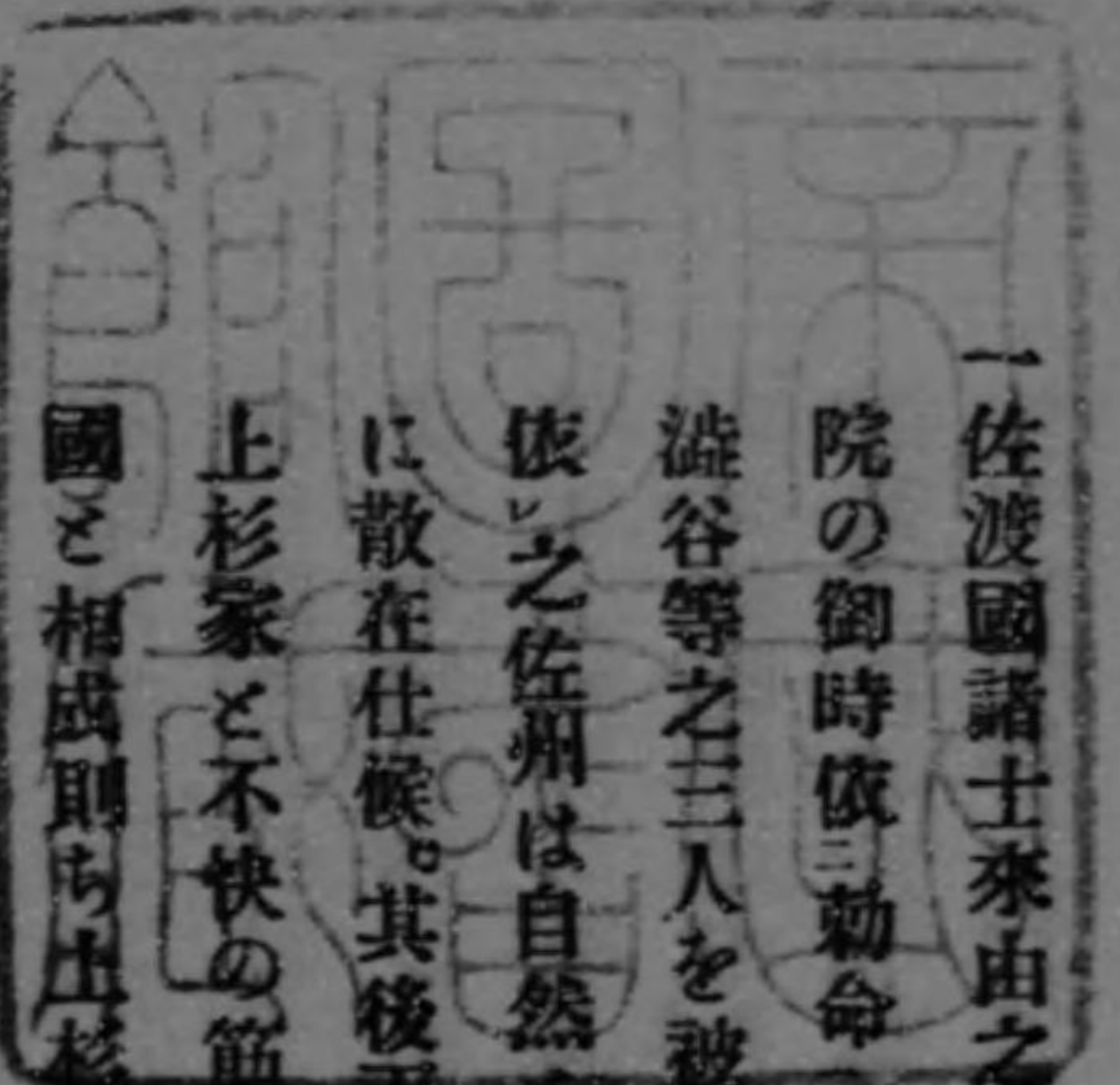
昭和四年八月下浣

原田廣作

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並んでいる。これはおそらく複製時の文字のぼれや、あるいは非常に浅く印刷された文字によるものである。）

佐渡四民風俗上卷 追加共

高田 備寛 編輯
原田 久通 追加



一佐渡國諸士來由之事上古何某之庄司杯彼是申傳候は郷士體の者と相聞え申候。凡地頭始り之儀は 後朱雀院の御時依勅命 本間右衛門尉能久始而當國の蒙守護職此故に類葉國中に蔓り其上鎌倉よりも藍原土屋澁谷等之三人を被差添一本間に相並而一國を守り候よし元本間の一黨は京都大番或は鎌倉在番等相勤む依之佐州は自然此四家の分國となり地頭廿四人郷村を配分夫より長く取傳候。地頭家々之舊記等は當國に散在仕候。其後天正年中に至り上杉家威風盛んになり因茲地頭各其旗下に屬し候處羽茂城主本間對馬守上杉家と不快の節出來に付相拒て天正十六子年より合戦起り同十七丑年六月全く不定此時偏に上杉家の分國と相成則ち上杉家より九人の家士を當國に着け置き國事を取計候處景勝既に秀吉公の命を反く事有之奥州會津え被移右九人の家士の内川村彦左衛門は地利の委敷故を以當國に被止置秀吉公え仕へ其後慶長六丑年當國一統 御當家え奉屬候に付川村彦左衛門殿も被召出佐渡四奉行の内え御加え被遊候由舊記に相見え申候且又當國にて御家人御抱入之義慶長八九より元和寛永年中迄に數多御抱入に相成候。其以

前文錄年中西三川金山鶴子銀山等開發にて其頃者陣屋も鶴子に有之候よし然る處慶長六より相川銀山始り同九辰年御入國大久保石見守殿御支配に成り御陣屋も鶴子より當時相川の御役所地え引移り段々銀山ヶ所多く罷成候に隨ひ向々御役所數相増依之右年曆之頃より役人御抱入多く候と相見え申候。當時諸役人由緒書之趣にて被遊御覽候通り元祖はいつれも他國より罷越御抱入に相成候もの多く當國出生にて被召出候者は少く御座候。且慶長十八丑年間宮新左衛門殿田邊十郎左衛門殿御支配之節御物成米二萬七百八十七石四斗五升之代銀參百七拾四貫百貳拾目其外在中地子小物成等之銀納貳拾貫四百六拾目餘此二口江戶上納に成候分を差除き外銀山方運上諸運上共銀千五百七拾七貫五百參拾目餘之内百四拾貳貫參百目餘者諸役人御給扶持之代米高は不相知代銀にて相立申候但代銀も引不申候并に諸御入用等に引之殘高之内千四百貳拾四貫目餘筋金九百五拾目餘砂金十三枚七兩餘小判千九百兩餘此四口も江戶上納に相成候よし如此運上も多候故御人少にては諸向差支可申儀に御座候。其後元和七酉年鎮目市左衛門殿竹村九郎右衛門殿御支配之節御物成米高二萬三百五十八石四斗三升八合之内引方相立殘二萬三百五十四石餘之代銀五百拾七貫九百七拾目餘其外在中地子小物成等之銀納六拾五貫六百目餘此二口江戶上納に成る分を除き外銀山方運上諸運上とも銀五千八百四拾六貫五百目餘の内百九拾九貫目餘は諸役人御給扶持の代諸役人の分八十五貫目餘米三千五百九十石餘に相見え申候并銀山入用諸入用等に引之殘高の内銀五千六百四拾七貫目餘筋金參拾五貫七拾目餘砂金四貫八百參拾目餘小判貳萬參千七百七拾兩餘此四口江戶上納の由に御座候。纒八九九年の間に如斯御入箇相増候故國中次第に潤色に相成候處諸役人の風俗は武道に義堅きもの多候よし慶安二丑年伊丹播摩守殿え當國留主居役よりの書狀留に仁木與三左衛門義少しの事なれども忠節を申候間大間横目に申付候此通り諸役人へも可申聞由被仰下御意之通與三左衛門え

爲申聞諸役人にも爲申聞候。然る處與三左衛門申上候は御意忝存候へ共當年は替番にても無御座候間只今の御役所に被差置被下候様申上候に付御意にて候間大間横目に參り可然由度々申渡候得共達而願申候則ち願書爲御披見差上申候。如此の文體に御座候。享保以來々様に宜敷場所の御役替辭退申上候事は承及不申候處是偏に古風と相見え申候。且又承應二巳年書狀留に當地役人役所替の儀三年に一度宛半分替り申候當年は未だ替り不申重而御意次第差替可申由の紙面に御座候。此儀は往古よりの仕方にて平役の分は三年に御役替被仰付七年以前午年迄古例の通成來候處翌未年より相止申候。扱又當時御支配役人井戸多兵衛先祖中川多兵衛は井戸理庵息にて江戶より當國え罷越候舍兄は駿河御城番被勤候井戸新古衛門其外甥三人の内一人は兄新右衛門子一人は大番に罷在候一人は左馬頭様に罷在候。如斯明曆年中の親類書に有之候右多兵衛當國役人の内好身の方え參り其後被召出候由且小木番所役勤の節江戶類中より迎の飛脚到來仕候處鹽に潮を入生鯛を其中に遊せ是を飛脚の者に見せ候て如斯事は江戶表にて萬石取候とても容易に不相成筋を平日罷候義無此上候條決して歸り申間舖間早々可立歸一段飛脚に直談のよし夫より當時の多兵衛まで當國に御奉公仕來候。其節は銀山宜しく國中繁忙の世柄にて元祖多兵衛所存に符合の國柄故歸國を厭ひ長く相止り候哉。當時より考候得者無物體儀共に奉存候。昔は手前宜しき役人も多候處無用に向を取飭候儀は無之由承傳候。其節は重役の外諸役人の勤柄等は殊の外當時と相違の儀ともに御座候。其中に別て定勘定役は享保年中に至り改て格式等も宜敷被仰付候夫迄は役人とは別格の者共其筋の業勝れ候故其場所え御召仕被成候。且御船手役の儀も元和三巳年佐州萬御入用帳の内に米三千四百二十六石六斗三升八合は諸役人御扶持切米二百五十石は船頭將監、和泉并鹿子四十人御切米百六十三

石三斗は同鹿子四十六人御扶持内六人は船頭上下扶持と有之候。其後慶安四卯年頃の留主居當時の月番役よりの綱狀にも御船手役は諸役人の末座に船頭座と相認候處正徳より享保初年迄の内改り御役名并に席等宜敷被_二仰付_一候。時代の違是等の轉變爲_二御賢慮_一書記申候。往古は廣間に差繼候は山方役以前は山奉行と唱申候斗りにて其餘は定役も少く萬端手輕く有_レ之候由併し正保四亥年相川大火以後より御土藏に有_レ之諸役人宗門手形に輕き役人も家内人數多く一人の家内二十人程迄も相見え其内下人の男女多く候儀は召仕のものを諸働等にも差出し或は薪を爲_レ伐主人燒_レ之又は賣代成候て御奉公取續候程に質朴に相暮候由依_レ之手前宜敷者も御座候哉。扱又寛文の頃留主居役奥野七郎右衛門と申す者は御役柄に不_二似合_一所存にて諸事權高に取計ひ手前も貯多く田畑山林抱屋敷等數多致_二所持_一百姓持分の地所を境論にて押掠その外不宜筋數多有_レ之旨其節御巡國の衆え百姓ごも目安敷通差出其中に至て不届の筋有_レ之由に付寛文十戌年曾根五郎兵衛殿御支配の節七郎右衛門を江戸え被_二召出_一江戸十里四方御拂上野信濃越後佐渡日光海道御構被_二仰渡_一候に付其頃より別て當國重役は勿論末々の役人迄猶更行跡を慎儉約を專に相守候よしに御座候如_レ斯時節故自ら諸役人及_二困窮_一候故歟寛文十三丑年右御同人御支配の節在御用の役人御手當として御證文を以留守居役一人に六人扶持目付當時之吟味役次第に一人に四人扶持平役一人に三人扶持如_レ此以後被_二下候趣に相成其上延寶年中より留守居役兩人惣目付と申候役江戸え罷出御老中廻り仕御用之儀申上候程之御威光も御座候故御締り宜末々の役人善惡に不_レ限有外に相札御在府の御奉行方え申上候事故國中能治り申候。延寶の頃留守居役相勤候西村徳右衛門義御役被_二仰付_一候當日親類共見廻候御徳右衛門龜服を着頭に鉢巻を_レ及_レ刀物を以大根の面を取召仕の業を致罷在候故見廻人探問候は今日は御役被_二蒙_一仰目出度折柄御自身下々の致候事を被_二致候_一は如何の仔細に候哉と相尋候

處徳右衛門及_二即答_一候は是迄も重役相勤候得共今日は格別の御役蒙_レ仰候上は向後諸役人の腹當に相成候所存に候條如_レ此質素儉約を用不_レ申候ては御役難_二相勤_一由及_二挨拶_一候よし承傳候。諸役人の筆頭にケ様のもの御撰被_二仰付候_一時は末々役人屈伏不_レ致儀は無_レ之道理に奉_レ存候。依_レ之無_レ程御加増をも被_二仰付_一候。且又延寶五己年曾根五郎兵衛殿御支配の節江戸より佐渡え被_二遣候_一御用狀の留に割間歩大盛の由早速御老中え申上候と有_レ之候處六年後天和二戌年鈴木三郎九郎殿御支配の節の御狀には打續銀山懸敷と申御文體相見え申候。此節より以後貞享元祿の始え掛け國中甚だ詰り諸役人も手前摺切候體に候處同四未年萩原彦次郎殿元祿九年十二月近江守と御改御支配に相成其後段々銀山御稼方隨一の儀を御考猶又御吟味の上間切數十ヶ所御取立御入用を以御稼被_二成候_一故其ヶ所の内追々山師考に當り鍵多く出、公納も相増御入用は自然と一國中の潤に相成且又山稼徳人の金銀も世上え行渡り候故段々世柄宜罷成申候。尤此節迄は諸役人専ら儉約を守り住居の補理其外衣類調度に至り候迄都て手輕く有_レ之重役の外末々の役は勤先え不退に綿布を用ひ夏袴は麻上下の下を着し夏羽織は手織布を用ふ如斯は元祿半頃迄も一統の風俗にて髪に鬢附油を不用女は胡麻油を以最上に仕候元結は手自らより候て日用を達候處元祿の中頃より末に至り金銀山の仕當繁忙に連れ諸役人も奢の兆有之殊に此節は越後高田浪人高知の輩も當國え來り住居仕り其上諸國より倦遊の輩入込居候故料理調菜を始め美服家作等の物數奇或は遊藝の類を専ら翫ひ候事故小國に不_二似合_一繁忙の儀にて當時民間の諺に近江様時代とは身安き事の喩に申習し候程に御座候併し男女の衣類杯は縞子綸子に紗綾縮緬の類も所持の者多候得共其衣類に不應人柄にては猥に着候儀も無_レ之候處結句元文より寛延の頃迄は名も不知織物等を女中の衣裳に取用候に引當候得は元祿の初迄は古風の殘居候儀も粗有_レ之候得共昔と違ひ一體國風華美に相成候は

元祿中頃より正徳の始に至候ての儀當時在命の老人共存居候事に御座候既に正徳三巳年近江守殿御跡兩御奉行御支配に相成候折節は銀山並町中の者共小兒迄も天地晦冥の心地仕候由老人共物語仕候是は近江守殿は御在府御用人中計り當國に在勤にて諸人町在迄都て留守居役其外廣間役に押え居候て物毎規定有之所え俄に兩御奉行に被仰付殊更御在勤の趣故國中一同とは乍申別て相川表の者周章候も理りに奉存候其節迄は訴等も廣間え申出一同吟味の上文通にて近江守殿え相伺候處其後御奉行方御一人宛御在勤に相成候ては自然と廣間役に威勢薄く成候様に候得共一體役人の格式等は以前より宜敷被仰付候事共多く御座候但寛文二寅年江戸より佐州えの道中御證文に若林六郎右衛門與力所まで可相届由之御文體にて御名所は美濃豊後と有之候是等の格式は兩御奉行に相成候ても御沙汰無之哉改而被仰渡候儀も無之去未年松平帶刀殿御尋之節も右之故格存居候者も無御座其節御土藏書物之内より御證文見出し候由に御座候定役總て熨斗目着用の儀は享保四亥年三月北條新左衛門殿御在勤の節被仰付候其外定役御禮日詰間の儀平役とは別段御廣間の内廿きの間え相詰候様同年十月河野勘右衛門殿被仰付候定役若黨の儀元旦節句或は在郷え罷出候節召連れ候様同年九月御同人被仰渡候如斯格能く被仰付候得共享保五子年五月澤根港に破船有之御目付役罷越候節破船場は混雜の所故萬端爲誠槍爲持申度段願候處其節の御在勤北條新左衛門殿被仰渡候は御目付役は槍杯爲持不申常之通にて其場所え參り候方重寶に候間先づ無用に可致候然れ共御用の品により申付る筋も可有之候間其度々伺候様にて被仰渡候旨及承申候此時節は每物格宜被仰付候砌故の願と相見え申候處御役柄違候間如此被仰渡候儀と奉存候翌丑年五月水津浦に破船有之候節伺之上槍爲持候様被仰付向後破船場えは槍爲持候よし此趣に候間諸定役在出の節も私用は勿論御用にては槍爲持候事通例の御用には無之候以前は毎年御

奉行御歸府御出立の節新町村御盡迄御送りに罷越候定役御在勤中御役替等被仰附候定役不殘罷越候公事方役に至る迄元文の末頃より皆々槍爲持罷越候故年により三十人計りも參り候儀も有之長途の行裝美々敷相見え夫に准し妻子等も常の身分に違候事共に御座候前文に申上候熨斗目着用被仰渡候以後享保の末頃迄も諸定役の内五七人も幅紗小袖にて一向熨斗目不着ものも有之若黨不召連族も御座候處是又元文以來は末座の定役迄熨斗目若黨兩様共欠候は見え不申候私養祖父六郎兵衛と申もの河野勘右衛門殿御在勤の節當時格の御目付役始て三人被仰付候内にて御座候然處在御用には股引に裝を着候體終に熨斗目を不着若黨を召連不申元結は鼻紙を以て毎朝手自ら調之水手水にて湯を用不申是等は強て質素之所存にも無之無詮取飾に拘り御用の儀間取不申様之心掛に候段私に度々爲申聞候處等閑に承置右之内一條も相似せ不申時節之違ひ故とは奉存候得共今更千悔仕り候總て昔と違ひ卅年以來は別て當邊の御奉公人も内々實意少く外を取飾り候事を専に心得候儀は畢竟一榮過て一落之期とも可申候や元文之始八幡村邊に八十歳餘の老人有之其節の在方役秋廻りに在出之節右之老人近隣の者に嘯候は寛文の末我若輩の時奥野七郎右衛門殿此七郎右衛門義委ヶ前二有之在え罷出候を能覺居候に小紋の布羽織木綿染の立付を被着馬に乗り槍、若黨、草履取、兩掛一荷斗りの處今日被通候在方役を見候得ば駕籠の内にも名も不_レ知ものを著し袂箱、沓籠迄も無_レ殘所_一威勢美々敷見へ候得共、歎敷事は佐渡も没却に間は有間敷又居直る迄の余命も不_レ被計_一など密々物語致候由承傳候。卑賤の者の乍_レ噂是を以考候得ば如_レ案其頃より二十年に不_レ滿内去ル未年之大變出來仕候。且町同心は勿論使役の妻杯享保の初迄は羽田濱え獵船來候節自身魚を買、持歸候よし年老の者は及_レ見居候儀に御座候。然處享保の末より去ル己午年頃迄は右體のものも以前とは殊の外風俗替り候事共にて夫より上に立候ものは猶以之儀、准_レ之萬端手高に罷成申

候。當國は金銀山の盛衰に連れ候國に候得共心有る者は相川の住居を離れ在え引籠り候町人等も有之候然れ共御奉公人は右の働も難成候得者兎にも角にも志を改可申處左は無之銀山出方宜しき時節の十ヶ一にも不_レ及此上に身柄は以前より格別宜相成候儀御奉公人にも不_レ限町在とも享保の末、元文の頃より由緒を巧み拵へ候て諸拜借を申下し御役方勤候ものは引負等多く出来候處寛保元酉年より翌成年え掛て松波平右衛門殿御在勤中總て引負等御糺身分に不_レ應高多きものは親類縁者に御掛け成年より未年迄十ヶ年賦に御伺の上被_レ仰付候。併し右御改之節も地方役所引負一件は御沙汰無之其後去_レ未年御糺有之御仕置も被_レ仰付候。然上は當時の困窮は誠に天命と相心得甚慎候而此上の幸福を相待身分相應の凌を心掛け清直に取續候時節と奉存候。然るに去_レ酉年御代官兩所え役人御引渡以來右兩支配の役人の内にも多くは手代の風俗を見真似候様に相成内分勝手筋をも其役々にて可_レ成丈け心掛候者も有之由相聞え申候尤當國は人之心奸邪多く、他の宜事は猜み、自己の不足を憤り、害心を差構候族、數多故浮説も多く候得共右貪候心底不_レ相止儀は彼是候説も多く御座候由是は當時支配達の輩相互に心に恥合候善之處左は無之却而他支配の外聞には不_レ相構一己の利徳に而已拘り候風俗に見へ申候。夫に習ひ御奉行御支配之役人も内心に他を羨み候體にて不_レ宜筋を心掛け或者勤方に勇み無之御役方高下の禮讓も薄く適御入用引請候御役方の者或は御運上方取立の場所に勤候役人も實路に御奉公を勵み候風俗には無之荷擔の人有之候得者何時にても惡事に染候體に相見え且改取締りの役人一樣には無之候得共多分は御奉公の實路に不_レ至一ヶ年限御在勤被_レ遊候御奉行方の御風儀を見取早く其御風體を寫し自己の流儀を改め温和を御好候時には可_レ改糺一事をも等閑に致、不_レ易林之人を却て誹り參會極事に無_レ隙煙酒に人道を亂り私欲に御役柄を不_レ顧輩も有

之又質素儉約を御用ひ御奉公筋を御糺被_レ成候時代には是又早く其風儀を寫し實面を作る族も有之縦へは去年と當年と其身の流義の黑白に違ひ候儀には心付も無之ものとも御座候。併し是は藝器用の役人にて如_レ此申候私を始め此類は數多に候。全く御奉公の實路に眼を附け御交代毎の御風儀に不_レ抱心掛けを規定致し罷在候もの御支配の内にも可_レ有御座候哉私式の評議に難_レ申上奉_レ任御賢慮候。且又往古は不_レ存享保の末元文より以來は相應の御役儀被_レ仰付候役人も足事を不_レ知其上を斗り心掛候體のもの多く御座候。尤是は御奉公人之常に候得共勤を勵み其上幸を以天道自然の恵を得候は格別之儀無_レ左右才智の働にて取入を旨と仕或は讒佞表裏を巧み他を損じ自分の轉役を心掛候族も粗相見え申候。是等の人は御政事之害に相成候儀も可_レ有御座候條爲_レ後々その實否を御糺明の上讒奸紛れ無之輩は急度御書送り等被_レ成置候は畢竟御取締にも可_レ罷成義と奉_レ存候。是等の風俗も委細不_レ及申上御賢慮向の儀に候得共心底不_レ殘置奉_レ申上候。都而役人の實意薄く年々風俗之相違有之義を相考候處當國兩御奉行に相成年毎に御交代に付其度に拵致候事故前條にも申上候通風俗轉變の筋に奉_レ存候。依_レ之此末萬一も一統御奉行御支配に相成候共御勘定衆二三人も居掛り被_レ相勤候様に罷成候て御在勤之御奉行方御手に附き諸向え被_レ入渡候は其時は地役人に御爲人多く出来可_レ仕候。扱又當國の者は役人を始め其外逆も賞を重く御尉を輕く被_レ行候ては其御法の輕きに乗_レ候て惡行重過可_レ致島國之人柄に御座候間賞罰共に重く被_レ爲_レ行候方當時の相當、國柄相應と奉_レ存候、先書にも申上候通去_レ未年以後は廉直第一の覺悟にて恐_レ御制度一筋に勤を勵み其暇には取續の儀を考へ或は武藝等をも相勵み候て成丈け清廉に有度節に候を却て勤に倦み禮義を失候體の者相見え候を察候處去_レ酉年以來は御代官所の役人は折節褒美手當の沙汰も有之候處御奉行所の役

人えは御沙汰無之然れば出精も徒に成候様存違候若輩も有之候故に候哉諭を以申上候儀恐多く候得共香餌ノ下在懸魚と申候得ば御入用方の御吟味は此上にも御詰被成御褒美御手當の品は時々相當に被下候様にも相成其上不埒の者は急度御咎め被成候は自然と風俗も改り可申候哉此節段々御米直段も下直に相成候得ば諸役人困窮暮り候て根草の手配にも難及輩出來可仕候。困窮の次第も其筋一様には有之間敷候得とも分限に不引合多人數の者も外國えの有附取捌不自由之國故餘國と違可及困窮道理も有之其上切米等の心當にて内借の類は四歩五歩の利を以て銀錢差引或は米を貸候分は一升到一合二合増の積り纔五日十日の手合にも返済の時は四斗五升の御扶持方に四升五合、九升の利米相掛り候由及承候。尤是等之高利を取候もの身元宜町人の内にも有之候得共先は何町誰彼と人數も大概窮り有之由に御座候。併し高利を取候御吟味等有之候は其向の者共申合貸引不仕候は是又役人共差當り難義の筋に奉存候。右之通の族共に御座候間當分小細工等の働にて取積可相成一鉢にも見え不申候得共左候迎一向取積働之所え不用心結句無用の盤象遊藝等慰向の儀に空く送日候類全く元祿年中繁花の風俗を及聞居候故此上又昔の世柄に可成時を願ひ當時の害に相成候儀是迎も國風に候得ば無據儀に奉存候。此節志を改め遊藝等の無益を打捨取積の心掛を專に仕り以前繁花の風俗を忘れ御奉公實路に勵候様御支配下えは御觸書にても被下置候は自然と國中えも行渡り可申候。其上にて兎角末々迄取積候御賢慮無御座候ては追々身上大變のものも出來可仕奉存候。

追 加

此諸士之ヶ條を始め一部中之趣備後守殿思召に符合いたし候儀と相見へ寶曆七丑年御歸府の上夫々被仰

上翌寅年より卯年に至り佐州の御所置悉く御仕法替有之第一御奉行年々御交代にて地役人御奉公の心得移り替候を御厭ひ御一人宛御居附の儀被仰上候得共此儀は御差支の譯有之候故御差止相成候由承傳組頭兩人廣間役兩人は寅年以來江戸より引越相勤候儀に相成其節地附廣間役十人の内六人は數年相勤候爲御褒美白銀被下無役に被仰付岩間半左衛門須田兩右衛門高田久左衛門今井新次郎は其儘相勤金銀山并相川近郷千石餘御奉行所御支配に相成組頭兩人は廣間役を始惣地役人預り支配の積り月番役の重きもの可心得旨被仰渡是迄は月番役町方役在方役吟味方役と廣間役の内役銘相分り居候處江戸より被遣候廣間役打込六人にて一同廣間役と唱へ、掛り分に相成惣地役人爲御手當御切米一人別二十俵分當分江戸御張紙相場を以被下其上前々よりの諸拜借惣棄捐に被成下金銀山御縁方永續の御仕法相立諸役人儉約を守り御奉公實意に精勤可致旨被仰渡一統難有取積候儀に御座候。扱其頃の風儀本文の趣にては久左衛門歎息の跡に相見候へ共今を以て思競候へば幕敷存候程の人も不尠候。後の人は善も不厚惡も不甚候へば奸邪薄情のもの間々有之儀は寶曆以來只今と同様に御座候。

其中にも昔に不劣實意に御奉公いたし文武の聞有之のもの荒増相記申候。寶曆元未年松平帶刀殿江戸訴一件御吟味後岩間半左衛門實意の御奉公いたし候を泥中之蓮の由御賞し御加増の代り惣領爲助を被召出新規御抱入御切米御扶持方被下御目付役被仰付寛政元酉年に至り半左衛門御奉公六十六年出精相勤候に付品々御賞譽、御譜代與力格被仰附御褒美銀被下置其行狀委しく谷左中頭編集の岩間の水に有之。其後天明元丑年青盤其吾兩間歩敷内御普請掛りえ御褒美被下候は寶曆御仕法替後始ての義にて格別の被仰上之有之其節外掛りも有之候へ共山方役高田六郎兵衛御目付役藤村小十郎義は主謀の者にて右

御普請の起は青盤臺通りの水汲捨候甚五間歩龜助尻より甚藏廊下と申所迄四百間程の間崩れ込水通じ不申迎も如元取明候儀は難成由にて數年青盤臺通水埋に成り上方稼所取明御普請の義安永三年御伺有之候處右御普請は御下知相濟青盤間歩の水相川羽田濱へ引落候手段取調可申上旨松平右近將監殿被仰渡候處六十年來通路無之場所故取明方御入用積りも出來兼候を右兩人種々工夫いたし見込申上候に付御伺の上同七戌年より取掛種々苦難の事共を相凌三ヶ年目、子年に漸く水道路取明出來夫より翌丑年迄に溜水替取縁入相成候處右取明中の辛勞不一方義今も申傳候程の義にて實に身命を抛而の勤に及承兩人共に右に不銀山吹所の儀には困苦いたし御爲筋に相成候もの、由六郎兵衛は本文著述の久左衛門悴にて御目付役頭取は此ものより始り小十郎は久左衛門聲に有之御奉公の教諭能届候と相見兩人共後廣間役に相成候へ共皆中風相煩長くは不勤申壯年よりの勤勞故と相見候。天明五己年廣間役助藏田友太夫儀金銀山向地方共諸事精入品々御益筋御取締の儀心付地役人の内抜群出精いたし候趣を以て忤元三郎新規御抱入。文化十二亥年御船手役辻吉兵衛年來御奉公筋厚存込家業無油斷相勵品々奇特の義有之候に付御譜代被仰付其身一代佐州廣間役の次に可罷在且又爲御手當年々金五兩宛被下候段被仰渡。當時廣間役當分助内江清兵衛は若年の頃より金銀山向の儀厚く心掛別而中尾間歩の儀水貫間切いたし候は御稼方水貫可致と不絶心掛種々様々と心を委ね差はまり強く申立候に付間切御取立有之候處天保二卯年見込の場所え貫合、けたへの患相通れ水替御入用相減同間歩後榮の基本相立候に付翌辰年被仰上勤候内三十俵御足高被下右等は御奉公筋に付顯れ而の御稱譽に御座候。武藝の義寛政八辰年井伊兵部少輔殿より御在府朝比奈次左衛門殿え御渡の御書取に佐州地役人は武藝の心掛厚く出精の由

奇特の事に候此上猶出精いたし候様年寄衆等も有之候間其方より程よく可申達事如此御書面に御座候。其頃役人之武藝重に取立候は明和之頃青山七右衛門殿近習にて當地え相越候廣田文七は後豐平と改め當時御原同心廣田兵父元雲州之浪人にて安永之末當國え罷趣住居いたし無眼流之劍術居合左振流鎗術師範致し役人之若手多人數稽古深切に取立候に付天明八申年帶刀御免同心水主など出候群にて御禮相勤候者に被仰付前々より當地に傳り候鎗術劍術柔術も當時と違鍛練のもの多く自ら張合相勵候氣味にて次左衛門殿御目にも留り被仰上候哉と奉存候。寛政十一未年山本伊豫守殿御在勤之節御給人阿川權之助と申は藤堂和泉守殿藩中にて軍學功者に付執心之ものへ稽古御免し有之十人計り入門之内三人免許有之軍學之儀正徳年中石井三郎右衛門は甲州流に深く心を委ね候者にて其節御在勤北條新左衛門殿御用人松宮甲助は高名之軍學師に候へ共流義違候故三郎右衛門え入門血判いたし候程之儀にて其頃は稽古いたし候ものも有之候處久敷中絶此度軍學兩興相成候。享保二戌年蜂屋源八郎殿御在府之節佐州地役人江戸詰の内以前は上納金銀宰領御勤定仕上濟候へば歸國いたし候處實武術免許の者罷出居候節は御目見以下武術御見分人數之外曆十一己年より兩人も年々交代いたし江戸詰切に相成り候に御見分被成下候様若御年寄え御願有之其節詰會山西與三兵衛於植溜鎗術劍術柔術御見分有之白銀五枚被下置其後も御見分有之度々罷出免許取三人出合一度に御見分請候儀も御座候。文化三寅年土屋長三郎殿御在勤之節御給人永井森右衛門は田付四郎兵衛組同心之隠居にて砲術功者に付多人數入門いたし同五辰同七午兩度砲術取立として田付四郎兵衛組與力増木七左衛門被遣地役人一同稽古取立有之目錄請候ものも多人數有之其後文政五年山西八左衛門伊澤佐兵衛儀親代より田付四郎兵衛門入に付佐州砲術取立相續のため佐州鐵砲方と申御役銘兼帶被仰付其家に成代々世話いたし候に付今も砲術は

相應に出來候もの有之候へ共鎗劔術等之儀文化五辰年より御備向に付浦目付所相増壯年のもの多分浦目付役被_二仰付_一相川勤のものも文化之末より天保之初頃迄は銀山吹所向勤候ものは晝夜之勤にて武藝等稽古いたし候ものは不動之様噂いたし候時節故人にも寄可_レ申候得共稽古中絶いたし候もの多人數之儀其内師範のもの老衰又は死失等いたし有來流儀之内絶候も有之當時定役之内人物少きは右浦目付役にて惰氣を生じ文武之執行時を失ひ候故に可_レ有之哉此節江戸詰不_二相濟_一定役之内免許請候もの至て少く此後植溜御見分有_レ之節御支配向に罷出候もの無_レ之様相成候儀源八郎殿已後爲勵と被_二仰上_一候御廉も無_二御座_一恐入候儀に御座候。併未免許受候老人共も殘居候儀に付世話いたし候は、此末出精のものも出來可_レ申奉_レ存候。文學は西川藤内祖父藤兵衛保科季右衛門父喜右衛門初年より執心にて詩など相應出來藤兵衛は江戸詰の節片山兼山、喜右衛門は柴野彦輔へ入門藤兵衛は詩龍草應評して賞譽いたし藤内父藤兵衛も學才有_レ之兄藤藏も家聲を可_レ舉者に御座候處不幸にして短命可_レ惜事に御座候藤兵衛季右衛門に續き萬歲彌三右衛門と申者文學執心にて湊町醫師藤澤子山に隨ひ詩も可成に出來特操有人にて七十有餘迄平日綿布の外着用不_レ致木綿之鼻紙入木綿くもりにて巻留に文錢を用拾貳參錢にて調候桐油たはこ入に國産のたはこを用ひ如此儉約に候得共姪甥など片付候節は相應に合力いたし身分の堅固、側に居候人膝を甘け得不_レ申程に御座候吹分所定役相勤候節同所並役小田切仁右衛門是も儉約者にて鼻紙入をねこ木綿にて仕立彌三右衛門え吹聴いたし候處儉約は尤に候へ共是は鏈粉成方に用ひ候品にて町方賣買には無_レ之候へば定而其筋の場所より買請候儀に可_レ有_レ之聊の品なから心得方不_レ宜と異見いたし候由及_レ承彌三右衛門延寶の之頃には、本文の西村徳右衛門に劣申間敷を文化中地方掛助にて終り候は時運と奉

存候。當時廣間役田中從太郎は幼年より和漢の學に志厚く一國の爲には役人え學問を勤候外無_レ之由にて友を語らひ文化二丑年岩間半左衛門屋敷内に其空地を借二間四方の稽古所を取立廣業堂と號、朝夕寄合素讀會讀等致し學問詩文章時人並ふもの無_レ之軍學鎗劔の術を極め江戸詰御用の節林家え入門文化十ニ亥年水野藤左衛門殿御在勤の節右廣業堂の事御聞及御役所御園内へ素讀所御取立有_レ之從太郎始世話掛被_二仰付_一役人の子供稽古いたし候處文政八酉年今の學問所に御引移相成從太郎學問所預被_二仰付_一當時十五年以下にも四書五經小學迄の素讀出來若年のもの御書院にて月次講釋相勤候様相成候は從太郎其源を開候にて御座候。同人は繁勤學問教授難_二行届_一に付夷町醫師丸山三平と申もの元羽州酒田の産にて江戸え出學問いたし知人を便り當國え罷越夷町に住居醫師に成候を文政十亥年儒者に御雇人有_レ之候處近年病死致し候に付何卒御雇に可_レ成實學の儒者出來候様致度相待候義に御座候。右の通り御爲人の折に出候も寶曆の御改正且役人取續相勤候様被_二成下_一候故の儀に可_レ有_二御座_一文武の事如當時御世話被_二成下_一候上は追年御用に相立候もの出來可_レ申哉と奉_レ存候、役人格式の儀も追々品能被_二成下_一文化十二亥年定役の内年老のもの廣間役次席と被_二仰附_一供立其外都て廣間役同様にて年始には組頭尋も有_レ之文政元寅年より平日肩衣着用可_レ致旨被_二仰付_一候もの追々出來いたし右廣間役次席え組頭尋の儀并挾箱爲_レ持候儀廣間役とは御役筋違候譯を以て文政二卯年より相止め廣間役次席の内出精のもの年始五節旬御禮の節着座被_二仰付_一候ものは挾箱爲_レ持候儀に相成並役の内定役格に相成候は御代官支配中に始り使役に並役格は寶曆十二年同心に使役格は文化十三子年に始り申候。公事方の儀以前は公事方留帳役と唱へ手形改役兼合在方の公事出入は地方掛の内公事方掛り有_レ之取扱候處天明三卯年新規公事方兩人被_二仰付_一寺社町

方銀山方在方とも都て引請取扱候儀に相成席は小木定番役の上席の處文政八酉年より山方役の次に相成
 地方掛り頭取は明和五子年より始り地方掛一群の内にて筆頭の處文政九戌年より山方役頭取の次に相成
 吹分所定役は安永六酉年より始り地方掛助之次の所右戌年より赤泊定番役の次に相成金銀改定役は前々
 より有之買石を支配いたし候處買石は山元にて鍵直下ヶ等いたし候節近來山方役より金銀改へ掛合向
 等有之候得は役嵩に辟易いたし候儀間々有之、數年御直粉成中の儀買石共鍵目利方手弱にては御入用
 御費有之候故山方役の應對斟酌のため主役の役席御引上にて是又右戌年吹分所定役の次に被_レ仰付_レ候
 由及_レ承候然處金銀改役は多分山方役の手先並役等の内より被_レ仰付_レ候場所故御目付役の上席を甚氣の
 毒に存候由誠一體の席不都合の趣にて去る酉年右御役の次に相成申候本文に公事方方役に至る迄元文の
 頃より錢を爲_レ持候と有之候に付當時との御見合相記候序外役の移り替りをも荒増相認め申候。役人取續
 の儀は寶曆後安永四未年に至御切米江戸御張紙直段を以被_レ下候儀當分に被_レ仰渡_レ數年に相成候故年延
 御願の上引續被_レ下候内三分一は錢三分二金渡にて右金渡之分町方へ御拂之上御藏定相場四貫貳百文町
 相場之差違出目錢貸付利倍之上寛政元酉年迄元高五萬貫文餘りに相成候間金銀山御遺方のため上納仕水
 々御張紙直段にて被_レ下候様奉願候處願之通り被_レ仰付_レ同七卯年御拂米元書直段御仕法替に付右上ヶ
 切之出目錢壹圓被_レ下切に相成貸付方は是迄の通りにて利錢永々の御手當に被_レ成下候處右利錢引當出目
 錢拜借相願候に付一同取續文化の頃迄は多分借宅に罷在候もの共右御手當并金銀山御再興其外にて新規
 の御役所御取立御役扶持御役金を始め都て御手當筋一同え渡し候餘澤等を以て追々直宅相調當時借家の
 もの至て纒に相成難_レ有儀に御座候處數年凶作打續別て諸色高直とは乍_レ申近來は出目錢十ヶ年の年季を

不_レ待得_レ五三年返納いたし候人は夫丈ヶの分拜借いたし同心などは一ヶ年返納の分其年に拜借相願候様
 相成候は當時人氣高上に相成三四十年前は定役の内も重立候役と老人ならては袖相用不_レ申候處近來
 は壯年の定役格迄袖を着用致し使役同心などは以前に無_レ之下女を抱候様相成候故にも可_レ有_レ之又寶曆
 の頃に見合近年諸色の價二倍三倍も有_レ之他國より仕入候品子供の玩具類に至る迄皆昔の品柄は無_レ之價
 も品に准し候儀夫等のため家内多のもの抔及_レ困窮_レ候儀も可_レ有_レ之哉本文久左衛門すら祖父六郎兵衛を
 眞似得不_レ申こどく當時儉約をいたし候迎小よりにて髪を結出勤いたし候は_レ狂人とならては申間敷實
 曆九卯年備後守殿被_レ仰渡_レに嫁娶其外都て而祝儀之節は吸物盃事に限膳部之馳走一切無用に候と有_レ之天
 明二寅年石野平藏殿戸田主膳殿御交代之節被_レ仰渡_レには向後祝事諸事等之節過分に大勢振廻無用廣間役
 始無_レ據義にても一汁三菜尤酒は大盃無用に可致と有_レ之其頃は世上一鉢の華奢の時節之由當地も其以前
 より銀山の出方相應に打續世柄宜敷同年鳥越間歩勘左衛門間切鍵出し候御祝として大山祇境内にて御入
 用を以て御能有_レ之候節役人の子供等鼓太鼓の役割に出候由其時代のもは右等の藝も出來候へ其時勢
 の移替寒暑の往來の如くに可_レ有_レ御座_レ哉寛政中銀山向旦々御差止敷内留山損し候處は其儘捨置鍵の顯
 れ候所計穿候御所置に相成文化に至り衰微極り候節は役人始市中の困窮存出候にも冷氣を覺申候其後御
 再興にて莫大の御入用市郷え順通り役人への御手當も有_レ之候へ共文化の度之心組にて貯等いたし候者も
 無_レ之只に盛衰共銀山につれ候風俗古今一轍に御座候。併當時は遊藝に耽り候もの無_レ之子供等は多分小謠
 も不_レ存趣に有_レ之其代りには素讀武藝等是不_レ存者無_レ之様相成候は文武稽古の御場所御取立被_レ下候故に
 御座候。儉約の事毎度嚴敷爲_レ申合_レ候へ共兎角世に連れ怠り安き方に有_レ之歎息いたし候儀に御座候。先

達て百姓共騒立一件御吟味に付地方向のもの御咎被_レ仰渡_一候間諸向とも音信の儀并儉約の義とも役人一同堅く申合候上は何卒厚く相守二百餘年の御國恩を相辨へ實意の御奉公を以家名永久相續の儀心掛候様爲_レ仕度希候儀に御座候。

一當國農家風俗の儀往古地頭分領の節より文録年中迄の儀憶成書記も無_レ之不明に御座候。或書に上杉景勝より佐渡の守護に破_レ差置_一候九人の内川村彦左衛門慶長二酉年年貢の吟味有_レ之同五十年九月檢地の水帳差出し此節全く地方相極り候由又或説に慶長四亥年檢地有_レ之以前の荷帳を石高に直し斗代八斗四升に成候由但無_レ竿にて田面見積りの分にて是を中使檢地と申由に御座候。其後慶長六己年當國一統御當家え屬し右彦左衛門殿も四奉行の内え被_レ召加_一右亥年の檢地を川村檢地と申傳候。翌々卯年四奉行の内吉田佐太郎殿本途の五割増の御年貢被_レ仰渡_一候儀越度の筋に相成候段舊記に相見え申候。此年は始て御巡檢衆も御出のよし及_レ承候。元和三己年屋敷檢地有_レ之此御年貢銀三十三貫六百十三匁始て上納に相成申候。同年諸入用帳面に米五十三石五斗鎮目市左衛門竹村九郎右衛門井上新左衛門御扶持と有_レ之米十二石三斗二升安藤彌兵衛己正月より三月迄御扶持方と有_レ之米六石三斗九升五合屋敷檢地仕候もの扶持方に渡と有_レ之此年迄は田邊十郎左衛門殿御支配の處右四人の衆は屋敷檢地の儀に付江戸表より被_レ遣候と相見え申候。翌元和四年年閏三月より鎮目市左衛門殿竹村九郎右衛門殿御支配に相成田邊十郎左衛門殿より引渡勘定帳の寫に右の譯有_レ之候。是又元和三己地方御成箇の辻二萬三千三百二十三石四斗六升と相見申候得共屋鋪檢地の致方等委敷書物の儀は正保四亥年の大火に焼失仕候哉御役所にも無_レ之由兼て承候。元和四年河原田城の古家御拂代銀五貫二百卅八匁一分と御勘定目錄寫に有_レ之翌未年小木御城造作入用銀四十一匁五分米五石九斗四升

七合と有_レ之候を相考候得ば小木は入津の場所殊に越後路近く候故此節迄も御用心御取締に御修復被_レ遊候哉河原田は國中にて其上船入津の場所にも無_レ之故城古家御拂に相成候哉と奉_レ存候。其後正保二酉年正月伊丹播摩守殿御支配の節御在府に付江戸よりの御用狀に佐渡國中新畑に油に成候菜種爲_レ蔭候様被_レ仰遣_一候段古書に相見え候此儀は其節逆も一向菜種蔭不_レ申義にて有_レ之間敷候處以前は銀山御入用の灯油多く買入の節に候間地絞油の仕入に被_レ仰付_一儀にも哉と奉_レ存候。新畑と申候は其近年見出し候畑にても有_レ之候哉此外書記等見當り不_レ申候故不明に御座候。慶安二丑年始て牛馬他國え賣出候儀被_レ仰付_一馬は十分一牛は二十分一賣主買主双方より等分に分一運上可_レ差出_一但さうやく、めうじ(牡馬牡牛の方言)は御停止の旨に候。是は前々より御停止の品にて一國限の賣買故自然と下直にて賣主及_レ難儀_一候に付願之上被_レ仰付_一候由傳承候。是を牛馬他國出の事始に申傳候。承應元辰年岡本武兵衛河原田八郎右衛門と申もの相願初而鹽濱被_レ仰付_一候。是迄内海府の者鹽竈を仕立潮を其儘汲入焚_レ之候に付薪の入目多ことに候。此度願候濱にて鹽致候儀只今迄無_レ之薪坏も多入不_レ申候以後大分鹽出來國中爲_レに候由申立被_レ仰渡_一候段舊記に相見申候。此節迄は鹽燒之儀不_レ功者と相見へ申候。是等は往古と違ひ當時は數ヶ所より仕出し申候。且つ又寛文年中若林六郎右衛門殿御支配の節佐州御家人何れも小給にて御奉公申上候得ば諸事可_レ爲_レ不_レ勝手_一候間於在々百姓_一障無_レ之明地を新田畑場所に見立候様被_レ仰渡_一所々にて見立相願候處場所御吟味の上障り無_レ之所は被_レ仰付_一當時も田畑持傳居候ものも有_レ之又は賣拂候者も多く御座候。是にて相察候得は以前は地方の吟味も細密には無_レ之ゆゑ空地等も有_レ之候故元祿の檢地も左可_レ有_レ之儀に奉_レ存候。扱亦會根五郎兵衛殿御支配延寶四辰年前年卯地方米五千石始て江戸廻に被_レ仰付_一右之内二千五百石は悪米故相納り不_レ申右廻米御

用に被_レ遣候役人於_二江戸_一願の上金納に被_二仰付_一候。翌己年より戊年迄六ヶ年之間年々百姓共より依頼江戸廻米相止佐州仕拂米一石の直段に一二匁宛高く銀納に仕候。其後右御沙汰相止候哉御勘定方書物等にも無_レ之よし承候。右等は皆々古書之趣とは乍_レ申其世の風俗は難_二相知_一候。併前條諸役人の部に相記候通元文年中八幡村邊の老人其節の在方役在出の行装を見申候て其老人寛文の昔を語り後世の奢を嘲り候躰にて相考候得は百姓も往古は物每實體に有_レ之と相見え申候。然共當國は金銀山國にて古來より在中にも數十ヶ所銀山砂金山銅山等有_レ之候間往古鶴子相川等の金銀山の繁華に連れ外國の百姓とは格別の暮方も理りに奉_レ存候。其上元祿二三年の頃鈴木三郎九郎殿御支配迄は地方定め高二萬四千三百石餘の内千二百石餘は前々より諸引方に相立殘二萬三千石餘の御物成にて御取箇低く候故自ら有徳の百姓も數多有_レ之候處元祿四未年萩原彦次郎殿御支配に相成り其年より御取米増右古高殘の二萬三千石餘を一倍程に被_レ成其外地子銀納三十八貫八百目餘野手山手の役畑役等の米八十八石餘此二口銀米も前々の通外に御取立在々郷藏六十九軒御建被_レ成其上翌申年も取米相増翌々酉年より戌年え掛け檢地有_レ之戌年分米高十三萬三千五百九十九石九斗八合に御極此取米五萬五百石餘外米八十六石餘は野山役如此御入箇相増申候。但檢地以前は右書面の通地子銀外立に相成候處檢地後は高え入屋敷年貢に相立候其外畑役米畑役銀稗大豆小豆大麥小麥等の年貢銀納并胡麻蘆麻漆唐苧等の銀納共印銀一貫七百四十目餘米一石五斗餘は是又檢地以後畑方取米に相成候。且又檢地以前在々にて一圓御免の廿六品此印銀八十四貫二百五十六匁二厘米千六十二石七斗八升五合二夕の由及_レ承候。尤是は銀米共年々不同の筋に奉存候得共御免之節の高と相見え候に付覺書を以て書記申候。畢竟在方は二十六品の御免と申儀にて御座候。然上銀納等之御手當も數多有_レ之候處近江守殿御支配の年曆も久敷其

内銀山之盛に連れ世上も甘き段々花美に暮り候得共在々えの潤澤は相川より手遠き方其上新檢地被_二仰付_一候一件に恨を合候哉正徳年中に至り御巡檢衆え百姓共密訴差出候。同二辰九月近江守殿御役御免跡兩奉行被_二仰付_一夫より御一人宛御在勤に相成折角百姓申立候分米高之儀も其儘被_二差置_一漸銀納増候て御手當之筋に被_二仰付_一候得共是亦石代平均高直に相成候へは公儀之御損失は無_レ之趣に罷成候儀百姓共の願も却而自己の害を招候。同前之儀尤百姓にも不_レ限都而當國の人柄は邪智奸計多く密訴等之筋を不_レ絶心掛け候者歴々にも有_レ之由兼而及_レ承候。是偏に小國の風俗を顯し候と奉_レ存候。但大體は右の人柄に候得共一國所にて人心格別成違ひ候も御座候。

追 加

萩原近江守殿檢地取米高は相増候へ共田方半分銀納にて其銀納も御藏米の半直段に候得は百姓の痛に成候筋は有_レ之間敷處正徳の巡見衆へ百姓共密訴より追々江戸表之御沙汰有_レ之哉にて享保四亥より卯迄五ヶ年は田方取米高之内三分一引殘は皆米納畑方も三分餘引にて御藏米直段を以て相納田畑取米合三萬八百石餘に相成候へ共公儀之御損は無_レ之後五ヶ年は新田畑荒地起返等にて百石餘相増享保十四酉より丑迄五ヶ年は右之外二千六十石餘相増寛保元酉年猶千石餘寛延元辰年御勘定方出役有_レ之五千六百六十石増翌巳年三千六百石増米にて四萬二千二百石餘に相成候に付同三年百姓共の内右増米難澁其外數ヶ條申立御勘定奉行衆へ訴狀差出御在府御奉行え御引渡に成り寶曆元未年於_二當地_一御吟味有_レ之右増米は有毛を以て取極地位相當の儀の處難澁申立候儀其外訴狀の趣御吟味の上夫々御仕置被_二仰付_一翌申年より諸掛りもの御免の代り御料所并御藏米入用六尺給米高掛り被_二仰付_一同年見取場檢地立毛檢見等にて尙又取

米四千九十石餘相増四萬六千二百九十石餘に成り其後新田畑畑田成等にて當時四萬六千七百七十五石五斗八升六合外反高見取等の取米八十石九斗一升三合に相成田方四萬二千八百六十四石餘の内六千二百六十石は石代納にて殘は皆米納畑方石代は寶曆以來金壹兩に銀六十目錢四貫二百文の定相場の處天明四年より定相場相止市郷并越後相場をも平均候事に相成錢六貫文位より追々相増當時七貫文前後に相成り右割合の相場にて石代納いたし元祿の頃に見合候ては當時の御收納格別相増候へ共尙餘徳有之哉田畑は手入も不_レ宜在中奢の風俗に移り候は四十年前に見合候ては打替り候事にて所々料理屋髮結床坏出來候は是其顯れ候所に御座候。重立候ものゝ家財調度妻子の衣服等過分の事に及_レ承元來土地宜_レ耘耕の勞を重ね不_レ申とも相應に出來候故本分の業に不_レ悉世上の奢に連れ夫食に米を費し凶年の難儀を忘却いたし候は淺猿敷義に御座候。本文に正徳の密訴却て百姓共自己の害を招候。同前の儀と有_レ之候處寬延の江戸訴は辰巳兩年に八千七百石餘の増米を愁訴いたし却て其上に四千九十石餘の増米を請け間もなく寶曆五六兩年の凶作に夥敷餓死人有_レ之候も自ら招候歟と奉_レ存候。其後御奉行御支配に立戻り時々凶作は有_レ之候得共夫々の御手當且龜地貧村等へは別段時々御手當も有_レ之文政十一年已來十ヶ年餘打續候凶作にすら餓死人等及_レ承不_レ申品々厚き御手當筋被_レ成下_レ候御仁政の難_レ有_レを不辨又候去々戊年口米免除の儀上山田村善兵衛開口いたし候より徒黨をよひ一向不_レ取留_レ儀ども數ヶ條の訴狀巡見衆え差出候儀等は申さは井の内の蛙にて世界を不_レ知身分勝手存付に例の奸邪の者共類を以て集り夫より手廣く申勸大事に至り重き御仕置に相成候儀誠に一國の恥辱に御座候。乍_レ去是も時運に可_レ有_レ之哉今更致方無_レ之一體田地多く畑少の國故田方の不熟には早く夫食に差支候處年來御世話にて調候助合穀も銘目

而已に可成行村方も有_レ之哉の趣其上御藏御圍初も文政以來米減に相成當時廣惡倉御主法も替り候ては此上凶年の節御救の御主法有_レ御座_レ變度義に奉_レ存候。

一澤根町は船入津の所故人心不_レ宜其上相川近在にて日々通路繁_レ候間自然と公邊馴候風俗にて上に立候人え尊敬薄_レ尤何方逆も船津は實意薄_レ候處當所は猶更に見え申候。所より仕出候商物等も無_レ之持寄の販にて致_レ渡世_レ候。五十里村は魚獵も有_レ之別て身元輕き者にて茶屋女の類を取抱候故一入風俗賤_レ御座候竹細工等少々仕出候者も有_レ之候。但澤根五十里兩所共近年地酒を能作覺候もの有_レ之二十年以前とは格別味勝れ候よし是等は後々繁昌の基にも相成可_レ申哉且又往古澤根問屋役地子銀相納來候處澤根町退轉の體にて度々訴出依_レ之萬治元年御手洗_レ四兵衛殿御支配の節御免被_レ仰渡_レ候。同年正月より三月迄三ヶ月分銀百七十三匁三分御免の由に候間一ヶ年にて二貫七十目餘に相見申候。

追 加

澤根町の風俗己前に相替儀も無_レ之趣相聞五十里村に茶屋女の類取抱候事は以前は地付に抱候儀有_レ之哉難_レ相分_レ天明の頃より冬春の内小木町飯盛とも口過きに出國仲筋又は相川のもの共入込候由にて享和の度隱賣女の御仕置有_レ之其後も風聞は有_レ之候へ共差押候儀無_レ之文政の頃より澤根五十里船宿に洗濯女差置候事に相成候處事實は小木の飯盛冬春の口過宿故近年御差止相成申候。澤根五十里地酒造候事は手廣に相成右村に不_レ限國中造酒屋相増出來宜候へ共何方の酒も匂ひ無_レ之は小國にて長流之水に無_レ之故の由に御座候。地酒多分に出來候得共越後より入込候酒不_レ少義は先は遠來を賞翫いたし候奢の氣味故にも御座候へ共品よろしく下直の方に有_レ之此見合有_レ之候故地酒の價猥に騰踊不_レ致由に御座候。五十里田

中にて冬春の内生海鼠漁いたし以前はヤス取故繰にならては揚り不_レ申候處明和の頃俵物請負の者地引投網を仕立相渡爲_二引習_一候所其後格別揚り高相増候由二見村は同漁場續に候へ共何分投網を引得不_レ申乍_レ去十尋も底の生海鼠をヤス取にいたし候は業の長し候儀にて他の不_レ及所の由に御座候。

一河原田町は在より相川え通路の阨にて賣買の便宜候故前には繁昌の所にて庄屋共も多く茶湯連歌等其外遊藝を専嗜候ものも多く相川に差續候場所の處近年は有徳のものも無_レ之一在所衰候躰に相見候。小身の者は有徳人の餘慶にて當分の身過を致來り一廉の商物を仕出し他郷へ幅り候稼方は無_レ之店え出し置候賣物も一通りの小商にて表立候有徳人潰れ候得は自然衰微仕候も理りに奉_レ存候。尤此所人心以前より質素過る故歎方言に河原田湯漬と進食挨拶一申候て挨拶一通りの諺に申候。但きせるを張り櫛を挽候者近來町内に有_レ之。鍛冶町にては鉄及物細工等仕出し候。且又此所の庄屋河崎屋中山名乗申候一家の者は何れも以前は豊饒に暮候。其一类の内中山玄亨と申醫師享保の中頃より出京學文を勵み則京都に罷在隨心院御門主御家來に罷成り其後九條家え御移轉の節被_二召連_一候法眼に迄相成當時も存命に御座候尤篤實の人柄故右の通幸を得申候處猶又前段に申上候通此所の風俗質素に生育心掛も宜候故第一京住居の暮方にも符合仕候哉勿論立身の要用等にも佐州親類共よりの續け金は一向用ひ不_レ申程に堅固の人物と及_レ承申候。其外河原田町左平次と申者雲竹流の筆傳を得候て其後手跡の申立にて牧野駿河守殿え抱に相成候よし何れも其土地の幸ひと奉_レ存候。

追 加

河原田町の風俗昔に敢て替り候儀無_レ之本文に有之候中山玄亨は終に 禁裏の御醫師になり忝玄同孫玄

又も法眼に被_レ成候由玄亨出國の節相川の醫師横地玄常と一緒にて玄亨は 天脈を窺候を期し玄常は公儀の御七を期し互に誓ひ相別候處玄常は水戸殿え被_二召抱_一既に可_レ被_二召出_一との義にて無事尋も相濟候處病死いたし玄亨は八十有餘之壽を保候故志を遂候由元祿享保の頃は當國すら右等の人物も出候儀日本人傑多きも尤に御座候天明中中山貞藏と申も河原田より出京都にて儒家を立聖護院宮の侍講に相成申候。安永天明の頃河原田町法花長兵衛と申もの西濱刀禰、四日町長石邊の濱地等新開願請松苗植立畑地切開候節は所の者不得心に候へ共御役所の御世話御手厚故差障不_レ申由の處追て村方へ讓請追年其餘澤を歎び候由河原田町重立の内六人享和二成年大地震の節小前救ひ等手厚にいたし候に付御褒美の鳥目被_レ下候處右御褒美の儀を難_レ有存存々とも小前困窮のものを救ひ候元立にいたし度旨申合六人のもの年々順番にて預り利倍いたし小前の者病難其外非常の節救等いたし候に付外重立の者も及_レ承元錢加入いたし利倍の上救方取計候に付小前のもの共重立に懐き罷在候由右六人の内六兵衛と申者は名を千鶴號を松齋と唱へ京都小澤廬庵の門人にて歌の師範を被_レ免候高弟の内有_レ之書を京都知足院無幻に學び候。後古法帖に心を委ねよほご立越候ものにて京都にても短冊など乞求候由近年相果て申候。此町にて安永の頃より竹の皮柳の皮の笠を仕立候儀女の業にいたし多く仕出し他國えも賣出し其外家大工の道具鋸鉋等の類都て他國より買入候處十四五年前より此所に仕出し候鍛冶出來國用を辨じ反物古着等他國より買入在相川持歩行候商人殖四十物師等も出來都て渡世向能相勵候に付只今の姿にて年を経候は、有徳の者も出來可_レ申趣に御座候。此所安永年中より大坂御廻米の内最寄村々より附出津出場に相成候に付御藏出來所の販ひにも相成候處文政の末より御廻米高減候故津出無之天保五年御藏類焼いたし候。

一辰巳村は享保の末山田村太郎右衛門と申もの願の上一村致_二開發_一候。風荒き砂地に苗木等少々植付漸村の體に相成候得共反高六町七反九畝歩斗りの所にて畑作物も生立不_レ宜よしに御座候。右開發人太郎左衛門と申ものは右年曆の頃新田畑開發等の儀に付在々諸向肝煎名主七人被_二仰付_一候由にて本間を名乗御給扶持等被_レ下御雇町人並に年始御禮等も相勤候。併大事を巧候人柄故去る末年御吟味有_レ之候。江戸訴の發頭露顯に付御仕置に相成申候殘六人の内にも御仕置被_二仰付_一候者共御座候。

追 加

此村濱邊松_レえ追々松苗植出し見取畑出來作物も八幡に不_レ劣様出來候由に御座候。

一八幡村は耕作の隙に男は桐木細工等多く仕出し且芋瓜類能出來其外茄子小角豆青物の類多く作り候を女は此女ヲ方言ニ入此女ヲ方言ニ入婦アネコト申候毎日籠に入れ背負相川え出商申候

追 加

此村は男女の稼昔に替り不_レ申安永年中拓植三藏殿國產の事御世話有_レ之藍艸を作り候事所々にて試候へ共出來惡候由の處天明の頃旅僧の傳授にて此村最初に作り覺え村中にてよほど出來候へ共製方を不_レ知故葉藍にて他國え賣出し申候。河原田町紺屋彌兵衛能製し覺他國藍に不_レ劣相用申候。此者國中の葉藍買込製し賣出候は_二國益_一にも可_二相成_一候へ共元手無_レ之自分の遣用にのみ製候儀にて惜き事に御座候。

一四日町村新町村邊は鹽を燒商ひ申候四日町は葛籠等の竹細工を多く仕出し候。尤當用の品にて佳品に無_レ御座候。芋瓜類等をも作り出し申候。新町村は近年有德のもの有_レ之候故歎々村柄宜相見へ申候。此所は國中の方小木赤泊の方の所故中買の品取揃宜故に候哉所も段々潤ひ申候。四日町の人柄は理強_ク候歎々同處

兵右衛門と申もの發頭にて寛文中留守居役奥野七郎右衛門儀を及_二密訴_一候。此一件前段に相記申候。

追 加

四日町長石の濱側空地河原田町法花長兵衛開發以前は道中筋より吉岡地所迄濱砂を吹上道を失ひ通行の者難儀及び候由の所植立候松苗成木いたし畑も出來通行のもの砂雪吹の患を通れ候は其功に御座候。新町村有德のものは不_レ仕合打續相衰へ且文化の頃より名主混雜にて村内不_レ熟故自ら衰微に相成候由の處近年時代替り一和いたし候由に付追々立直り可_レ申哉此所に腕師有_レ之民家の遣用に賣出し申候。新町村伊兵衛と申者基を能圍み初段の免許の由長畝村十右衛門瓜生屋村仲右衛門も初段の由の處此兩人は近年相果申候。何れも入用を費し江戸表におゐて稽古いたし候へ共二段に至り候もの無_レ之候。小國にて智恵も狭小故の義と奉_レ存候。

一眞野村に有_レ之 順徳院御廟所の儀堅五十間横五十間之所延寶七末年九月 公儀より被_レ遊_二御寄附_一候。但御老中方御證文は御勘定所に被_二差置_一御勘定所より書替證文の趣佐州雜太郎竹田村の内高八斗七升九合七夕の所眞輪寺え御渡可_レ有_レ之由の手形曾根五郎兵衛殿え被_レ遣候段及_レ承候。然處享保六丑年九月京都町奉行兼諏訪肥後守殿河野豊前守殿より佐渡御奉行北條新左衛門殿え被_二仰遣_一候は陵の儀御尋被_二仰出_一拙者共御役所にて致_二吟味_一候に付申入候。佐州 順徳院御火葬所は雜太郎眞野村に有_レ之候所は御林山にて候哉百姓林にて候哉御吟味被_レ成御報に可_レ被_二仰聞候_一。若又右違候義も御座候は_二可_レ被_二仰下_一旨にて端書に右陵の儀佐渡にては陵と申候得共御火葬場にて陵は城州に有_レ之書上候。此段難_レ決可_レ有_二御座_一存候。但遣成證據の書付御座候は_二可_レ被_二仰聞_一由の御紙面に御座候。依_レ之新左衛門殿よりの御答書の趣陵の儀御尋被_二仰

出御吟味被成候に付佐州 順徳院御陵の儀御問合致承知候此方えも先達て御尋有之吟味の上佐州雜
 太郡竹田村の内眞野と申所に 順徳院御陵有之候と書上申候。委敷儀は入不申由に候得共委細の由緒承
 届置申候。尤百姓山にては無御座園の内は御寄附地にて御座候。 順徳院御在世の節眞輪寺阿彌陀堂を
 皇居に被遊彼堂にて 崩御に付眞輪寺境内に奉葬候故 御陵眞輪寺奉預候。惣別當は國分寺の由に御座
 候御陵御園ひ御寄附被仰出候は延寶七末年九月其節の奉行曾根五郎兵衛表判にて御老中方御勘定奉行裏
 判の御證文順徳院御廟所に付被遊御寄附候よし有之候。御火葬と申儀沙汰不承候如斯御答書に相見へ
 申候。是等の御贈答は御廣間の留帳に相見へ申候處先年私書役相勤候節右以後小濱志摩守殿御在勤の節又
 々御贈答有之京都よりの來狀并志摩守殿よりの御答書に 陵とは不奉稱由の一件寫有之候様に覺申候
 處先年類焼いたし候哉當時は無之よしに御座候。且又新左衛門殿御在勤の節京都より御尋狀端書の趣にて
 は陵は山州に有之儀決定と相見え申候。其上私或書に見當り申候は仁治三寅年 佐渡院の仙骨を大原法花
 堂に納むと百鍊抄に有之由見え申候。左候得は佐州に有之は灰塚と申す説符合仕候様奉存候。然上敷以
 前より眞野村の御廟と人々奉稱候事に御座候」
 一 濫手村は丸木船を造り磯獵を專にいたし小鯛鯉鯖等を多くとり干魚を商ひ或は生海鼠を取りて串海鼠を海
 賣出し申候。新町村の隣郷に候得共風俗は格別卑賤に見え申候。

追 加

生海鼠五十里田中同様地引だも相用ひ能く揚り候年は三千斤にも及び國中隨一の高をなし候場所に相成
 申候。

一 笠川村は文祿年中以來砂金山の場所にて人柄も金銀山風に情弱成等に御座候處在中故敷左程にも無之其上
 此所當時者孫右衛門と申者祿人の頭に立罷在律儀強氣の體に相見候間末々の者も其風に連れ候哉且又此所
 を笹川十八枚村と申儀に付愚案の演説申上候。往古砂金を何枚と申候譯の事享保八卯年五月小濱志摩守殿
 御在勤の節御役所御土藏書物調被仰付慶長十九寅年の御勘定帳に砂金五拾九枚八兩貳朱と有之事實如
 何の旨御尋に付其節の廣間役打寄評議仕候得共不_二相分_一御勘定方え相尋候ても不分明に付後藤の者え相尋
 候得は右の者申候は古來より後藤にて金拾兩を一枚と唱來候然者砂金も拾兩を一枚と可_レ申哉と相答候由
 其外古來の覺書に武州判の事大判一枚此金拾兩渡同一枚此金八兩判金一枚此金七兩貳分と有之を以て考
 候得は右砂金五拾九枚八兩貳朱と有之候は大判一枚此金拾兩の節の砂金積に相見え候。然を笹川十八枚村
 と名付候は往古_{一ヶ年或} 金百八拾兩の請負等にて砂金山相稼候場所にては無之候哉と奉存候。且又金山
 蓬艾_{ヨモギ}は金氣有之候故敷灸治に用ひ宜敷候よし申傳候。火打角石は近年宜き立合出不申候由承候。紫石は相
 川銀山より出候石よりは堅く候て細工に致宜敷御座候。

追 加

一村の砂山追年割流し近年稼候山は砂金少く渡世に成不_レ申候故地拂米等の御手當にて稼取續纒宛なか
 ら砂金の出方は有之儀に御座候。
 一 背合村より田切須村邊迄は以前稼捨の銀山銅山鉛山等古間歩數ヶ所有之_レ前山_{小佐渡の儀}の内にては此邊往
 古より銀山相稼候場所に御座候。倉谷邊は地面に應候哉牛房の出來宜御座候。其外右村方の邊にて雷斧石
 を拾ひ申候

一 小泊村椿尾村は耕作の外石臼石佛の類を多切出し渡世の便に仕候。海邊は村並より遙下りに御座候故魚獵等は無之候併此邊の村方は都て隙の節は汀へ出海藻を取艸の助に仕候よし。

一 龜脇村堂釜村は海邊の小村にて家十二三軒宛有之の高七十石餘宛の村柄に御座候。龜脇村より堂釜村え之間三十町計の所白砂故素濱と號し候。此兩村往古は至て人心惡敷荒氣色の時は村のもの右素濱え出戸板を立て其陰に火を焼き右の戸を船の帆影に見せ沖に漂流の廻船是を見附先船に火を上げ候と心得其所え馳來荒磯故及破船候を村の者共押掠海賊をいたしその死骸を山際に埋の隠置後年に至り爰彼所より骸骨出候段及承候。其外適に往來人有之入夜或は雪中等には追剝杯致候由堂釜村の儀延寶七未年七月二十日より二十三日迄の大雨に百姓持の田地屋敷共地形堅二百六十間横百八十間の所後の大山崩掛り、かけ口三十間又は二十間沈み海面え數町突出し家八軒田畑共に潰れ候に付古高十六石九斗五升二合の内八石九斗八合九夕永山崩引方に相成候御證文の留有之候。是を堂釜崩れと申傳え候。

追 加

此邊の風俗昔に打替り農業海獵を勵み海賊追剝など企候儀は無之由に御座候。

一 井坪村邊より澤崎村邊迄は何れも魚獵有之。磯に平瀬多所ゆへ御崎海苔逆雪海苔を名産にいたし若和布も干候て御崎の名を稱し賣買仕候。通り筋に無之故人柄も片屈に土地相應と可申候。澤崎村は南の端にて潮荒き所に候得共囀有之船拾艘斗も掛り申候。古書に和銅五年子五月十五日望貞居士と云者又一説唐居士ト有之候 崎え渡り佐渡國を開基尤最初者一國一部にて雜太郎と號し棹崎を村の始といたし後改て澤崎と云。其後委老五百年四月雜太を分て加母羽茂二郡を置き後代加茂と書改候よし申し傳候。

追 加

享和二成年の地震に此邊より小木赤泊邊迄別て強く震候て潮引沈瀨立上り候後海苔多く出來實に干立國中え商ひ以前より潤助相増候由に御座候。

一 深浦村は澤崎の隣郷に候得は是又潮荒き所に候得共囀有之船四五十艘掛り申候。尤魚獵有之但出崎に候故此邊は海底魚通路筋に候哉時により多く揚り候由尤獵船乗出の節毎日其刻限には船支度仕汀え下し互に相圖の聲を掛け一拍子に乗出し其後は櫓械の働次第に其場所え至り獵致し候由如し此風俗は此邊に限り候旨及承候。此所鷹の巢有之享保五十年巢鷹始て河野勘右衛門殿江戸え御持參御差上被成夫より享保十三申年まで九ヶ年御鷹度々被差上候由當村の鷹別て多御座候由及承候。

追 加

澤崎深浦より小木村迄多分皆畑村にて田地ハ纒宛御座候得共享和ノ地震ニテ水切ニ相成リ小木村斗リ米納有之 男は廻船の船頭水主に被履候もの多く耕作は重に女の業にいたし手作の麻にて布を織賣出し男女とも稼に精を入れ質素の風俗に有之宿根木に身元宜き廻船持も相應に有之候處近年廻船不引合身代衰へ候由に御座候。

一 小木町の儀者當國一の湊にて入津船多く外との囀は別て碇掛り宜敷候よし。猶又北國第一の湊と申傳候得共荷場にては無之潮掛りのみに御座候。且當所え來候船の内新潟え米積に參候先後船と申は新潟え直に罷越候ては參着先後及出入川湊故入込の節は川口にて難船等も有之候に付先づ小木え罷越問屋の内其世話致し候者の方え斷之小木え之遲速により先後を極船方え番附を相渡扱新潟え參り候得は彼地え着岸の前後に不三相拘小木にて究候先後の印を以て次第を分け新潟にて米船積爲致候事故風筋日和等の善惡に不

構小木湊え着岸致候儀に御座候。勿論當所は外の産業無之都て船方旅人の宿成者遊小宿等にて身過をいたし茶屋女體のものを抱へ拙き暮方の者多く重立候者の内にも至て有徳のもの無之少にても旅人より置錢を多く取事を勵候風俗人心以の外不_レ宜所に御座候。其上國仲邊え通路惡敷候間一切のもの運送多く掛り諸色高直にて候。併他國より買入候品々は夏頃船往來不_レ絶節は下直に候得共此所に買入置候儀にも無之相川其外國中或者近邊の在方より買ひ來り船より商候間秋冬に至り日用輕き品も拂底に相成り縦は茶碗鼻紙の類迄相川より取寄候程に行詰り不自由成所に御座候。且大湊の風體故以前竹木類其外他國出御停止の物當所より抜出の取沙汰は無之由及承候。但當所は眞瓜を能く作出し申候。當國にて最上味宜しく御座候。海獵も有之候得共船入込の時は近郷の獵師共も此所へ參り魚商申候。且又寛島と申磯山に篋竹生但矢島と申候往古者江戸表え被_レ差上候よし及承申候近年は宜竹者生へ不_レ申よしに御座候。

追 加

小木湊は享和二戌年の地震にて干瀉多く出來廻船の掛り場所以前より減じ内の囀は格別遠淺に成小船の通路不_レ宜に付磯の左右に升形と唱堀を穿是より乗出し候様干瀉の間堀割いたし上みの升形下もの升形えも船通路相成候様磯通堀割出來是を三味線堀と唱候處其後高波毎沖より砂打込度々渡へ囀内の模様も替り候に付三味線堀埋立田地に相成候處文政の末にいたり右田地の場所并以前の濱側屋敷尻の所と兩側家並も新濱町に相成家敷人別は相増候へ共近年廻船稼不_レ引合_レ由にて船方滞船いたし候ても置錢を厭ひ宿へ揚り候者少く上方より奥州松前往返の船外と乗と唱へ相川沖を差渡し隠岐國より直に上下いたし小木へ入津不致候故一郷次第に衰へ候由に御座候但本文に茶屋女體の者抱へ候と認有之候は元祿の頃迄此

所の遊女人別當りにて月々御役銀有之名目も遊女の別名に認め柄杓役と申銘目にて御番所役取立相納候

處元祿四未年より相川山先役小木町柄杓役とも御赦免に相成山先町は正徳五年今の水金町へ移り御役錢相納年曆不知候得共小木町は無役故年曆を經候に隨ひ昔の免除を存候もの無之自然と内証ものゝ様に相成

當時歛賣女と申名目に付去る亥年より宗門帳にも右銘目を記し差出し候事に相成申候

一小比叡村の百姓は萬端風俗別段に御座候。蓮華峯寺私領に御座候間理には奉存候へ共縦ば御奉行御巡國の節一統の觸書等差出候に村附の所無印形にて次村え送り候類多く御座候。他國道中筋私領の所には、人馬觸次等別て御料所よりは大切に仕り候處當國は猶更一國御奉行の儀其上寺社御支配に候へは如_レ此危略之弊に無之道理に奉_レ存候。併し百姓偏に不埒とは難_レ申是等の儀も蓮華峯寺申渡し置候儀と奉_レ存候間以來之儀格立不_レ申重公用候様規定仕置度奉_レ存候。

追 加

當時諸御觸事蓮華峯寺宛にて差遣し小比叡村へ宛候義無之同寺御朱印領前々より人馬繼立候儀無_二御座_一候。

一羽茂本郷は土地宜く五穀豐熟の年多く候故自然と人氣壯なる風俗其上耕作の外女は布木綿を織り男は産苦等多く織出し或は身元宜しき者は菅原の社僧に便り候て連歌を興行し又は此郷に名を殘し候一破流の劍術を修練の者數多有之至て健成人柄の所に御座候。然上支配の役柄より龜骨の事杯萬一申掛候ては一尙不_レ用之黨を成候て其非を挫き候程の強精にて奸邪の徒には無之由及承候。此所川魚の獵有之且又羽茂太郎と申事久知次郎八幡三郎畑四郎杯何れも土地を稱ふる民間の諺にて御座候。

此村之風本文之趣にて寛政九己年村役人重立共へ被仰渡に平日の取計正路に行届候故小前の者共心入も直路に相聞奇特の旨にて鳥目被下候處其後重立共時代替り心得方不_レ宜者出来取示し方届兼候哉手踊环致し在中徘徊致し候者出来或は博奕の風聞に抱り候者度々有_レ之願事坏も外村に替り候儀無_レ之様相成近年不作中小前の者取扱方坏も不_レ宜由上山田村善兵衛徒黨一件には村役人重立共も加り小前を引連小木湊へ出候程の儀にて以前とは格別の違ひに相聞え申候。此邊密柑九年母の類出来候へ共形小く皮厚く酸味強き方に御座候。此外國仲筋海邊附等には鉢植にて手入能く不_レ致候ては更に育ち不_レ申袖は國中澤山に出来申候。

一 大石村は羽茂の隣郷に候へ共土地は不_レ宜所の由に候。且又此所近年は他國御拂米の津出場に相成候故村々より廻米等も有_レ之日々雇仕事坏以前とは格別近郷とも賑やかに罷在候。

一 野崎赤岩八浦の邊海獵等有_レ之候。此邊より廻船雇水主に出或は松ヶ崎邊迄の者は松前へ年々稼に罷越候者多く御座候。且又所より仕出し候産物も無_レ之大杉村は鷹の巢有_レ之村に候へ共先年度々江戸へ御鷹被_二差上_一候節一度も當所の鷹は御上げ不_レ被_レ成候由。

一 赤泊村は船入津の所に候へ共囀不_レ宜候故大船は掛り不_レ申候。越後邊の小船行通ひ候迄に御座候。此所の問屋等も多くは耕作の業も有_レ之候故小木町の者共より人心宜しき方に御座候。男は年々松前へ稼に參り候者も有_レ之秋頃は近郷之者も松前より歸候に付昆布、鯡、鮭、數の子等の類賣買仕候。其外徳和山田村邊より栢實多く出候故其商賣方も御座候。且又此所に蠟具有_レ之候。當國は荒磯故外には蠟有_レ之候ても小き物にて用立不_レ申候處此所に有_レ之は大きく味宜敷候故喰菜等に遠方よりも調え申候。併し一廉の商に致候程の儀には無_二御座_一候。且又此所松林山禪長寺と申に毘沙門堂大納言爲兼卿流罪の時於_二當寺_一讀給ふ三十三首の歌寫有_レ之候。

當國より越後へ渡海いたし候旅人は重に小木湊え出津いたし來候處文政の頃より此所に押渡り船出来寺泊へ手早く渡海いたし殊に小木と違ひ在方風にて雜費も薄く候間近年重に此所へ旅人出候様に相成申候。但押渡船の儀春夏平波の節風筋に不構押渡り候までにて秋冬風波の節は渡海致し得不_レ申候間不時之御用等には埒明不_レ申候。

一 徳和村は林木の茂盛格別の儀にて悪風の方角に山を運ねて山上の地窪なる所故に候や當村栢木多く御林の外百姓持の林にも栢實多く出来賣買致し梨柿柑類等も此隣郷には多く有_レ之或は漆を取り松杉も節少く良材を出し候草木の生立に似候て人も和直に見え申候。此所より出候栢の太木を以て四方面但シ四方ニ小口ヲ見セ申候の碁盤を拵へ候儀御座候。

一 川茂村は山中の邊地にて耕作の外は持林の杉木を伐り挽板枇板等にいたし賣候外は別して仕出し候品も無_レ之安閑に無事を考候所と相見え去る未年江戸訴訟一件の御吟味有_レ之御仕置國拂ニ被_二仰付_一候彌三右衛門主ノ内と申者此所の産にて表向柔弱に相見え内心巧多者に御座候但此所に有徳の者も有_レ之小木赤泊へ手寄候て廻船仲間等に相成候沙汰も御座候。

此所以前有徳のもの有之由は寛延以前御取箇下免之節の餘澤にて有之長百姓共は家作のみ手廣にて困窮年久敷別て近年打續候作損にて一村悉く勞れ候躰の由徳和川茂蒔場邊は冬春阿波繩を仕立松前行の商人へ賣渡し一廉の産業に成候へ共川茂は山中の邊土故少しの不順にも作損有之一村内にて金錢取替等致し候者無之借財は他村へ質入にて調え候由右躰故か以前とは風儀替り公役を大切に勤め公事出入等も少き方に御座候。川茂村耕地の様子にては中々以て只今の如く困窮村に可相成一土地に無之尤も山中とは乍申徳和の往還に跨り水捌の悪敷他形に有之困窮の躰怪しく存候間承糺候所先年重立共馬に乗り小木湊へ販賣女を買ひに行き又博奕等いたし候故村中の上田、上川茂も其外へ質入いたし候故追々相劣り候由何様耕地の様子にても農業に怠り候故に培養の手當薄く隨て地位も疲候事と相見え申候。但聊かの不順にも作損多きは土地の故には有之間敷公役を大切に勤め候村方には有之間敷や。

一蒔場村は魚獵を重もに致し候て諸方へ賣出し渡世之便に仕候此所の海底魚通行の阨に候故相川邊海荒強く西濱姫津邊の獵船不出時も當所より魚を持出し商ひ候義御座候。近郷えは猶更廣く賣出し申候て民用の助に相成候。

追 加

此村の者御奉行寺泊へ御出津翌日より引船番の者は日々船支度辨常用意致し居村役人等は山上へ登り帆影遠見いたし見掛次第村中を呼はり下り候を合圖に引船乗出し毎以て御船へ一番に漕付候に付此村の船漕出し候を見掛け外村々の引船漕出候よし前々より村方の規定を失はず御船大切に致し候に付兩度迄御褒美被下候農業漁獵の外松前行阿波繩を夜仕事に相勵み候故村柄も相應にて納物杯早く皆済いたし質

朴の方に御座候。

一松ヶ崎村は潮荒き湊其上出崎にて囀形の處にも無之候へ共船四五十艘斗り掛り申候依之此所浪荒き節は多田村にも船掛り仕候。赤泊と違ひ左右の村方何れも難所を抱え相川への道路は後に大山を越候て小倉村へ掛り候故雪中は容易に難越候。村柄風俗は赤泊より又人心宜しき方に御座候。此邊松前へ稼に參り候もの多く秋頃歸國の節は松前物數品賣買致し候。此所人心宜しき儀相考候處以前菊池喜兵衛と申有徳の者住居罷在廻船數十艘所持し家作等美々敷修補ひ其身任有福多藝の人物にて其上貧者を救ひ悪敷風俗を誡め候事故自ら一郷直路に相成候由及承候。尤右菊池没落以後數十年を歴申候へ共風儀は殘居候哉と奉存候。但し海獵も有之其外別て仕出し候産物も無之候へ其他國船往來の節商物の品積出し渡世仕候義は外入津之場所同様に御座候。

追 加

此所重立候者共小前の貧を救ひ惡しき風俗を誡め一郷直路の義は今も相變る義無之此所元甲の瀬と申出崎有之候故廻船囀掛り致し候處連々變地いたし以前の出崎并御番所役家跡等今は遙海中に相成西の濱と唱候所へ砂打揚げ手廣に相成候に付役家并百姓家も追々右場所へ移申候。右故囀を失ひ多田へのみ囀掛り致候。此所太右衛門と申者相應の身元にて文政の末より蠟燭商賣いたし候處生蠟を國産に仕立度義を存付三崎野を開發いたし他國より檀の種を取寄せ多分の實生を植付候へ共居村と懸離れ候故手入難届に付右場所一村に取立度由を以て家元は忤へ譲り六左衛門と改名三崎野へ住居いたし大造の畑町歩切開き追々人家も出來、來丑年は反高檢地にも相成候由檀は年を追ひ成木に隨ひ生蠟出來畑作取實も

全く國益の義に有^レ之以前の法花長兵衛と違ひ身元有^レ之者故大造の金も地元村々にて得心致し終に致^ニ成就^一候は當國にて是迄珍敷多分の新開に御座候。

一柿野浦村は以前黄金山之御稼有^レ之所にて二十ヶ年前まで川流等有^レ之御連上相立申候其頃迄は相川より稼人も入込村の助にも相成候。此所山の頂赤く兀^レけ外の山立とは違ひ申候。總て砂金山或は金銀山有^レ之所の山は嶮岨にて山頂赤く兀^レけ候由及^レ承罷在候處先年奥州半田銀山御用に罷越候砌右體の山を遠方より見掛候て相尋ね候へば如^レ案以前砂金稼有^レ之其後稼捨之場所に候由申候に付き兼て承居候に的當仕候。赤く兀^レけ候者金銀の氣を含み候故金燒と申様なる義にも可^レ有之候哉。西三川金山杯の赤兀等相川金山は勿論其證多く御座候。

追 加

柿野浦、尾戸邊も赤玉にならひたばこを多く作り新穂邊へ賣り出し國用に相成近年は赤玉より品も宜敷由且又尾戸、小浦邊子を聞引候義有^レ之候處文化年中御世話有^レ之御手當等被^レ下浦目付役敷諭致し候故其後相止候趣に御座候。併し尾戸村に子捨穴と申場所所有^レ之程の舊習に候へば速に相止候趣も無^レ心許儀に御座候。

一赤玉村より野浦、月布施村邊迄はたばこ多く作り出し申候。三十ヶ年前より地たばこ次第に出來宜敷當時は他國たばこ不^レ參候ても不^レ差支^レ程に相成申候。元文中の改三郡たばこ畑四十二町二反九畝九歩の由及^レ承候。其後も段々相増候哉且延寶天和貞享の頃迄は他國たばこ入役一ヶ年に五六十貫目宛上納相成候。尤其頃は相川の人多く入込住居仕猶又地たばこ作り得手不^レ申に付入役も多く候と奉^レ存候。當時と引合候

ては格別の違に御座候。右村邊より新穂邊へ葉たばこ多く買出し熨斗葉に仕立候て諸方へ賣出し申し候。地たばこの内別て赤玉の名を上品に仕候。前濱品都て真綿も宜敷由に御座候尤何れも海獵有^レ之候。

追 加

此并ひ水津村は前に浦目付所此處安永八亥年より御番所御取建荷物賣買致し候へ共多分越中越後邊の小廻船のみ入込竹の交易重故問屋始處の者も船津の風俗とも見え不^レ申農業を重に致し候様子。此邊の蕎麥は小粒にて隅少く粉に致し候て舛數減じ不^レ申風味も宜敷方に御座候。

一久知、河崎村邊は縮布其他平布も多く織出し縮布は國中にて織出し候中之上品にて御座候由併し一國へ賣擴め越後縮布不^レ買入^レ程に無^レ之候ては全く國用の助とは難^レ申^レ候此上連に勵み多く織出し候様仕度候。兩尾、羽丹生、椎泊邊も布を専ら織候由及^レ承候其外原黑、住吉、河崎、梅津邊何れも鹽畑の業多く候。前段に申上候通り承應年中始めて濱畑にて鹽を燒候願有^レ之。當時を引競へ候へば格別の違に候。是に不^レ眼茶、多葉粉其外共に以前は自分の用を達候のみに候處段々其業に馴候て今は賣買手廣く渡世の一助に罷成候間國柄は以前より宜敷相成候へ共近年は百姓も奢を長じ候故幾一ヶ年の作損に至り餓死候族多く候様奉^レ存候。

追 加

本文村々布を多く織り出し候へ共下賤の用をな^レ候迄にて世上の奢に連れ少も身元有^レ之百姓町人等人中へ出候節は越後縮布を用ひ候。風俗に相成り候へば越後縮布高増候とも減じ候義は無^レ之哉に相聞申候。一夷、湊兩町は高四十石餘宛にて皆畑の所に候へば百姓の業は僅ながら繁昌の勝地の事は海獵多き上に又潟

地獵有之相川表迄魚鳥賣り出し候體其上國仲村々より前濱筋内海府方への通路に候へば萬の商物捌け宜敷故に候。但此所碇掛り宜敷湊にては無之候へ共荒磯に無御座候故中春より中秋頃迄は越後船地船の往來不絶賣買多く依之二三十年以前とは格別有徳之者も出來候由。此所造酒等も味宜敷方に候。或は近郷の鹽共仕入を致し鹽商も多く有之候。鍛冶細工も當所は勝れ庖丁を打煙管を張り印を彫又は魚獵の針鉄を仕出し或は原黒村邊にて作り候茶の眞葉を取湊町より賣出し候是は他國中品の茶に不劣程に御座候。元文中改にて三郡茶畑高六十九町九段二步と及承候其後連に相増候由に御座候。享保の初頃は夷町にて鎗を打佐州夷住蒲原冬廣と銘を切出し候北條新左衛門殿御在勤之砌御一覽被成田舎細工故當分御用に難立候隨分出精鍛鍊可致由被仰渡候旨當時は沙汰無之候。夷町、湊町は橋を隔て候迄にて人心格別夷は宜敷湊町は野卑體に有之由申ふらし候。去る末年より前御奉行御支配之節は此兩町小木湊澤根同前定番町支配を致候處小木澤根之者共と違ひ夷湊の者は重公儀一萬端實鉢に有之候處近來御代官所に相成頭立候者を徒黨連判にて訴候由是等は以前と格別之違に御座候。是は御代官所に相成前々町支配之役人は支配相止都て町人の内重立取締等致し御益筋共有之に准じ自ら權威高く取斗ひ候故の儀と奉存候。別て夷町は在中にて人柄宜敷所に候を可惜次第に御座候。且又先年夷町鈴木右衛門當時の利右衛門養父と申者實鉢の人物厚志の者故數年堀江治部齋流之筆意を學び御家一流の筆傳をも粗習ひ得候て享保十四酉年上京則ち東福寺何某長老依推舉同年七月九條輔實公内々にて被召出御盃を被下其上詩歌之軸物を御好に付差出し候處田舎者に不似合厚志之段御賞美有之被添御使加茂甲斐え罷越能書傳を得致歸國候。如斯面目之輩出來候事も當地之人物宜敷故と奉存候。

追 加

兩町の内夷町之方は内海府二十ヶ村の諸差引商ひ國仲筋への便利も宜しく候故都ての渡世いたしよく別て安永年中より大坂御回米之津出場に相成御藏出來左右之海邊國中筋より御米運送致し候に付所の賑にも相成身元相應の者も有之候處小前ものゝ人氣不_レ宜折々申合頭立候者を迷惑爲_レ致候由。湊町は前濱筋之通路重の處野浦邊迄十二三ヶ村位之義其餘赤玉邊は刀根越にて國中へ通路致し兩町を頼み不_レ申夷町に見合候ては商物捌方も不_レ宜其上以前有徳之者共之末暮方に奢候故追々不如意に相成近年に至り候ては皆地縁にも離れ建家は元之儘に候へ共雨露之凌も出來兼端近之一ト間に住居いたし候様相成候者も有之由當所之人物は夷町程には無之候へ共重立之者共及困窮候故渡世之日雇も少く自ら一町之衰へに相成候由此處四郎三郎と申者他國にて筆結方習歸り近年賣出し候處相應に出來候間追々手廣に仕立國産相續爲_レ致度義に御座候。潟池には以前鯉無御座候處文政中坪井傳之丞夷湊定番役之節厚く世話いたし他國より鯉の子取寄三千程放入候處其後年々殖候而當時澤山に相成候へ共釣様を不_レ存梅雨中など溝川へ登り候を稀に手取等に致し候迄に御座候。

一釜屋、籠米、長江村邊は耕作之隙菅笠を多く拵へ賣り出し候。長江村は級を能く織出し候。海府にて織候分よりは級の色白く此處を佳品に定め相川其外町人共店之暖簾等に仕候由及承候。

追 加

釜屋村に三太夫と申者有之親三太夫代文化之末越後より參り住居いたし畑田成新田畑溜井等開發方功者にて國中被雇あるき手先の人足も有之民家之れが爲めに益ある事不_レ少由に御座候。

一 湯上村に實生座由緒之者有之數代相繼で能師之真似方を以て家業に致し農家ながら鋤鎌をも取不申渡世致し候處當村に限自然と隣郷にも囃子方之者等多く有之畑を打ち田を耕し候片手にも樂舞を翫び候故此邊の風俗と成申候。諸方の神事にも此一村或は新穂町河原田町等の者入交り候て相調候。且世上豊なる折節は猶更近年迄も其形にて家業取續候處當秋本間右京并親永扇實伯父不幸いたし右永扇弟式部と申者存命に候得共此の者も數年來狂氣の跡にて罷在此末相續無覺束奉存候。

追 加

本間右京が跡養子にて相續代々實生座へ出執行致し前々より能太夫の銘目にて御禮をもいたし大山祇春日の神事能をつとめ國中所々の神事に能を致し候事今も相替り不申候。此處に出湯有之文政中請人出來取開き小瘡は悉く快氣いたし入湯の者も相應に有之候得共他國湯治場の振合に酒食等取附ひ掛け下り多く相成請人共立行不申五六年にて相止申候。

一新穂村以前有徳の者多く住居の處に候得共近年は衰へ候方、夫に連れ人柄も惡敷罷成候。當村に以前稼拾の銀山古間歩有之候。且又川魚蛇あり但し蛙は適々登り候得共在所之者不喰之山王權現の崇り有之由申傳へ候。羽黒山にて蛇を禁じ候と同様に候。椀師、砥石山等有之。其外町の内に膳部箱曲物類の細工塗共に仕出し申候。或は赤玉村邊の地多葉粉を此處へ買出し熨斗葉等の手入致し賣出し候。飴を能く煉出し女子共商ひの外商ふもの等有之賑はひの處に御座候。且又此處に七右衛門當時利石と改名仕候と申者甚を能く圍み申候、強中手と申程にて碁所へ對し三つ許りの手同様に候由尤も免狀等は取り不申候。

追 加

新穂は國中の内商家の通用宜敷場所故相應に取廻し候者不絶有之場所に御座候。此處本間默齋と申者は元孫七と申百姓にて田地相應に所持し商ひ致し年々京都へ品物買下しに罷越候節聖護院の諸太夫佐々木駿河守に隨ひ學問致し詩文も出來渡世伴に譲り候後は學問を樂み實學にて文政八酉年學問所助教被仰付候程之者故近村の者歸伏いたし新延寺境内に犁雨村舎と名付素讀所取立て默齋へ教示相頼み候處同人死後は取留め世話致し候者無之由に御座候。

一 小倉村は大郷にて諸納等多き處に候得共前々公納等の譯能く人心實弊なるよし及承候處去る亥年他郷に勝り別て飢人等も多く候由に御座候。是は山中へ引離れ候村方故魚獵其外海草等も無之國仲節又は海邊へ取遣りの商業も無之故別て惡作の年は外に借用方の繰廻し不相成故に候哉。海邊は作の不_レ宜年も魚獵を勵みて相凌ぎ候處左様の助無之候ては難補筈に奉存候。尤も此處は漆桑畑等産を織り薪を伐り候助も有之候得共是等許りにては大變は難_レ凌候はん歟。併し一ヶ年の凶作にて及_二餓死_一族は畢竟豊年の時心掛不_レ宜惡作の思慮なく夫限りに米を喰捨坏仕候故にも御座候哉。且又數寄屋等に拵へ候里萩を此所より出し申候是は外村方又は相川銀山青盤間歩の邊にも里萩生し候得共生立短く用立不申候。山蔵も當村に有之候由外には無_二御座_一候。

追 加

小倉、猿八兩村は御代官支配中寶曆五亥、同六子年の凶作に餓死人夥敷其頃より免下ノシサゲに相成候由にて當村國中の下免ゲンに相成候故取廻し候身代の者も有之候へ共小前百姓に至り候ては龜地のみ所持いたし候事故水旱損共難_レ遁外村に見説へ候ては困窮もの多き由に御座候。畑野と惣名に呼候は、畑方、畑本郷兩村

にて四組に分れ懸離れ候住居も有之候得共南津より新町への街道の所は町造り、商家造酒屋賣屋等も有之兎角宜しき方にて他村の者も入込候得共、所より仕出し候産物は無御座候享和の頃丹後國佐十郎と申者此所に住居いたし、蠶の飼立より絹機織立迄申教え、絹機師三軒出來、各出精國中え蠶の飼方申勤め、繭買入絹縮緬等織出し、當時畑野絹と唱へ國用の補に相成申候。享保年中萩原源左衛門殿、寶曆に石谷備後守殿、安永に拓植三藏殿、國産の事別て御世話有之桑植付等有之由の處、其御世話の頃は身にも入不申故歟、用を成し候趣にも不_三相聞_一候得共追々實生相増候故當時國中にて絹繭綿繭相應に出來畑野の外にも少々づゝの絹縮等織候ものは間々有之由に御座候。併し右渡世に致し候畑野絹も、桑の老木若木の葉取交飼立候繭故、糸の強弱揃ひ不申上品は出來不申候得共田舎の着用には事足り候儀に御座候。桑苗多く相成候へば蠶多く養はれ利得相増候儀心付候はば絹も能く出來他國へ賣出し候様にも可相成義に御座候。此邊並に小倉村、新保、西方邊畑作の藥草を作り覺え相應に出來他國へも賣出し申候。蒼朮は別て品柄宜き趣に御座候。此處の人物は強情にて公邊を不_レ恐、公事出入等不_レ絶有之候處、重立候者共及_二困窮_一候故近年出入は少く相成候方に有_レ之上山田村善兵衛一國願之羽翼に相成候四郎左衛門、季左衛門、其外近村狼藉之頭を取候者も此處の者に御座候。且此邊謠亂舞其外囃子方之藝致し候者有之湯上能太夫に屬し所々之能に加り本業に身をほめ不申、氣許り高く表を張り候を旨と致し候故、借財而已にて操廻し居候もの多き由、此所に狩野探信の直弟にて免許請け候探兆と申繪師有之候處去年相果申候。

一長谷、栗野江、大野村は地人參候有之場所に御座候。但去る申年松平帯刀殿、醫師大平道悅を被_レ遣御改之節、大野村には生じ不申由、且又佐脇へ朝鮮人參艸被_レ遣御植付之所は右三ヶ村にて御座候、享保八卯年四月小濱志摩守殿御着之節朝鮮人參艸四本江戸より御持參被_レ成、當國にて他人參草有之所へ御植付可_レ被_レ成由にて、栗野江村へ二本御植付被_レ成其後享保十一、十二兩年に朽痛生じ不申、一本は大野村へ御植付是亦享保十二未年朽痛生じ不申、一本は長谷村東光坊境内に御植付被_レ成享保十巳年初めて實付、翌午年も實付兩年の間長谷、栗野江等に御植付被_レ成候得共、生じ不申、依之同十三申年實二十七粒相川御役所之白洲に御植被_レ成段々生じ享保十九寅年御白洲の箱植より當時之場所へ御移し被_レ成候、右長谷村之元人參艸は元文四未年朽痛生じ不申候、最初江戸より被_レ遣候人參艸四本之外二本合せて六本朝鮮國より渡り一本は日光山に御植被_レ遊一本は江戸御藥園に御植被_レ遊其外は當國へ被_レ遣候由及_レ承申候。扱又當國にて實生之人參艸之實、根、葉、莖、四品共度々江戸へ被_レ遣或は御奉行方實二粒づゝ年々御拜領之義も有之、其外實を當國にて望の者へ御拂被_レ成候事共有之候由に御座候。此外内海府岩首村之地人參有之候外海府真更川嶋島に有之候人參は形狀別段にて數千本生じ申候。且又栗野江三ヶ村大野村邊は産を多く織出し候。外村方にも數十ヶ所織出し候得共別て此所より多く出し申候大野北方邊は葛粉も多く製し出し申候。且又元和元卯年之古書に銀百目栗野江村湯之役と有之往古は此處に出湯御座候と相見へ申候。湯上村にも湯有之候得共病氣により利不申由に御座候。

追 加

此三ヶ村へ御植付之人參艸、度々檢分出役有之候故、之を厭ひ、養ひ方等閑に致し育ち不申義に相成候由に今申傳へ候。本文之當時の場所と有之候は御金藏之南側裏御門之邊にて是は繁茂いたし實を御拂に

も相成候程に候得共手入いたし候醫師没後は夫成にて終に絶候由に御座候。文政之末鹿伏村御薬園守中川榮昌義、小石川御薬園守芥川小野寺方へ藥草養方習請に罷越候節人參草の種申請來り鉢植にいたし生立候分。段々實生相殖去々成年御薬園御差止之節榮昌へ御拂に相成同人より所々へ相拂候由に付追々殖え可申哉、會津にて多分の人參作り出し長崎へも相廻り候由に候へば當國にても心掛宜敷者作り覺え候はば國益に相成候儀も可有之哉と奉存候。

一立野村光輪寺境内にて作り候尾張大根を先年給へ申候處味も甘味にて大きく眞の尾張大根に違ひなく當地には中々可類も無御座候。近年は作り不申候哉否之儀不分明に候。是を以て考へ候へば野菜の出來も土目の善惡に可因義に候へ共其種の善惡にもより可申候哉此邊は尾張の土目に似候義と相見へ申候。尤も同種にて生出候にも相川並に鹿伏邊の大根は和かに味宜敷小川村、達者村邊は堅く味も不_レ宜候。此引當にては尾張の種當國に快く生出候事遠近の相違如何に候へ共畢竟當村の土目大根に相應と可申候哉。

追 加

光輪寺の大根、今も本文の通りにて外へ種を移し候ても風味劣り候由に御座候。

一牛込村は鐵打物細工仕出し候。青木村邊は茶宜敷出來候よし及承候。

一二見村は船掛りの場所に候へ共手狭なる處に御座候。此村は蔓藻を多く取り賣出し申候、荒磯にて無之處には少しづつ何方にも有之候得共二見村の蔓藻は丈け長く味宜敷其上多く取り渡世の一助に相成候。但し海鹽も有之候。且又此處鷹の巢有之享保五年より九ヶ年江戸へ御鷹被_レ差上_二候内一度此處の鷹上り候由及_レ承申候。

一西濱村には四時共海鹽を業といたし相川其外近邊へ賣出し姫津浦同様に御座候。家業を經營候ものゝ内獵師は命掛に相働候事故度々落荒等にて及_二難船_一候儀多く御座候。依之業を一圖に仕候儘敢て差構候人心にも無之、併し別て下賤の人柄に御座候。里山近く候得共材木は少く芝山勝に候故、冬は萱を以て雪菰を編み相川並に近邊へ賣出し申候。大浦村の山には男松多く有之庭木等にも賣買仕候。鹿伏村醫王寺近邊之濱に以前銅床屋有之、相川より役人詰會候由。今以て銅の柄實等其舊地に有之候。同村觀音寺に左遷之公家衆兩人之墳墓有之候。是は鈴木三郎九郎殿御支配天和元酉年小倉大納言殿同宰相殿竹淵刑部少輔殿此三人を當國へ被遣同年九月より十五人扶持宛被_レ下候。小倉殿父子は貞享元年卒去、其墓の名一方は馬籠墓、一方は土饅頭と申傳へ候。竹淵殿は其後被_レ致_二歸洛_一候。

追 加

西濱の内、稻鯨は沖磯磯嶺とも精を入れ候得共姫津程には相勵み不申候由、天明中河原田町法花長兵衛新開の畑は此村之地所多分故今は夫食も相應に有之、其餘の村々は海鹽の稼手弱にて小魚海草等を相川へ持出で、米ザイ米を搗候節砕け候を糠の内足モト米を搗仕舞掃除いたし候などに替へ夫食に致候村方に御座候。大浦村の海にオンベと唱へ候所有之、延喜式内膳に、佐渡國程海藻一擔十二籠と有之は此所之若和布を貢いたし候に可有之由に御座候鹿伏村春日崎は慶長年中春日明神の社を此處に勧請有之候よりの名にて其後社は今の下戸村へ御引移し相成候由、春日崎の邊岩組多き所故、廻船目當の燈明臺御建有之、春日之社入差配致し候、此村若和布、荒和布を多く取り、賣出し候處近年荒和布を湯煮いたし滋味を抜き、篋に干立て商ひ候故、他國へ贈物等の便利に相成引方宜敷村方一廉の産業に相成候由に御座候。二見より

鹿伏迄西濱と唱へ候は往古の國府は今之竹田村の内には有之、右村より西へ當り候故の唱に可有之由に御座候。

一海士町は海士之多く住居の所故夏より初秋迄の内は在邊へも罷越し鮑を取賣員を拵へ他國へ頭立候者持參候て賣拂渡世仕候。海士之業に候へば風俗至て下賤に御座候。右熨斗拵へ候時、折節は眞珠を取り候て賣買仕候。

追 加

海士町にて頭立候ものは當時俵物用達、磯西純平先祖茂左衛門、刀根仁兵衛先祖仁兵衛と申者、御船手役加藤孫左衛門先祖和泉、慶年九辰年大坂より召連來、追々海士稼取立、串貝等仕立、他國賣買致し候處元文五申年長崎奉行萩原伯耆守殿より、唐渡千鮑佐州にて出來可致哉之義御掛合有之、翌寛保元酉年より千鮑差送り延享四卯年より煎海鼠も差送り候儀に相成、寶曆三酉年より右兩品長崎廻しの外自他國へ賣買停止に相成、年に七千斤の請負にて賣買の頃まで請負人共長崎直對談之處明和年中より御役所の御取扱に相成、取揚方別て御世話も有之、文化之度より請負人も用達と申銘目に相成其身並に手先のものども時々海邊相廻り取揚方爲三相勵候に付多分一萬斤以上之取揚に相成申候。

右海士町之者共儀世上之高上に相成候に隨ひ本業を不精にいたし、外渡世に移り、其外町方に居候海士は尙更に付、追々御取締も付、文政十一子年より下戸御番所内炭屋町に住居之海士共、右御番所外下戸炭屋濱町地續へ御引移し、新海士町と名付、俵物一件之儀は兩町共俵物商之者共差配いたし申候。

一下相川村は柴町と橋を境候迄にて、相川同様之儀に候得共、農家の風俗は相分れ候。但海獵も有之或は若

和布、荒和布、雪海苔等を取り賣出し其外海艸を茹り糎に仕候。且石切之細工有之、近邊之岩を切り出し候。又買石勝場之下磨石は、北狄村より船此船を石にて運び細工調へ賣出し候。又鍛冶有之鉈鎌鋸斧之類を多く打出し申候。

一外海府村々之内小川達者邊は耕作の隙は相川銀山方の勤致候者も有之、女は木綿を多く織出し候下品の物此外都て外海府村々のもの何れも家業に能くはまり、一體之風俗強精に候儀は、風雨荒き土地之自然に候哉且海獵も有之候得共荒磯故、内海府と違ひ不退には無之候、眞綿は國中より宜由申候。男は薪を伐り炭を焚き女は裂織を織り山芋トウ子を織り級を織り其外藤布等をも織候由尤木綿布は勿論に候。或は磯草等をも取り糧食に仕候。都て此邊之もの氣偏屈に強精に候故、公邊之義にても已れ不得心の節は幾度も黙止し又合點の節は一向約を不_レ失趣に相見へ申候。國仲邊之百姓は近年衣類髪髮坏も相川ものに見紛ひ候風躰に相成候處、海府者は一圖にて敢て改り候様にも見え不申、男は裂織、女は山芋トウ子を着し稼を専らにいたし候故歟、凶年にも國中村々程因窮不_レ相見候。尤も海獵其外の稼ぎ方多き故にも可有之候得共働き方も一段勵み候躰に御座候。且又前々破船等之節は介抱之躰にて海賊を仕候沙汰も粗有之候。戸中村より南片邊村之間、鹿ノ浦と申處に謠に申傳候。津志王丸の母を佐渡次郎と申海賊勾し來り此所にて粟の鳥を爲_レ追候舊跡の由、但し下賤の風説にて不_レ憶儀に候得共往古は猶更左様の筋を致し兼間數人柄に御座候。薪を燒競べ候老人之説に、外海府は風荒き故内海府より木の性堅く、依之調燒候もの勝手宜敷よしに御座候。且又小川村に享保の初頃は、刀鍛冶有之、北條新左衛門殿御在勤之節脇差を打ち差出し銘は佐陽來國次作之と切候よし、同じ頃市野谷村鍛冶素鎚を打ち差出し銘は下坂十代之末源吉重と切候よし、何れも新

左衛門殿御一覽被成田舎細工故當分御用には難立候も随分出精鍛鍊可致旨被仰渡候段及承候。當時は兩村共に左様の細工致候沙汰差て無御座候。是等に不限前々之者當國の内刀鍛冶所々に有之、戸地村には以前買石之者住居にて出鍵を買請粉成候に付即ち戸地炭屋町に水車等の舊跡有之候。其節は役人も被差置候。右此所に住居之買石共の内當時相川町人に成居候ものも御座候。小川村、北狄村、戸中村、入川村千本村、田野浦村等は前々稼捨之銀山、銅山、古間歩數ヶ所有之、小川羽賀山間歩、北狄河内間歩等は近年迄も稼候もの御座候。戸中村に有之候石鐘乳岩窟之儀享保八卯年小濱志摩守殿間敷改被仰付候節之書付に、奥より欄迄十四間三尺、棚より口迄十六間、但欄際より口之方え十二間は、横幅四間、十三間目より口の方へ四間の間は横幅五間、三間高サ三間、三間四尺二間二尺如斯之由承傳候。其後自然落込等も有之、丈尺違ひ候哉不分明に御座候。且又以前度々江戸素より石鐘乳被仰遣候節は相川銀山に勤め候山留並に手傳の者を役人に差渡被遣御取被成候故爲取締棚に符印有之候處去る酉年御代官へ御引渡に相成申候。又北狄村巢鷹之儀、享保五子年より同十三申年迄九ヶ年之内一度江戸表へ御指上被成候。關村の鷹は右年數之内三度御差上被成候。願村邊は年々夏の内海士町之者、海士を召連れ參り候て、鮑を取候所に御座候。

追 加

外海府村々のもの家業に精を入れ候儀は、今も以前に相變る義無之別て近年老人又は女共之業に黃連、細辛等の藥草類を穿り、請座に賣込候村々相殖渡世之一助に相成候由。風躰之儀以前は藁にて髪を結び候由にて、既に寛政六寅年大林與兵衛殿御巡村之節關村名主萬太郎と申者右風躰にて罷出候處質朴を御賞美有之候由、右之鉢故傘、下駄などは外海府に無之由之處、今は長着物を着、下駄傘を用ひ候者多く

髪に元結鬢付油を用ひ、以前の國仲者位に相見へ、三十年程以前より造酒屋も出來候様相成候は自然の時勢にて開け候にも可有之候得共、強て考へ候へば四十年餘以前小田村五郎左衛門と申者、田畑山林多く所持いたし、吹所向御入用の墜炭を請負、度々相川に逗留いたし炭直安に賣上候故を以て屋號御免御禮致候身分に相成、脇差を帯し候は外海府開け候て始めての義故、生れ替り候心持に成り手先之者も多く遣ひ、村方に罷在候ても衣服など着飾り不用之道具等買調へ候故追々身代難立行請負も潰れ申候其外享和の初より文化の末迄入川村銀山御稼有之、銀山御雇のもの並に稼方紛成吹の仕事師等相川より罷越し村方近郷へも働の者、雇入候に付相川者の風を見習ひ銀山風慳弱之躰を宜敷事と心得、其頃近郷神事宵祭等にも百姓の若者共見馴ざる風躰にて徘徊いたし候由噂も有之、右等海府の風俗變じ候様にも有之べき哉、當時大倉村梶原平藏と申町年寄格の者有之、苗字御免のもの、外海府に始めての義に御座候此者百姓方の心掛宜敷者に候得共、右躰身分に相成候を難有存罷在候は邊土迄開け候故に可有之、外海府は西北を請け、冬は北方の風烈敷吹拂ひ候故、雪の積り少く、内海府は外海府の雪落ち候て積り深く候へ共、東南請故消え方不遲、外海府の田地植付は國仲より二三十日後れ、秋は風烈敷故、程合見計ひ田に稻を倒し成木を以て押へ置、實入を待候程の儀にて、作損は多き由に候へ共、強水掛りにて、米性は宜敷方に御座候。野山に牛馬を多く放し飼候に付、馬口勞と唱へ候牛馬賣買渡世の者買請け國仲所々市立之節商ひ他國へも賣出し候は重に外海府産の由に御座候。小川、北狄等の古間歩、折々稼捨候者有之候へ共、仕當に合不申、入川鉛山は享和の初より文化の末迄御直稼有之候へ共、追々稼勝手惡敷、鉛代高直に相當り候に付御差止に相成、當年相川町人之内、自分稼相願候もの有之候へ共、未だ

鉛穿出し候様には不_三相成_一由。此處に紺青綠青も有_レ之候に付、取繰存候者相稼_キ候はば、仕當に合候義も可_レ有_レ之哉之由に御座候。

一内海府村々之義大概外海府之体に候へ共、海上和かに林木も茂り、冬の間も不_レ絶魚獵等有_レ之旁故、人も准_レ之林木之生立に等しく候哉、人柄少し外海府よりは和かき方に御座候。海艸も多く生じ候由イゴと申海草別て糧食に宜しく候處、今年は鷲崎一ヶ村にてもイゴ代之錢百貫文程村内へ入候由沙汰承り候。外村方も准_レ之御儀と奉_レ存候。

追 加

外海府には、竹生立不_レ申候處、内海府には磯際より松杉は勿論竹林も有_レ之風土の違ひ如此に御座候。天明二寅年組頭岸本彌三郎白瀬村銀山所見分に罷越、山奥にてカタクリ草を見掛け、名主十右衛門へ申教へ、穿取精製して、翌卯年戸田主膳殿献上有_レ之候後定例に相成候に付、右白瀬村に限らず山續き梅津、羽黒、長江、横山等を始め、南山新穂北方邊の山々にも有_レ之義追々相分り製品も澤山出来、根之儘雜穀に交へ夫食に致し候も有_レ之由、海津村の濱付平澤と申處は、海獵のみ渡世にて、夷湊之獵師と相並び鱈鯨の獵いたし、此處煎海鼠多く出来、蠟貝も有_レ之、赤泊同様品宜しき由に御座候。

一右在方風俗之儀往古之事は勿論、承應年中迄も、國中道程里數全く不_レ極、漸く正保二酉年外海府より内海府へ掛け、夷湊之橋詰迄之道程里數極り、承應二巳年始めて、國中一里塚を築_キ候段申傳へ候、左候へば右年曆之頃迄は、上代風之儀多く御座候。且又當時村々産物、賣買之品等大概私及_レ承候分相記し申候。尤も百姓共農業勵方之善惡或は土地之好惡、其外村々より明地空地之場所を考へ、具に申上度奉_レ存候へ共私

義先達ても奉_レ申上_二候通り、去酉年五月御役被_二仰付_一同年八月始御代官へ鄉村御引渡に付、在出之間も無_レ御座_一且つ其節迄地方之御用相勤め不_レ申候故實事の修練も無_レ之、萬端不分明に奉_レ存候。併し此節功者へ承合候様にも仕度候處、是又御内密之御尋に付扣申候。尤も當國田畑土之善惡承_レ傳へ候は、砂土上に真土上石地上黒土上ねば土灰土に三段之譯有_レ之段、或は空地之場所も、薪、手遠之村方は萱野に致し置候方、始終永久の基の由、或は秣場を開發候ては、是又長久之計に無_レ之坏、何れも耳學文に粗承り候迄にて、實に其筋へ立込不_レ申候故、委細之演說難_二申上_一牀に御座候。凡そ竹、木、蘆、苔、蕨、草履、草鞋、菓類野菜類、或は海草、木綿、布、緞、等を織出し麻糸、綿類を出し候村方數多に候へ共、是は大概一統之品に御座候故、委細に記し不_レ申候。併し佳品を出し又は多く出し候類を荒増相斷り候へ共、此外洩候義可_レ有_二御座_一奉_レ存候。黃連、細辛を始め其外藥種類、油、木質の類、是又略仕候。享保六丑年小濱志摩守殿御在勤之節、村鑑帳後大概帳と改まり申候被_二仰付_一夫より年々仕上來り候處、去る未年は御勘定衆被_二召連_一候御代官手代之内掛り合にて、書改め候處も無御座候。右書面にも村方手業或は産物等彼是相違候義共も有_レ之様相見え申候。且當國は島國にて、前々より諸色多くは他國之養を得申候處二三十ヶ年以來は段々産物之品宜しく相成、他國之養を請けざる物も有_レ之候へ共、今以て他國より來り候品多く御座候。併し當時は小國より大國を養ひ候品も有_レ之候。然れ共絹機、織り候儀、薩摩芋、蕨茨仁桑畑等之儀、享保年中萩原源左衛門殿御在勤中、度々百姓共に被_レ御渡國民之長久を御計り被_レ成、候處其_レ試み候品も畢竟當分_レ之申分り計りに致候體にて、微_レ心骨_レ候て不相勵_二事故_一、今以て等閑に相成居候様奉_レ存候。其頃は世柄宜敷時節に御座候故、出精不_レ仕儀に相見え申候。當時は凶作の跡等、實に又可_レ心掛_レ節と奉_レ存候。紙漉候儀是又一

向當時は無御座候。此義致馴候は次第に一國の費も、餘程補ひ可申候、且又以前下品之茶、多葉粉、酒之類近年は中品或は上品にも相成候。二十四五年も先迄は、參會等の人中にて地多葉粉のみ候事は甚だ耻合、茶、酒は尙更客向には用ひ不申候處、當時は世柄惡敷候故、以前不用品も宜敷候哉に候へ共、全體昔に變り其品宜しきを求め候へば、客對にも不耻品有之候。左候へば右三品之類は決して他國之産を用ひ候には及び申間敷奉存候。扱又古來より當國にて兩毛作無之義は寒國故麥之熟遅く、田を植候は四月或は五月に候へば、兩作は不_三相成_二道理に御座候。其上島國にて山高く候故、水之増引一旦にて、兩作之手取り不自在歟、或は土地寒熱之違い故にも可有御座候。然る上一作にては、順行之年も他國へ引當候へば、麥作程之違有之、偏に凶年之驗は早速行渡り候儀と奉存候。飢年は海獵も又少き段申傳へ候處差當り去冬より當春へ掛け、四十物魚等の劣りにては、右の諺に應じ候様奉存候。正徳三巳年より御圍米被成置候も島國故、取變り之節飢人御救之料に御伺被置候段及承候。且辰巳村之外二百六十ヶ村之内、山附三十四ヶ村は、山草之糧に事足り候へ共、定免村方臨時惡作之引方無之ては、糧艸之分にて年貢の助には難及候。海邊百三十一ヶ村は、海艸有之之外に魚獵之餘慶を以て、年貢補ひに相成候趣に候へ共、海邊は取績成安き儀に奉存候。國仲九十五ヶ村は、産物商物方は勝手宜敷候ても、山海之糧草何れも手遠く不勝手故、一統之凶年には、國仲之方早く困窮可仕筋に可有御座候哉、又は山附村方に似寄候筋にも可有御座哉、然る處去亥年一ヶ年の不作にて數多餓死人有之候儀近年別て百姓心掛け不_三宜_二、豊年之節凶作之貯を不_三思_二、平生成丈け米を喰ひ、畑百姓之族は米を買求め候て食し候も有之由、別て小百姓も有來之糧艸を喰候迄にて、他邦の百姓の如く細密に糧の品を不_三存_二、其上奢長じ候は、去る末年より相川筋困

窮にて賣拂候衣類諸道具他國へも出で候へ共、又在中へ買入候も數多の由、依之在中之男女神事祭禮等に衣類を着飾り候事、相川町人も不_三及_二程の風俗に候段、専沙汰仕候處、去年惡作以後は、風聞も薄く相成申候。一體近年之風俗輕_三公儀_二候様奉存候證は以前浦方へ年々寄鯨有之候て、御拂代御勘定之元に相立申候、然ば流物之寄り候事は、古今之差別不可有義に候へ共、昔と違ひ、都て惰弱に相成右様之流物も、其所限りに押隠し、内々にて勝手に仕候哉、亦是享保年中寄鯨有之、度々其御吟味強く、其近郷之者迄御詮議掛り及_三難儀_二候故、見懲候て無_三據押隠_二候様にも相成候哉、尤近年も一兩度寄鯨御座候へ共、往古は繁く有之に競へ候へば、相川近郷へ寄り候分計り、近年も申出候義に御座候哉、畢竟是等の臨時物は其在所にも分一に被下難有存候へば、都て跡々の御取締にも相成申候、偏に御吟味強く候計りにては、御手遠の浦方故、始終の御取締には相成申間敷奉存候。凡そ二十ヶ年餘以來は、在々より彼是申立を巧み拜借等多く致し、其内には不埒の事共相重り、去る末年嚴敷御仕置有之候にも懲り不_三申_二、當時在より相川へ出候百姓之體、前方とは格別世馴候て、人品宜しく相見え、上部を取飾り候體に御座候。其上御支配相分れ候故、公邊を輕んじ候事共多く、至つて卑賤の者は不足申候處、在邊町人の内、重立候もの、去年頃御代官にて、御用之筋被申付候祝儀とて、下相川村の海邊千疊敷と申平岩の上に假屋を構へ打開き亂酒饗應の體、外見を不_三憚致_二方之由、其後又祝儀の事有之於_三遊所_二一晝一夜の饗應、客方供の者迄え、菓子肴等美々敷引渡し候程之義、其節取沙汰御座候。近年は別て相川表質素を相守り候砌、以前世上賑やかなる節にも致さざる出振舞を無遠慮仕候段、全く公邊を輕んじ候筋に奉存候。此外當時の風俗一々は難_三書顯_二奉存候。

凡そ國中地所の開け候事は、敢て不足も無之由に候へ共、以前の見取場、又は寶曆の檢地の内には、難手届一荒地に相成居候場所も有之候由、是は其謂も可有之哉。産物は享保年中萩原源左衛門殿御世話の後代々之御奉行御世話有之候に付以前難出来品も追々出来候様相成候へ共、薩摩芋は種々園方等閑の故か寒氣に損し、免角餘計賣買に致し候程出来不申、地たばこは世上奢に相成候故か、下賤に限り相用る、地茶酒も中以上之客對には、先は用ひ候者少く、私儀當春大坂御廻米見廻り、夷港へ出役之節旅宿にて他國之茶を差出し候故、町方に右茶店有之哉、所にて製し湊茶と唱へ候は、當時仕立不申哉と相尋ね候處、十六七年以前より新潟に宇治仕入之茶店出来、船之往返繁々之場所にて土産にも吳候故いつとなく用る馴、客來等の節は必ず相用ひ候義所のならはしに相成、茶、店は無之候へ共、遣ひ切り候節少々の用辨致し候ものは有之、以前番茶一斤拾五錢の盛當時貳拾錢に成り染草の爲め他國へも賣出し候下茶に御座候振舞候て濟み候節、湊茶を用ひ候様相成候故、湊茶之引け方宜敷候間、直段も上り候由申聞候。新潟へ茶店出来候儀、近國の風俗一變にて、奢りの風は移り安き方に御座候、叔國仲筋には田地のみにて畑は至て少く候間、田地の畦際へは四方稗を植候儀、以前よりの習はしの由に御座候處、寛政より文政迄、格別之凶作と申は無之、文化文政之頃は、一石の米價三四貫文の事も有之、仕付取收の入用に不引合由相敷候百姓も有之趣にて、増て稗など作り候は、損分の儀と心得候より之儀に可有之哉、稻計りを作り候由然るに文政十一年已來打續き候凶作に至り、俄に稗の益を知て後悔致し糧草も以前不存品迄、喰覺え候へ共、素々貯無之儀に候得ば、上之御蔭を以て命を繋ぎ、其後は追々以前の通り畦畔へ稗を作り候由に御座候へ共

此後豊作打續き候はば、又以前の難義を忘れ可申哉、作柄宜敷年こそ凶年の備可致義に候へ共、愚民の常情後悔を不願は歎かはしき義に御座候。一體國仲筋の村柄、以前に見合せ宜敷相成候は、天明八年谷地田水拔のため、其頃國府川尻四日町村の裏通りへ曲り居候を、眞直に切り明け、其外大川通り枝川通り共御普請有之、其後も兩度同様御普請にて水吐宜敷相成水腐を免かれ下免の谷地田より、餘分之米取入候故之儀に可有之哉、去る子年以來の凶作にて、村々小前の者は疲れ候趣に候へ共、田地多の者は、小作米の員數減候ても、直段は平年之二倍三倍之年も有之候故、凶年却て仕合に相成候ものも有之由三四十年来醫者多く相成候は、百姓之子供一刀を可帶ために相見え、百姓にて小社を持候、無官之社人受領免許を受け帶刀いたし、金銀山御入用へ出金之上苗字屋號等御免、御禮いたし候身分に相成候儀を悦び、自ら尊大の貌にて、妻子迄衣服を着飾り、神事祭禮など數へ歩行候事、相川町人などは眞似も出来不申候よし及承候、右體故遊藝のために、他國遍歴いたし候も有之甚所へ入門免許請り候などは、以前無之義其外神階寺格直し、出家社人の出世等を、檀家氏子の規模と心得、張合出金致し候などは、他國豪富之眞似にて、當國小高百姓に有間敷義に御座候。他國出之儀國財を費し候に付、石谷備後守殿被仰渡候趣も有之、寛政之度に至り候ては、村々に應じ人數御取極め有之候處、割付丈けは是非罷出候様心掛、實々の病氣又は無據譯之ものは、別段に願候故、却て年々人數相増し、他國へ散財致し候に付、松前稼の外は、其筋にて實意に吟味いたし候はば、夫程の驗は可有之本文之在方のもの輕公儀候證に寄鯨少き義を論じ有之、當時も稀ならでは訴も無之、役人詰合無之場所などは、如何致候哉難計、鶴之儀は年々之様國仲筋にて打留、多分之價にて賣買の風聞有之候へ共、數年御役

所へ差出候儀無之、去る成年に狼藉もの爲三吟味一役人大勢國仲へ出役有之候故か、一羽差出候を以て察し候に、右風聞之趣相違も有之間敷哉、是又國仲筋のもの奢超過價を不_レ論買請候故に可_レ有之、十年來凶作中御仁政に依て取續き、尙右體奢に長じながら巡見衆へ、歎訴等は畢竟御仁政にあまへ候ての儀、先達て嚴重之落着被_レ仰渡候へ共、未殘黨等愚昧之心得違ひ居候哉之風聞等有之候間、此上之御處置御賢慮有_レ之義と奉_レ存候。

佐渡四民風俗上卷畢

佐渡四民風俗下卷 追加共

一良工の者當國に有之候哉との儀慶長元和の頃相川の人數二十萬人或は三十萬人餘も住居の時は十か七八は他國者入込候儀故其中には職業勝れ候者も可有御座候得共往古の儀は難相知候併及承候事並近來の儀共左に相記申候且又瓦師杯の業當時は一向無之候以前繁_レの節も當國は風雪烈敷所故瓦を用候ては早速凍破れ用立不申候に付難取用杯と申觸候へ共左様にては無御座候慶長年中鶴子より相川に御役所御引移の御作事は萬端手濶く當時の大御門先後藤屋敷の上溝道有之所迄御陣屋地にて大御門は右の並に御建被成櫓御門並塀を始惣屋根等都て瓦仕立に候由其外大山祇愛宕山等の造作も皆々瓦仕立に候段承傳候其証據は當時も御役所廻り又は右社頭邊には古瓦有之候但御役所は正保四亥年類焼以後當分の御修覆に候故瓦仕立の御沙汰不及由に御座候其後段々銀山出方劣り御修覆場所御物入御厭に付御役所御建直も無之右社等も大破の時板作事に相成候と相見_レ申候。

追加

瓦の儀安永年中柘植三藏殿御世話有之南澤町當時羽口屋甚兵衛親伊兵衛を江戸表え被遣今戸瓦焼習受歸り火鉢火入其外瓦焼は于今連綿致し國用を辨し申候當時の甚兵衛は樂焼も出來申候田中村主計と申者歎

年江戸え罷出居山本北山の弟子に成學問致し醫者に成文化中飯國の上國益の事杯世話致し越後より新開師三太夫を呼寄願の上住居爲致自分所持の畑田成新田杯仕立耘耕力を盡すへき事を始養蠶の事杯近郷迄勸め弘め或は越後より瓦師を呼寄焼立寺院の鐘樓土藏屋根等に用ひ候事を勸め當時は相川にても廣惠倉其外山の神須灰谷御米藏にも瓦屋根御仕立御座候。

一桶と申は銀山水下の稼に敷通より水を取揚候時用ひ申物に御座候、往古はスポン樋と申を用來候を是は長き箱の形にて乗掛馬の跡付の形に候窓に牛の皮を用候牛皮他國出御停止も此故に候哉然處承應二己年割間歩山師味方治助と申者水下の稼物入多く志の敷通りえ致り難く右スポン樋にては水揚り方抄取兼候故願の上大坂に罷在候、水學と申盲人を呼下し此者考を以て水揚輪と申樋を拵依之割間歩水取揚方抄取候故大盛を得申候是等は良工とも可申候

追 加

スポン樋水上輪阿蘭陀スポイト又は龍越樋杯唱候もの近年迄色々御試有之候へ共敷内深く相成候に隨ひ細工物にては損所の故障繁く水取後れ候處當時の如く井車を仕付け釣瓶にて汲揚候方故障少く御入用を省き水の揚り方宜く此上の法無之趣に御座候併井車を不手馴百姓人足にて古敷取明の節湛水替取候には水揚輪の方宜敷儀は寛政の初鶴子前立合御取明の節相様し其証有之候由に御座候。

轡は銀山吹所にて日用の品に御座候處長坂町清太夫と申者慶長中より此細工致し寛政年中の清太夫工夫を以て銀山にて鍛冶とも用候轡の風口を前後二ヶ所に仕付兩縁轡と唱へ一挺を以てほと二ヶ所の用を成し御入用相成候に付給米給錢被下御屋に成職業連綿致し當時井上林藏か父多喜藏は細工勝れ候者にて吹所向大坂轡を用來候場所同人仕立候轡にて相辨し右に准し小細工物能く致し杉にて仕立候印籠杯は江戸

表にて高貴の御翫にも相成候由玉を摺候事も出來多能の者に御座候。

一飛彈の内匠と申良工往古當國え渡り所々社堂造立の由澁手村藥師堂其外在邊に一ニヶ所も有之段申傳候處或書に飛彈の内匠と申者諸國を廻り社堂等相建候段普く流説有之候へ共一人の事にては無之飛彈國は上代良工多き所故番匠共諸國え廻り社堂共相建候儀にて候旨相見え申候左候へは當國にて申傳候も飛彈番匠の細工と申事を唱へ誤り候と奉存候。

追 加

澁手村藥師堂は寛政の末燒失當時國分寺村國分寺藥師堂而已の由に御座候。

一水田與左衛門當時横尾六右衛門殿支配所澤根番所定番役相勤居申候先祖は作事方功者の聞え有之者に御座候往古當國にて造立の社堂棟札等にも大工水田與左衛門と有之候本國播州より當國え來り御普請方え被召抱候由當時の棟梁番匠七兵衛格式にて御座候哉寛永十二亥年御米渡帳十石五斗水田與左衛門と有之候由當時も三十俵の御切米に御座候間員數符合仕候右年曆の頃は御役人に被召抱候以後と相見え申候右與左衛門造作方一件の秘書等をも所持致し宮殿の造方を始櫓并櫓門扉重門等の定法は勿論大内裡造營の致方迄存居候者の由依之當國え來候以後も度々其筋の功相立御役人に被召出候段及承申候當時の與左衛門親の與左衛門は御普請所定役迄相勤申候小濱志摩守殿御在勤の節右親與左衛門を被召出當御役所櫓は九年前辰年に類燒の御櫓之儀正寸法に候哉否之儀御尋被成候處與左衛門申上候は是は本櫓の寸法にては無御座角櫓の寸法にて御座候由申上候へは志摩守殿被仰候は前方御小納戸勤の節掛合の御用向にて能く存居候其方の答に符合致候宜敷書物等所持と相見え能く存居候と御挨拶被成候由及承候然處當時の與左衛門は如何の所存に候哉作事方の儀外より相尋候ても曾て不存由申之書

物等も無之由申候段沙汰致し候是は其家柄にて御奉公申上候時は御普請定役を限の筋と差心得由緒申立を不好義にも有之候哉杯と前方一統御支配の節は陰噂申候者も御座候自然與左衛門左様の所存にも候はゞ傳來の書記は棟梁七兵衛方えなりとも密に傳達仕候はゞ御用に相立候儀も可有之と存候。

追 加

本文に有之棟梁七兵衛か伴七郎兵衛寛政六寅年大林與兵衛殿相川北澤え經一丈二尺の水車御取立の節當時は勿論近國にも無之大造の水車七郎兵衛工夫を以て無滞出來致し候故苗字御免に成且此者家の儀前々より辨仕立國中通用致候へ共仕來而已にて取極無之に付文化の度町奉行衆え御掛合の上樽與左衛門え入門辨作り方傳達受樽の字焼印受取飯國の上與左衛門出張の姿に成前々より相用候寶の字焼印に押添へ通用致し候。

一 鑄師三左衛門細工の儀先代三左衛門先々代三左衛門當時と三代の内にて前二代の細工は抜群勝れ申候由北條新左衛門殿御在勤の節は先々代三左衛門代にて鑄御誂の序に煉方色付等の儀御傳授とも數多有之候由及承候此三左衛門は別て鑄の模様等は不珍候へ共鍛へは隨分宜敷由尤其節の鑄鍊り候鐵は銀山にて鍊堀候時鐵鍊にて鑽を打候所マクテ落候を拾ひ集めモゲと名付是を以て鍊立候よしに御座候此モゲハ即鋼にて御座候間宜等に奉存候其後先三左衛門には細工は色々の工夫を以て仕出し格別模様宜く相見え候へ共鐵味は先々代程には無之由申候細工多き鑄ハモゲ計にては自在難成由に付生鐵を加へ候故に御座候哉且當時の三左衛門は細工手際鐵味共に前代よりは殊の外劣り候由にて最初打出し候節は誂候者も手引候程の義に候處近年は致覺申候哉委敷義は不奉存候以前も藤兵衛と申鑄師有之其外は説々多く候故略仕候。

追 加

本文に當時の三左衛門と有之候は銘を利貞と切其子平吉利性相應に細工致候へ共兩人とも鐵味先代程には至不申平吉文化の末御武器繕用達に相成近年致隱居當子八十歳に相成老衰に及び細工も存分出來不申其養子平六此節稽古中にて未一向手馴不申由に御座候此外當時鑄打候者無御座平六出精不致候へは國産の一品斷絶可致哉と歎敷奉存候。

一金具師善右衛門長太夫兄弟の内善右衛門は勝れ候由に御座候元文中保科喜右衛門横尾六右衛門殿支配二見浦目付役親喜右衛門江戸御用に罷越候節右善右衛門細工にて赤銅の縁頭並小柄の類を爲拵彫を誂候者有之に付喜右衛門江戸にて古川元珍方え參り細工相頼候處元珍見候て殊の外下地細工を褒候由併亦銅合せ方未熟の所有之候旨則喜右衛門え元珍口演の趣書留罷販善右衛門え爲申聞其以後拵候赤銅は格別宜く相成候段及承候尤元珍え喜右衛門對話の節火色銅の義を相尋候へは是は最上の傳授に候間難相傳段答候由に御座候且又善右衛門貧窮に相暮候義右程の細工乍致最少の勵にて大所え罷出沉彫等の習を得申候て當國より仕出し國中は勿論近國えも賣出候はゞ重寶の筋尙又自分の暮方も心安く可有御座候處都て當國の風俗にて是等の勵方も慥弱成方に御座候へ共是以邊土の住居故妻子の渡世を打捨百里餘の他國え修鍊に罷上り候儀も難叶筈旁以殘念成事どもに御座候。

追 加

長太夫の跡は研師に相成鞘をも仕立罷在善右衛門か跡は金具師連綿致し此外季十都藤五郎杯申者同職に候へ共並々の儀にて仕出し候儀も無御座候。

一槍鍛冶刀鍛冶等の儀農家の部在々の所に大概書記申候其外澤根打の槍と申傳當時も所持仕候者有之候年曆は不分明に御座候且又前段にも相記候市野谷村鑓鍛冶下坂十代之末源吉重と銘を切候作者鑑をも鍛へ候由及承候此外刀或は鑓鍛冶等以前は多く有之候由然共世上潤澤成節は他國より銘作とも數多相調國中に散在仕候に付地鍛冶打出候體の品は求候者も少く猶又外國への引け方不宜國故其跡相續家業に致し修鍊仕候筋にも無之儀と奉存候但古作の物も十五年以前成年以來大火の度々焼失も多く其上去る未年以來他國え賣拂候も多候故當時は以前の十か一も當國には有之間數奉存候。

追 加

鑓刀の鍛冶當時無之文化の度御備向に付御役所御鐵砲御修葺の爲め其筋え御掛合の上羽田町鍛冶八郎兵衛儀田付又兵衛殿手附鐵砲師え入門鍛鍊致し金具方臺方の者も夫々入門傳授受一同鐵砲師と申銘目にて苗字御免の者に相成卷直し筒など相應に出來八郎兵衛倅は一際細工宜方に御座候。

江戸澤久平と申者京都にて剃刀鍛冶え奉公致し飯國の上五年以前より打出し相應に出來候へ共例の元手薄にて未手廣に賣出し候様には相成不申相川鍛冶頭取篠原善藏近年家大工道具打出し候處河原田産程には無之候へ共手馴候は他國買入の減候様相成可申候。

一振矩師與右衛門と申者の考にて此者算學相傳
候者の由元祿年中割間歩より大安寺門前迄の水拔え石中を切抜申候其間數凡五百間餘に御座候是は其節迄の水道より又一段敷通りにて如此水道御切抜被成候へは年々水揚候樋の御入用減候考故當分切抜御入用掛り候ても末々御得分の積りにて御切らせ被成候事に御座候且又右の水拔最初は割間歩の方より一向に切申候處少しも早く切仕舞候へは御益方に候故兩方より切候様被仰付尚又與

右衛門考を以て向切に致し中途にて抜合其外北澤南澤よりも横抜を切是亦抜合申候如此石中長間の場所を無相違切通候儀無比類事ともに奉存候繼ひ其術は習得居候共公儀え御請合申上殊更四方より取掛候は其業も勝れ猶又賢き所存の者に御座候當時御代官支配の振矩師山下數右衛門と申者は先年奥州半田銀山えも被遣其後當國銀山にても度々此者考の程試申候處以前の與右衛門に引競候ては百か一にも及申間敷候右數右衛門は口演説一通りは尤に申者に候へ共實々の所作は相當不仕儀多く有之候併振矩一通りにも無之都て御稼方の世話爲致候事は其功も有之者に御座候職分の銘目一通りにては無覺束者に奉存候。

追 加

振矩師山下數右衛門か後、世職にて法を傳へ繁々御用に功を積候故に御座候哉當數右衛門年若の頃に候へ共文政年中中尾間歩水抜間切目論見の節中石を量り南方より切立候處長間の事故切延中色々の論を起し候者も有之候へ共數右衛門申立の矩にて切延候處文政八酉年より天保二卯年迄七ヶ年にて中石間數百五十間二尺四寸双方より抜合候處聊矩の狂ひ無之職分の本意を顯し申候當時同職阿部六平は多年數學に心を委ね候者故數右衛門右目論見繩引後勘定の節手傳致候に付振矩師へ御雇入有之町人には珍敷心立の者に御座候此者内職に絹襦致し菱七子精好平博多織の類を織出し相應に出來白絹白縮緬は誂候ても畑野の産に譲り斷候由尤成儀にて左程に無之候ては手狭の土地故互の職相續不致振合に御座候。

一畫工の儀往古雪丹弟子にて雪村と申繪師當國に有之候由其後狩野胖曲と名乗候者は流人葛見半兵衛と申者にて最初は守則と名乗後胖曲に相成候元祿年中當地繁花の時節故多く繪を書出し當時も所々に散在仕候流罪の根元は叔父探幽の似せ繪を致し候儀露頭の上當國え被遣候由及承申候探幽の正筆と一旦は人々も見候

程の手利に候間今以慕候儀理りに奉存候女子一人有之候處是も繪を書申候男子の内末子は江戸え罷越前細田丹波守殿え被召抱候名を凌雲と申候三人は當國に罷在候其内半次郎と申候は肝曲より遙に劣り申候へ共諸方屏風襖等認候其次は繪書不申其弟一學と申者は殊の外能書にて笑艸に相成候體に御座候何れも死去仕候且又御代官横尾六右衛門殿附繪師山尾衛守義は實は本繪師にて古河門左衛門如き者には無御座候此衛守祖父は越後浪人書工信雪と申後當國に致仕居候者の弟子にて信丹と申候右信雪は長谷川流と申候由繪の一體は奇麗に位有之候當時も屏風等所々に可有御座候衛守親は長谷川又八と申町同心相勤候處享保年中不調法の筋有之牢人仕候無左候へは衛守も町同心相勤候筈の者に御座候親牢人後衛守は江戸え罷越御繪師英信え附狩野流を學候處若年より祖父の風を學候故狩野に成候後も一體奇麗に相見え申候此者は肝曲以後の書に御座候依之萩原源左衛門殿御在勤以後代々御奉行方え御出入申人柄も實體成者故被掛御目候其後繪師師御抱入の御沙汰有之候節本繪師に候へ共繪師と申銘目にて御抱入に相成候處去る酉年御代官え繪師一人御引渡の沙汰有之候節此者は御奉行御支配を甚奉慕兼て心願相立候程に候由然共六右衛門殿衛守を御引渡可被成段御斷の旨無據御引渡に相成申候古河門左衛門は親門左衛門金銀山功者にて古今の稼所等能々存居候者故繪圖も其鍛鍊を以て仕立當門左衛門も其業を得申候處御奉行に相勤候ては當時不用の義に奉存候御支配下には何れを御抱被遊候ても御作事墨引等は埒明可申候間此末折を以て御振替に相成門左衛門儀は銀山方の繪師に相成候は、自然御爲に相成候儀も可有御座候扱又庄右衛門町顯照と申者二十年計以前京都え罷越鶴澤探鯨門人に相成其後飯國仕候て繪を家業に仕候尤衛守には格別劣り候へ共師傳傳なれば此兩人にて御座候此者も近年越後え罷越當時は居不申候其外當分の細工書は役人或は同心の内杯に數多有之

候へ共彩色等の事都て自分の了簡を以て取計候故不具の筋多く候由に御座候當國は繪師醫師など同様の儀にて身上取廻し宜敷他國より繪具藥種等取寄候て差働候者は頼人も有之候當所賣店にて商候品は兩様とも至て下品に候へ共價は高直にて御座候是等に准し候品萬端多く御座候。

追 加

繪師古川門左衛門は奥州半田銀山え罷越直に同所御代官支配に相成候節引渡に相成山尾衛守は寶曆八寅年爰元銀山御奉行御支配に相成候節より引戻に相成御作事方をも兼合勤代々繪圖方功者に致し當時地方付繪師石井靜藏は下地細工繪出來江戸表え罷出谷文晁か弟子に成司馬江漢に隨ひ測量を傳はり並分間測量天球星宿運行形象地球萬國旋轉本象寒暖昇降等製作西洋蠟燭の法等も江漢より傳習致し誹諧歌は北川眞顔より判者免許迄受け其外多能の者故文化の末國中耕地繪圖取調御用に御雇有之候處悉く御用辨宜く文政中地方付繪師え御雇相成去る酉年同人並忝采助兩人にて仕立候御國繪圖は地位方角遠近等細密の儀寶曆度の御國繪圖に見合候ては格別の違にて實に一世の力を盡し候と相見え申候采助は靜藏より書方は立増り候由に御座候四丁目武右衛門と申者文晁弟子にて文珠と名乗家業同様に致候へ共近年相果其餘當時相川に繪を以て家業と致候者無御座候役人同心町家の内にも認め候者皆漢書にて狩野流長谷川流は至て稀に御座候右武右衛門金北山道野山の内にて岱緒を見出し製し用ひ文晁え贈り候處佳品の由賞美南湖杯も同様にて佐渡産の外は用ひ不申候由今の武右衛門も製出し申候。

一琴三味線の類當國にて拵候義往古は如何候哉不奉存候大山祇神主安岡長門親伊豫と申者享保年中琴を拵候由田舎にてク様の細工仕候儀珍敷事とて人々賞美仕候其血類故に候哉當長門も細工利にて近年琴を作り宜

く出来候由及承申候其外能の面を打或は人形の面衣裳共拵申候當時大山祇の矢大臣此者の細工に候由且樂舞方も彼是藝器用の者に御座候然共神學出精の沙汰は終に承り不申候祖父肥前と申者は神學宜く其上歌學に委敷新小石集にも入歌有之ケ様の人物に候處當長門叔父出雲と申者の代より以來第三の家柄捨り申候尤公用と違ひ輕き儀には候へ共家柄の由緒一向打捨候段殘念千萬に奉存候且又弘一と申座頭相川住居にて琴を作り享保元文の頃商ひ申候此者の拵候琴を他國より來候旅人の内功者成男申候は細工は宜く相見え候へ共ケ程の器を夜なへ細工に致し候儀難心得段申候由是は盲人故細工の時心覺の瓜印を幽に附置候所々有之に付如此申候哉と聞傳に評議仕候當時は長坂町六兵衛と申番匠琴を拵候由羽田町甚五郎と申番匠近來三味線を拵候由沙汰承候此外にも功者なる番匠共有之候間右等の品作り候者可有御座候へ共差當私及承候分書記申候畢竟此等の器物は小國に不似合細工過却て輕き日用の品は外國の手を雇候儀不都合の至りに御座候是偏に銀山國の風俗にて我不知奢の兆有之義と奉存候。

追 加

一 琴三味線仕立候儀新穂町總右衛門と申者江戸表にて習候由に御座候へ共當地にて仕立候儀及承不申候。
 一 蒔繪仕候儀以前理兵衛と申者當國にて家業に仕候由及承候へ共享保年中以來は右の細工仕候者無御座候處下戸町喜兵衛と申者當時存命に罷在候先年出京の節當國に無之家業を渡世に致度心掛にて蒔繪の仕方を習得罷候由然共其後詭候者も無之打捨置候處去亥年主計殿御在勤中 有徳院様御尊牌御仕立被成候に付右善兵衛塗師元右衛門等に被仰付御膳部碗器等迄出來仕候平日手馴不申候故歟細工際は不宣方に候へ共一體は習候儀と相見え申候ケ様の節御用相違候者調法の筋に奉存候へ共田舎の口過に蒔繪を習候と申最初の存付甚行過候

哉と奉存候蒔繪の器物を調候程の者代物の多少に拘はり候筋にも無之候間是等は他邦の産に任せ其外不退に入用の品の内是迄當國にて不致類を考習得候は、無寒暖其身の過はひにも相成買求候者の爲にも可能成候處是亦根に奢の氣を含み候て考出し候儀と奉存候

追 加

當時蒔繪渡世に致候者無御座習覺居候者有之趣に候へ共當地にては一向仕當に合不申儀の由に御座候。
 一 傘の儀當國にては拵得不申皆々他國より買入申候爰元は雨雪勝なる所故日用の品に御座候竹も澤山なる國に候間心掛の者有之大所え罷越轆轤骨拵等の仕方を習國中え賣廣め餘分は他國えも商ひ候は、後々は他國の品を用ひ候に不及却て他國え賣出し候様にも相成可申哉尤當時も他國傘の痛骨を以て當國にて張替候へ共是は當分の儀產物とは難申候但他國の産は仕方を能く存候上其品を多く仕出し候間手輕く上品に相見え申候依之仕方を不習得者見候ては中々難仕立差心得其手段を學ひ不申候故いつにても自得の儀無御座候是等は町方に肝煎の者有之相勤め候は、不日に致し覺え商賣の助に成可申候。

追 加

傘の儀鹽屋町太一と申者二十年餘以前より新骨の傘仕出し國用に成他國えも賣出し相應相勵み近年同人相果悴代に相成候へ其實體成者にて出精致候由に付追々手廣に相成可申奉存候。
 一 紙漉の業當國に無之儀前條農家の部にも相記候通りに御座候是は上品の製作に至り不申候とも日用の龜紙なりとも多く漉出し候は、運送掛り候他國の産を調候と違ひ價も下直にて餘程國中の助に相成可申候其上傘拵候紙或は合羽拵候十文字紙等をも漉出し候は、此兩品を爰元にて仕出し候勝手も宜く奉存候尤紙合羽

は當時も仕出し候へ共紙を他國より買入候に付代物は他國合羽と同様に田舎細工丈引け方不宜由に御座候此上に紙漉出し候は運送丈け地合羽の方下直の筋に奉存候且又十四五年も以來一兩度他國のもの共相川え參り龜紙を漉候へとも前々より紙漉不申所故楮も生立少く楡杯も無之候故畢竟當分目論見一通の事に相成相續不仕候近年相川二丁目邊え他國者罷越漉返し紙を仕出し候へ共是亦紙屑に加へ候楡無之候故接骨木の白皮或は卸し芋等を差加へ漉返し或は麻糸を製し候屑に紙屑を取交せ右のねはりを加へ漉返し候由彼是相勵み候へ共一體楮楡等の要用拂底成所其上仕入手廣く無之漉方も不功者と相見え取續不申候是亦世話煎の者有之兼て空地の所え楮苗楡杯を多く植置根強く取掛り候は數年の内地他國同様の産業にも可相成と奉存候。

追 加

紙漉方の儀在相川にて度々相始候へ共相續不仕候處去辰年甲州より三ッ股種一石御取寄國中所々え蔭付被仰付紙漉並作方心得候者兩人甲州より召寄水金澤に漉場所御取立當地の者に漉方傳達致し去亥年より町人引受に相成龜紙漉立致居候處三ッ股も最早成木致し楮杯も先年より追々の御世話にて相増候間此後漉方相續可致哉と奉存候。

一陶作候儀古來は如何候哉及承不申候三十四五年も以前後藤庄三郎當國屋敷の内に高田與右衛門と申者江戸表にて陶作覺候由にて田島四郎右衛門當時の四郎右衛門曾祖父屋敷の内に竈を拵へ皿を燒申候處藥の艶出不申下品の砂皿よりも一段惡敷出來候段及承候其後元文中相川五郎左衛門町來迎寺住僧當子年相果候下寺町法界寺雲州松江の産にて於彼地陶作覺候由にて香箱襪の物燒申候樂燒の目當にて細工手際を不好田夫に仕立唐の土一味を以て燒申

候其節私共三四輩見習燒申候内保科喜右衛門喜右衛門親喜右衛門と申者は都て細工功者に付右の出家とは格別細工を第一に仕立香炉香箱茶碗等迄燒申候へ共藥は唐の土一味にて仕立候迄に御座候然共藥の艶は随分宜敷以前高田與右衛門燒候節の不手際とは格別に候を相考候處與右衛門は仕方を存候迄にて唐土の目利を不存故當國にて調候藥にて燒候故藥掛不申者と相見え申候右來迎寺傳の第一は唐土の目利方に御座候當所藥店に有之品は用立不申方に候扱又私共打寄色々の藥掛方の儀石の出家えも相尋候處傳書は數々有之候へ共仕方不分明に御座候依之外に致方も無御座候儘江戸表より唯置候色々の藥を下引に致し上へ唐の土を塗り燒候へは下地の唐土と一所に流れ候て模様留り不申候兎角此義は一傳有之事と奉存候て打捨申候乍恐御江戸表にても近年時花候義にて御手廻り方の内御功者も御座候は仕方御書付御傳被下候様仕度奉存候後々は國用一助にも可相成筋故奉願候且又土の義は相川南澤の上藤權現と申所の土此邊にては宜く候へ共是以土の生を扱候義習有之と相見え私共燒候品は恰好より重く其上土目有之儘に相見え候様にて卑く相成申候是等の義傳法の事年來希ひ罷在候奥州桑折近邊飯塚と申所にて燒物作出候處是は其邊に藥に掛候土有之を取候て多く燒出候段尤下地の土も黒く下品に相見え藥色と黒赤の合色にて卑く候へ共至極堅地故民用には第一に御座候當國にて前々より用來候陶の器物は皆々肥前唐津の産にて日用の茶碗鉢皿等も多くは唐津物を用ひ申候數百里海上の運送を掛候て調候義に候間何卒當國にて多く爲燒出國用可也にも相達候様に仕度奉存候前段申上候模様色々藥の掛方決定仕候上追々爲燒習候は自然と四民の助にも相成可申奉存候。

追 加

陶作候儀は三丁目金太郎と申者年來心掛他國え罷越習受け土地の土を以て藥に致候儀相辨へ國中穿鑿致

し終に案に當り候に付寛政の末願の上相始め皿鉢瓶の類其外日用の品々出来致國用を辨し調法の儀御座候間相續爲致度ものに御座候。

一筆墨は日夜の入用に候間其業間斷無之品に御座候條上品の物は他國より調候共下品は國中にて製作致可然候處兩品とも當時外國の産を用申候尤十ヶ年計以前までは相川町に筆師兩人有之一人は京都高森家の高弟にて九郎左衛門と申候一人は加州の産にて宗四郎と申候此者は其業拔群九郎左衛門より劣り申候是は一國中へ差渡り候はゞ宜き家業に可有御座候處九郎左衛門は其品相應に仕出し宗四郎は至ての貧者に候且筆結立候入用の品皆々京都より取寄仕立申事故是亦運送彼是にて自然と商方細り段々貧窮に相成其業間に合ひ不申儀と奉存候二十年計以前相川町人京都え罷登筆買下候節其商人申候は佐渡には京都高森家の高弟參居候筈に候左候へは弟子杯をも多く抱仕入可申候處京都より筆買下し被申候義は難心得と不審を立候由其節取沙汰仕候九郎左衛門は是程名を被知候筆師にて候へ共國に有台の品を以て家業相勵み候と違ひ運送杯の費有之候故京都より買下し候筆と違ひ仕入不自由丈々相續成兼候と相見え申候且又墨は往古より當國の製作會て及承不申候是は筆と違ひ國切にて製作相成品に候はゞ一廉の身過にも罷成其上運送程の價下直に候はゞ國用の助にも可罷成奉存候但先年奥州半田にて承候へは下品の墨はカヂメを燒候て製作仕候由御座候如何偽説にては無之候哉無心許奉存候。

追 加

筆は先年鹽屋町久兵衛と申者少々つゝ仕立賣出候へ共同人相果候後は相川に絶申候當時湊町四郎三郎相應に仕立候へ共元手薄にて仕入出来不申候由に付世話致候者有之候はは國用を辨し候丈々の儀は相成可

申儀に御座候墨は寛政の頃醫師時岡東作製し候て御役所え差出し候へ共品よりは直段高く其上墨は三ヶ年も乾候て賣出し候物の由に御座候處仕立候て一通り乾き候へは且々賣上候故尙更品劣り候様相え申候其後は墨製し候者及承不申候。

一紙子細工當國にて是迄不仕候適々手細工に致候者有之候へ共當分の慰同前にて家業に仕候者は無之候尤紙漉の業無之候間高直の紙を買入仕立候儀にて相續難成趣に候へ共此品は傘或は紙合羽等と違ひ他國より買の紙子取寄置不申候間爰許にて仕出し候はゞ別して寒國の儀故調兼候者も勝手宜しき筋に奉存候奥州桑折邊にては専ら紙衣を製作致し日用着候もの多く御座候當國にては紙子着候者は隱者か或は至て貧者の着候物の様に相心得其上銀山の風俗にて質素を用ひ候所え不至下直の品にて寒を防き候要所え心付不申儀と奉存候是等も世話煎の者有之追々仕出し候はゞ費を省き候一助にも可有御座候哉。

追 加

紙衣今以仕出し候もの無御座候。

一染物の儀往古は不奉存凡三十四五年も以來は偏に木綿を染出し候迄にて適絹類を染候ても殊の外物際悪敷其上絹類を着し候程の者は染物模様も上手を好候故京都え誂候處五七年以來は此許染屋にて大概の模様物染出し形際も以前とは格別宜く御座候尤大所の如く望に任せ候程自在には無之候得共一向他國の手を雇候義にも無之可也に國用相足り候程には染申候此後絹織織出し候はゞ下地染ともに國中にて調ひ一廉費をも補ひ可申奉存候。

追 加

染物の義絹類も當地にて相應に出來別て五郎左衛門町紅屋清右衛門と申者代々手際宜敷候故格別の品の外江戸京え誂候義など容易に無之程にて國用を辨し申候此者紅を製し候へ共餘計賣出し候程にて致し不申是も元手薄故に御座候佐渡事略に去丑夏天明元に出羽の國の者來る住居せしめて紅脂を製せしむと相見え申候は此者の親にて其節より紅屋とに唱へ申候。

一竹細工の義網代笠或は翠簾の類をも近來在々により仕出し候へ共相川にては是等の細工師は見當不申候此類は他國の簾を用仕出し候とは違ひ如何様にも觸み候て繪簾笠等の物仕立國中は勿論外國えも出し國産の名を可被稱義に候處取締世話煎候者も無之故欺等閑に相成申候且又煙管のラウ竹張衣の簇或は塗箸物指等の類是等は爲差六ヶ敷細工にも無之候處上方より買下し申候海上百里餘の運送を掛け商ひ候て利徳有之と相見え候へは居ながら當所にて仕出し候は是亦運送丈々の餘慶は有内の事に奉存候處一體當國の者は不退の小利を捨不時の高利を心掛け申義畢竟銀山國の風俗に御座候但右竹細工の内塗物の類は大小にて手廣く家業致候所にては刷毛拭と申にても一廉の塗物出來候由當所にては其物限に漆を認め塗出し候ては元手に迷ひ候筋も可有御座候哉依之密陀塗等の手練を以て多く仕出し候は家業にも可相成申哉と奉存候。

追 加

竹簾は近年仕立候もの追々出來候へ共其餘本文の品には今以仕出し候者無御座候。

一蕨繩の義先頃被爲仰聞候迄は江戸表にて壁下地を結候に用候義不奉存候處御意を承候ては國用の品故爰元にも製し方存候もの有之候哉承合候へ共差當り存候者無御座候是迄庭の造り樹扣繩等に用候は上方より少々宛取寄候義に御座候蕨生出の後ヒネ候時取候て製之繩に仕候事に候哉不分明に奉存候製方相知れ候は

追々産物にも成可申候且又蕨粉の義も承合候處大野村邊の者拵試候者有之葛の根を製し候如く致見候處葛とは違ひ蕨の根は搗碎候柏と粉と相交り柏を水にてゆり捨候時分りかたく候故漸ゆり分け候へは殊の外少分に相成家業に難致體に候段申之候是等致方不分明に御座候委く仕立方相知れ候は是又一廉の産物にも可罷成奉存候。

追 加

蕨繩仕立候者當時無御座候蕨粉は寛政の頃より柴町半十郎と申者製出し當時大間町六兵衛と申者製し候趣に候へ共料理屋渡世の者に付蕨粉は名目のみに相聞え申候新穂町には蕨粉 粉製し候者有之由に御座候下新穂村與次兵衛と申者十年計以前他國より參り候者に茗荷繩棕櫚帯の仕様を習ひ少々宛仕立候て自身商ひ步行候へとも未餘計は仕出し不申棕櫚は元年少く候故泉本正助殿種御持越正明寺村谷五郎左衛門に時付被仰付同人方に夥敷出來望候者吳出し候に付追年相殖候て與次兵衛も追々棕櫚細工多く仕出し候様相成可申哉と奉存候右五郎左衛門は若年の頃より有益の草木を植候義相好候故安永中柘植三藏殿楠の種を爲御蔭被成候處一本生し候分當時大木に相成芽生を分け候分も成木致し國中に楠は五郎左衛門屋敷の外は無之由に御座候。

一疊の義は是迄紙縁を不用又無縁疊を用不申候是等は心に不相求奢にて疊は布木綿の縁を付候事と計究居申候私も先年江戸に於て縁無之疊を租見申候處等閑に相心得罷在候義は偏に當國の風俗にて御座候間尤當時急に可致にも産無之候間兼て世話煎の者有之片目産と申下品の物を幅廣く織出させ候は勝手向の疊には追々一統相用之候様にも相成可申候尤他國より商家え駄荷を包來る産を七度産と唱へ候て町家に有之候處

是は幅廣く強く候へ共代物高直故質素方に難取用候間地産にて織出し候様致度奉存候。

追 加

紙縁の義薄縁には用候へ共疊に用不申候義は勝手の疊損し候へは表を取替座敷へ用ひ順々古き方を勝手へ出し候習はし故座敷は客來等のため町家も布縁を用ひ平日は敷紙又は薄縁にて覆置候義に御座候無縁の義も國産の片目産を幅廣く織候へは直段高く其上菌弱く候間損分に當り候よしにて町家にては七度産を相用候由に御座候。

右は差當り私存付候分書記申候前段農家の部にも在々にて仕出候細工の品は少々書記申候且又當國にて大工と唱候は一向銀山銀穿の名目にて家大工は番匠と申古風の名目を呼申候相川番匠は細工手遅く候ても上品故世柄宜敷節は世風に合申候其上相川番匠は給銀高く候在郷番匠は花奢風流の細工は得手不申候へ共手早く利へ給銀安く候故世上豊なる時も利勘の者は在郷番匠を雇ひ申候疊利等も此趣に御座候船大工は又一體別段に御座候其外相川にて塗師研師鞘柄巻師張付師等の類も入用の時差支無之程に候へ共當時世柄惡敷候故皆々困窮に及び漸く其日暮の體に相見候者多く御座候仕立屋は有之候へ共革屋足袋屋は當時無之先年は足袋屬有之候尤足袋は自細工等にも仕立候へ共其品不宜多分他國より調申候基將基は平吉と申番匠其名を得莧蒭屋か石垣善次か屋根坏と流言申候は皆々其働の上手を賞し申候黒萩細工は當國の名物に御座候へ共民用の品に無之候間賞販薄く奉存候螺鈿の細工は塗師の内にも致候者有之又内々にて致候者も御座候へ共是は非其家慰同然に仕候畢竟硯箱重箱等の類も溜塗黒塗等の外は田舎にては無益の筋に奉存候但相川邊に炮賣買致候者も有之候間炮貝多く候條螺鈿を製し大所え出し候は渡世にも相成可申候哉革細工角細工等は縦ひ仕習候とても當

國に厭無之候間其品他國より取寄細工致候は例の運送沙汰に拘はり榮久の産物には相成申候敷候水晶葡萄石赤玉石其外色石の玉細工を致し候は一廉の産物にも成可申哉然共是亦民用の筋に無之候間賣買方兩様の渡世には不罷成候相川にて諸細工の品都て手廣く仕出し不申義は船入津の場所に無之故外國えの捌蕪敷其上銀山宜敷世間甘き候砌は代物の多少に不拘上品を京都より買下し候國風にて産物の下品を仕出し候ても其時に合不申候困窮の當時は外國の産を省き鹿相の國産を用候時節到來と奉存候尤前々よりの御法度書に新規の所を仕出し候事を御製禁被遊候義は其代物の費を御厭ひ被遊候て其場所衰微不致様にどの御賢慮と乍恐奉考候然上は當國にて産物仕出し候義は價高き他國の産を求候事を厭ひ候て質素儉約の基に候條格別の義に奉存候間一統心掛可然筋に奉存候且又是迄他國より買入候品を自國限りにて補ひ候ては中買の者共渡世に相障可申趣に候へ共其義は一方の難義のみにて國相應の産物を仕出し候は賣人買人双方の助けに成り永久の基に御座候間旁以て自國産物を以て國用相足り候義調法の筋に奉存候。

追 加

革屋の義寛政の初革細工致候者他國より罷越住居致し死牛馬の皮を剝用ひ候處滑方不宜大林與兵衛殿雨覆鞆爲仕立御持歸有之候へ共御用に不相成由及承候其後も代る々に皮細工師有之候へ共廉立候細工出來不申何れも雪踏皮下駄緒位の事にて候尤困窮者に候へは國用の補に相成候程の義は致得不申候由當時は若年者一人に相成申候。

一商家風俗の義在中の分は大概農家の部に相記申候相川町人の風俗並時代の相違土地の興廢等有増左に記申候凡相川府中に相成候大本は慶長六丑年當所銀山始まり夫より次第に盛出て自他國より人數多く入込候に

付最初は小屋掛の體にて居住致し其後慶長八卯年人家を建連ね翌辰年鶴子の陣屋を御引移相川御役所造作全く出來候もの則當時の御役所地に御座候此節の御役所は正保四年類焼仕候右年曆以前は此節御役所の所其外中通の間を野田八千菊と申候て田地に候由尤府中に成候後も當時四十物町の邊を小田の尻と申候て古名を呼候旨及承申候相川も往古は鮎河と唱へ藍川共申候由當時の濁川え鮎多登候由に御座候處府中に開發以來は金銀の氣有之水流出候故か鮎は無之候其後相の字に書改候段申傳候依之商人の渡世も偏に金銀の榮枯に連れ候義にて銀山仕當の時は隣國は勿論京大阪えも差渡り衣類諸道具に至る迄美麗高直の品々を買下し商ひ候故有徳なる者も多く御座候銀山衰候時は外に船津荷場等の働無之所其上隣國も海上隔り往返に運送の費有之に付當所にて片付兼候品を他國え相拂候繰合も不自由の所に御座候然間近年打續き金銀山不景氣に隨ひ以前宜き町人世帯を破却仕候者多く御座候尤以前幽成者當時相應の身柄に成候者も有之候へ共是以衆を抽候て有徳に成候は無御座候。

追加

本文に近年金銀山不景氣に隨ひ以前宜き町人世帯を破却仕候者多く以前幽成者當時相應の身柄に成候者有之と相記し申候當時も大體は右の趣に候へ共其世に存続候ては格別の衰に相成申候其譯末に相記し申候。

一町家の内にも至ての貧民大工穿子金銀山の働人の類より白挽ネッ流し買石の働人の類其外銀山方え拘り候商賣にて身過致候者過半有之候濱ズリ川ズリの業も鏈石を習見候事さへ相成候へは大人は勿論十歳内外の小人却て父母をも養ひ候族是等は外國に無之渡世の幸とも可申候哉且又右の業は度々出水等有之候へ共其跡は宜鏈御座候。

候無左候て早打續候節は不宜候且往古は右のズリ請役過分に相見え申候慶長十八丑年分銀五十三貫五十七匁請ズリと古書に有之其後元和四年は三十三貫二百五十七匁と有之候慶長元和の勝劣を考候に元和年中は一段諸運上も多江戸上納等も相増候間請ズリ杯の運上も可相増候處却て劣り候義は慶長の末迄は濱川に捨り候鏈石を拾ひ候義も無之年々捨り有之候を右年曆の頃より請負拾取候故請役多く候哉其後は年々運上相立候に付元和年中は却て少く候哉と奉存候此請ズリの類は當時も御連上可有之奉存候。

追加

濱ズリ川ズリの運上相止候義は寛政十一未年御役所御類焼にて相知不申濱川にて右拾取候鏈を買入粉成吹の上金銀に仕立賣上候者を外吹買石と唱へ候處寛政の度御差止右等の鏈穿鑿勝場と申にて取扱文化の末より大吹所取扱に相成候處銀山不盛故至ての薄鏈迄本途粉成に致し金銀高を成し候に付其先え捨り候石は尙更金銀氣少く格別下直ならては御買上に難相成候故近年は濱川の拾石渡世に致候者無之銀山内の川通にて拾取候鏈は少々宛大吹所え賣上候由に御座候。

一相川中往古家數並人數の義不分明に御座候併故實家味噌屋町豊左衛門と申者享保の末極老の物語にて相果申候以前辻八郎左衛門え豊左衛門相尋候は此八郎左衛門は當時徳尾六右工門殿支配役人辻六右工門祖父留守居役相勤申候往古繁華の節は相川中の人數八萬人程も有之候由及承候段申候へば八郎左衛門即答に夫は遙に後の事にて候大昔は相川町中に三十貳萬人餘有之候段及挨拶候由豊左衛門申之候當時國中にて漸十萬人に不及人數にては繁昌の節なりとも相川計の三十萬人餘は如何可有之哉と正偽の程人々無覺束存候義に御座候然處私古書を以て相考候趣は萬治元戌年の中勘定以前は中勘定申事有之候帳面に相川退轉の體にて地子御免の義町人度々訴訟申上依之戌四月より地子一圓御免の由有之

候但正月より三月迄三ヶ月分銀三貫百四十八匁二分と相見え候是を以て一ヶ年を積り候へば十二貫五百九十目餘に見え申候尤家数人別等は無之に付尚又十ヶ年前慶安二丑年十一月分と有之相川地子銀帳を見申候へば上相川の外上相川は別帳に相川六十七町但願町等迄地子銀八百九十七匁八分六厘外一匁六分四厘上此家數千六百五十九軒外六軒と相見え候上相川は別帳にて此年分の帳面不相見依之四年後慶安五辰年四月分地子銀帳上相川二十二町此地子銀百六十六匁六分外二分四厘上此家數五百十三軒外一軒上と有之を右に記し候慶安二年の高え差加へ全一ヶ月分に積り町數八十九町地子銀都合一貫六十四匁四分六厘家數都合二千百七十二軒と相見え申候右一ヶ月分の銀を一ヶ年に積り十二貫七百七十三匁五分二厘但家一軒に付一ヶ年に銀五匁八分八厘餘平均に相當り候是は慶安年中の積りに御座候此趣を以て往古繁華の節に引競候へば慶長十八丑年相川地子銀高家數等は見九十一貫五百六十目餘の由其後段々相川繁昌に相成元和四午年地子銀高百三十八貫二百六十一匁九分外一貫百五匁三分相川と相見え候但午年は閏月有之候に付一ヶ月分割合十貫六百三十五匁五分餘之殘銀百二十七貫六百二十六匁四分相成申候此高を前段に記し候慶安年中の家一軒一ヶ年地子積り五匁八分八厘を以て平均候へば元和四年の家數凡二萬千七百軒餘と相見え申候是を以て家一軒に人數十五人宛と相積り候へば三十二萬五千五百人餘に相當り候尤一軒に十五人平均は多き積りに候へ共諸士の部にも相記し候通り正保慶安の頃迄も役人の手前に下人多く抱へ一人の家内二十人計も有之者多く候へば増て元和年中抔は宜き町人共の内には二三十人は抱の義に奉存候間前段に申上候辻八郎左衛門豊左衛門え三十二萬人程と相答候に符合仕候哉と奉存候但在々地子銀は元和四午年分三十三貫四百五十七匁一分屋敷年貢と前段に地方の部に有之候へば相川地子に紛れ候義は無御座候伊三十萬人の飯米過分の義にて其節の

地方二萬千石餘の分にては一ヶ月の飯米にも届申間敷候右午年分の帳面に銀六十四貫目餘越後米佐州え參り候役銀と有之候へ共此元米の分にては是亦中々及申間敷候然に相川四ヶ所の番所此下戸番所此は無之候在々五ヶ所の番所澤根澤根小木赤泊松ヶ崎夷午年の十分一入御役銀の義十銀都合四百五貫六百七十九匁一分と相見え候此内にも他國米入役籠り有之候哉又は右越後米の外は無役にて成とも他國より米買入候哉旁以飯米の一件不分明に奉存候且又右十分一の内大間番所は百八十四貫目餘羽田番所は五十四貫七百目餘何れも他國より諸色買入候御役銀に御座候其外相川中小役銀九十八貫七百目餘に相見え候如此運上差上諸色買入候時節故商家の賑ひ至て繁華の風俗中々當時の管見を以て愚察にも難及世柄に御座候且又延寶二寅年曾根五郎兵衛殿江戸より佐州廣間役え被遣候御用狀に相川中飯米一日に百石宛の積りにては去年より唯今まで米にて納り候高一萬五千九百七十七石九斗九升有之候此分にては相川中にて來る四五月中迄の飯米可有之と被存候其上當夏他國米少宛も參り候はと手支申間敷候由の御紙面に候慶安中地子銀帳の趣にては此節も家數二千軒餘と相見え候間右一日に百石積り相當と奉存候往古地子銀高格別多く候に引合候ては返々飯米の積り不分明に奉存候。

一相川町並も寛永六七年に至り一丁目より下戸町まで町割出來正保二酉年羽田町札ノ辻より海府番所迄の町割出來候由古書に有之候但元和年中の相川地子銀等の趣を以て相察候處往古は一向銀山近邊の居住を第一に仕候て下通には銀山手寄無之者計り居住故町並も遅く出來候哉去程に上相川千軒北澤千軒抔と申傳候南澤北澤は買石の者居住の所と承候是は水の手宜き故に候哉且往古淡路と申大買石の者北澤に罷在銀山より鎌を買下候勝手に依り當時の彌十郎より北澤え掛け道路を開き當時は淡路坂と唱へ申候數百金の地代を屋敷主え相渡候旨申傳候是は鎗持人の賃銀格別遠候に付當分地代を出し候ても年を歴候ては其費を補ひ候義故如斯目論見

候由に御座候且慶安の頃は世柄も衰え候節ながら地子帳に有之候町數等を見申候へば當時無之町々多く御座候勘四郎町大坂町東次助町小澤泉澤諏訪町澤庄右衛門後町庄右衛門澤清右衛門町後町下戸炭屋後町杯と申所當時は一向人家無御座候上相川二十二町杯は猶以多分明屋敷に相成候其外元和の頃は南澤の上大澤の邊富士權現の邊或は關東平向山平の方にも人數多く有之増て銀山の方は當時人家無之深山迄も己前住居の古名申傳候け所とも御座候其後山手の不景氣に隨ひ下町賑ひ候方に相成候義古今盛衰の變と奉存候。

追 加

當時上相川の間に纔に家數三十八軒に相成其外間山庄右衛門町次助町六右衛門町南澤邊杯明屋敷出來候へ共下町え至り候ては以前有徳の者多分潰れ其大家を日雇取小商人杯え切賣に致し竈數相増以前廻船團場に致候羽田町濱地に家並出來二丁目三丁目下戸町の大濱町は以前片側の處兩側家並に相成北澤は享保の洪水にて兩側共家作押流し北側計追々人家出來候處文政七年新帯刀坂御切開き多年塞り居候淡路坂も翌年御取開相成候に付兩側えも家並出來勘四郎町えも家並出來致候竈數人別相増候は銀山不盛にて薄鏈多く掘出金銀の高を成し候故人歩餘計相掛り候に付小前の者多く相成候義にて是亦寶曆の頃と當時との盛衰の變に御座候元祿の度一國檢地の節相川町檢地帳の跋文に屋敷の義末々隨銀山盛衰上中下の品可相究先此度は一同の石盛付致置者也と有之御尤なる御取極に御座候。

一佐州にて往古印銀無之節は金銀の外上銀をも取遣仕候由然其極所にて改印等を打通用致候様なる義にても無之人々の手前にて小切に致し日用輕き商物の代にも其程々に應し小く切り候て取遣仕候由依之自然と上銀散亂致し他國え拔出し御取締不宜故歎元和五末年鎮目市左衛門殿御支配の節印銀吹始り札遣同前に一國

通用仕後藤銀上銀の義に候八分引の積りにて市左衛門殿より竹村九郎右衛門殿御支配中又々印銀吹足相成其後伊

丹播磨守殿御支配正保四亥年相川大火事にて御運上屋當時御金藏の義極印座當時印銀所の義併兩所共に往古は場所違候由に御座候の有印銀燒失候

分吹立高五百七十七貫百目餘と申傳候是は兩役所有高の燒却銀を吹立候分迄にて元和五末年以來正保年中

まで國中に有之印銀の總高は相知れ不申候但正徳二辰年以前は當國の御勘定總て銀勘定に仕上候故印銀の

名目は御勘定帳えは記し不申佐州御藏有印銀も置御証文を以て後藤銀に八歩引の積りに相成來候へ共

正徳二辰年御勘定迄にて其後は印銀勘定に相成候正位は後藤銀より二割も三割も竈敷候義畢竟他國え拔出停止の爲と及承申候且又慶安

四卯年似せ印銀致候者有之重科に被行似せ印銀は位惡敷候に付上銀を加へ吹直し被仰付候依之御運上屋極

印座え取集め納り候印銀總高千四百一貫百九十三匁三合此内似せ印銀二百八十二貫三百九十三匁九分外上

銀五百六貫四百九十目七分は右の似せ印銀位惡敷候に付前々の位に爲可致差加候分とも都合千九百七貫六

百八十四匁此吹立千九百三十八貫三百二十三匁九分の内千九百三十二貫目七分五厘は右御運上屋極印座元

印銀並上銀代其外印銀吹立萬入用等に引之殘六貫三百二十目餘は吹出御利合に相成申候此似せ印銀致候義

置御証文に有之候へ共高辻は無御座候に付覺書の趣を以て書記し申候尙又印銀の義古來より度々吹足吹直

し等有之候へ共位は往古の通に成來候處正徳元卯年萩原近江守殿御支配の節は位共に吹改り申候其趣意は

近年銀山御取立被遊候に付前々よりの印銀不足にて一國通用不自由其上古印銀は位能く候故他國え拔出段

々相減候に付此度は古印銀七割も六割も位竈敷爲め爲吹申段委細は置御証文に有之候且又右卯年吹替の節

御運上屋極印座並町々在々より寄印銀元高八百二貫四百二十目九分此吹立印銀千三百四十八貫九百九十四

匁五分外九十七貫百三匁四分は吹減申候の内八百三十二貫九百二十八匁四分は元印銀並印銀吹改候諸入用等に引之殘五百十六

貫六十六匁一分は全吹替出目に御座候此節の印銀當時通用仕候且右新印銀の内正銀は前々の儘にて被差置外に鉛銅等を吹加候義に御座候扱又前文にも相記候古來印銀の位後藤銀に二割も三割も位惡敷候由其後正徳元卯年御吹替の印銀は古印銀に六割も七割も位惡敷候由左候へは當通用の印銀正銀の積り殊の外少分の趣に御座候元文三千年井戸三五郎殿於江戸當國の印銀御札吹被成候處印銀百目の内上銀三十六匁三厘八毛七弗餘御座候此節の目録文銀積り等の書付有之候是を以て前々の書面に引當候へは御札吹の正銀多き様に奉存候寛保二成年相川大火の節焼流印銀少く先位同様に御吹直有之其外正徳以來御吹替は無御座候五年以前酉年印銀の通用一旦御停止被仰出候節其後又々通用被仰出候御藏々有印銀並國中有印銀を御札被成候處以前の吹立高よりは殊の外少分の由に御座候是は町人共の内有印銀多く差出候義を如何に存し不差出も有之候哉其外先年より買石方にて内々吹潰の風説も有之其後露顯同然の吹潰も有之候由其上先年京都え罷越候者の噂に彼地商家の内には密に爰元印銀等の引換相場迄定法有之沙汰承候其外他國所々よりも絹商人藥賣杯入込長逗留致候者先年は數多有之風説不宜義共御座候御在動により他國者不差置義共御座候ケ様の儀にて當國の有印銀迄も相減候筋も可有之奉存候別て近年は御藏米代其外上納の物多くは錢にて相納り候故賣買方の取遣とも金錢にて埒明候故印銀は不用の物の様に相成候へ共縱令取遣金錢にて埒明候共御藏々並國中に印銀有之候へは通用差滯の害を除き候筋と奉存候一向印銀無之候はは外國と違ひ渡海の場合隣國通用も不自在にて旁差掛り急變難義の筋出來可仕候然間印銀國中に有之候へはケ様の計を巧候者無之候間當時印銀の通用薄く候共自然と錢の身柄持上申道理と奉存候

追 加

印銀通用寶曆の初より金一兩印銀八十九匁印銀一匁錢四十八文替に定り候處町方にて四十文にも通用致兼候故銀山え被雇候者難儀致候に付寶曆十辰年より元文以前の相場に復し一匁を二十六文に定り候處翌己年印銀通用御差止に成り印銀七百七十七貫二百三十一匁九分四厘四毛八弗吹潰の上灰吹銀二百四十一貫五百九十八匁三分筋金二貫二百六匁出來筋金は小判に致し一同江戸上納に相成江戸表より文銀二百三十貫目御差下常是役人も詰合通用致候の處寛政三亥年より文銀も相止み金錢のみ通用に相成申候然共于今麻苧打綿木綿魚類野菜等の商人藥店紺屋杯は印銀の唱へにて一匁を二十六文の勘定にて取引致候習はしに御座候文化の度より四文錢通用御藏納にも相成候義在町え御觸有之候へ共田舎にては不辨理故歟通用の様子無御座候處近頃二朱金一朱銀通用始り候以來金銀通用重に相成下賤の者共金銀を取扱候故自然と氣高に成り錢遣ひ荒く成り候由に御座候。

一相川町人以前出上銀と申を他國え出し過分利徳を得候者も有之由申傳候次第は往古より上銀他國え出し候儀堅く御制禁に候處銀山盛候節は金銀吹立方等の御取締も行届兼自然と抜出の筋も有之候故歟伊丹播磨守殿御支配正保二酉年始て出極印銀と申義を被仰付候但出極印銀と唱候は他國出改の極印を打候上銀の事にて印銀の義には無之候然る上出上銀共唱申候且前々より當國の出來小判を極印座にて印銀所町の者え御賣被成候處右出上銀被仰付候酉十月八日より小判と出極印銀と半分つゝ取交せ御賣被成候趣の古書相見え申候但小判一兩に付印銀七十目宛出極印銀は五十六匁是は金一兩に付て五十六匁の定め也印銀六十五匁五分宛と申御賣直段に候其節浦方番所え觸書の趣他國え出極印銀出し候間改無通滯出し可被申候公儀極印は佐の字後藤座極印は三ツに候此内一ツ休二ツ宛に候右四ツの出極印鉛に打手本に差越候事其外極印座より出極印銀に出切手を被添

候間銀目改出可被申候留帳には添切手を寫置銀持出候町人の名印並其所の宿の者名印爲致可被申候極印座添切手は一ヶ月限り廣間え可被差上候小判は他國出員數に構無之候他國出の者路銀は如前々一人に銀二十目の外出極印無之銀一切出し被申間敷候筋金山吹銀紛出に於ては旁可爲越度候是等の趣の觸渡に御座候路銀二十目宛は往古より御免許にて他國え持出候事と相見え申候同年播磨守殿え廣間役より御用の儀申上候留に酉七月より九月まで三ヶ月分極印座にて買候上銀の高二百十三貫四百十三匁八分五厘の内六十一貫六百二十七匁五分は銀の位能候間極印を打申候殘て歩安き銀は位惡敷候に付極印座にて吹直し可申銀に候へ共此度始て出極印銀に仕候間町中せりに掛ケ候へは右銀一貫目に付極印銀九百八十六匁に町の歩替長太夫と申者せり詰候て吟味の上申付候印銀の位は後藤掛銀の位にて候由の紙面に御座候右酉七月より九月まで御買上の上銀高二百十三貫目餘を以て一ヶ年分を積り候へは山出上銀八百貫目餘も有之時節と相見え申候出極印銀相止候は何時頃候哉不分明に御座候他國出有之節は前文にも申上候通町人共商賣一助に相成候由及承候小判も公儀より御賣出し被成候へは國中潤澤にて通用不差滯候處其後御拂金相止候故享保の末には金一兩の公儀相場は印銀百六十目にて町相場は二百二十三十目迄に上り通用甚差支候處元文金吹替以後當國金錢公儀相場ども改り候故以前程の引替直段違は無御座候。

追 加

金錢の相場元文金吹替金一兩錢三貫文替の處追々錢安く相成四貫四百四十八文迄に相成候に付寶曆十辰年より四貫二百文を以て御藏定相場に相成候へ共國中々錢安く相成候に付天明四辰年より相川市中河原田町夷町小木町四ヶ所に越後出雲崎新潟を加へ六ヶ所の相場を平均一ヶ年四度二月五月八月十一月切替候事に相

成文化の頃は一兩七貫二三百文迄に至り候處當時は七貫文程に相成申候切替月の間増減有之候共纔の事にて公私の價先は同様にて損益無御座候。

一 相川下通町割等の儀寛永二丑年に至り出來候よし前段にも相記し候通往古は商家も銀山得手の方を第一住居に可仕筋と奉存候且寶永の頃濁川町に土器屋祖父と申者有之元和中の出生凡百語り候は相川四丁目彈誓寺の六歳まで存命の由右の老人少年の頃此岩に登り魚を釣り申候由扱々様人家の裏に有之に變し候もの哉と相語り候段及承候當時は其場所より濱手に濱町有之其濱手に市町有之其濱手に非人小屋有之夫より汀え掛け白濱有之左候へは往昔の體如何とも察に難及程に候へ共左様も可有之と奉存候は相川海邊の變化候義材木町より海府番所邊迄の汀の砂を引取二三丁目より下戸の方え打上げ候様に相見え私共幼年の節よりは南手の濱殊の外廣く相成申候纔の内に如此變化候を見申候へは往古よりの變は左も可有之義と奉存候材木町板町邊の濱も三十年計以前は淺瀬の處近年は殊の外深く相成夫に准し汀と人家の間も狭く罷成候中古迄板町の濱手に光樂寺と申寺院有之其濱手裏に墓所坏も有之候處段々濱少く磯近く成候て荒度々破損等有之に付炭屋町え引取候段申傳候當時右の場所等は中々寺計も相建候體には見え不申候大間町濱も橋屋庄兵衛と申者の裏手濱より向海中に有之平岩え四五十年前迄は陸地を通行の由其外大間番所下汀に有之小高き岩は私若年の頃は砂地の中に右の岩有之其廻りを心安く歩行仕候是等は四十年内の儀に御座候處當時は海中に右の岩有之候海府番所邊も近來は度々浪上ケ候儀汀近く相成候故と奉存候間以前流失無之候迎等閑に仕置候は不時の大破も可有御座候ケ様成浪上の場所は大なる捨石を致し相防候舊例も有之候且又魚獵有無の義坏は敢て古今の變も無之筈に候處享保二三年の頃迄は罎を多く取候故賣買双方共勝手宜敷其時候は毎年九月頃別

て多く取候故貧富の家柄に應じ每家鹽漬に致し雪中より翌春迄の貯に致置甚た民用に相成候處其以後は不通に鯛無之適々上り候も至て少く其上以前の如く年々時候を不違多取候義は無之候然處享保八卯年より能登パンジャウと申魚を取始め晩春より中夏頃え掛け多く取申候へ共鯛とは格別風味も不宜至て下品故下々計り食し申候其上右卯年は當國大疫病時花り在相川とも大勢人痛み其年より彼魚取始め候故地疫煩ひ候者をノトパンジャウ煩候と一統唱候故旁此魚を忌申候處當時は左様の義覺居候者も少く一向撰嫌候にも無御座候此魚と鯛と引替り候同然の義にて民用は鯛の十ヶ一にも及不申候當時四十物町と申候は往古鶴子陣屋を御引移の節鶴子の町名を其儘相川にて呼候由に候間四十物町は定て以前四十物乾魚を商ひ候所と相見え申候相川に人大分入込候節は中通に是等の商家無之候ては難成義に奉存候享保年中迄四十物町隣町中ノ店と申所に魚問屋の者居申候其筋の手寄と見え申候然間以前繁昌の折柄は相川町中にて商ひ候外他國え遷渡候餘分は無之筈に奉存候但鱈鮓杯は中古より當時は十倍も多く候半歟其証は享保の末羽田町に住居の老夫堀内九兵衛と申役人と昔物語仕候迎九兵衛申候は當時鱈鮓を多く取候事往古とは勝劣如何哉と相尋候へは右の老人答候は私二十歳計の時よりは當時の方十倍に候半と相答候に付九兵衛申候は左候は下賤の者も當時は魚を食候事は上代に勝れ候と申候へは老人頭を振り候て當時は是等の魚多來候故以前不食下々迄價の下直に誑魚を多給候故日用の費如何計に候哉此故に近年及困窮候段咄候由に御座候併魚多下直に候共如以前取れ候て其上干魚等の賣買多仕出候は所之賑ひ旁宜筋に奉存候諸商賣爰元にて取扱候者の内四十物仕出し候者の働鍛冶の働等は何れも身を入相働候者に御座候去程に近年別て魚店の者の内身上宜敷成候者共も相見え申候扱又魚獵の内海にて鱈を取候義以前は網に掛り候故少く候處近年獵師考を以て多釣候故候。

二三年以來は二三月頃夥敷買買仕他國えも出し申候近年の間に如此違候事共に候間古今の變は猶更に奉存候。

追加

相川海邊の變化材木町より海府番所迄の砂を引取り二三丁目より下戸の方え打揚候様に相見え候由本文に認候義只今も其通にて安永三年高浪にて材木町番所破損致候に付翌未年今の羽田濱え御引移其後は町屋敷計に相成材木町板町共身元薄の者而已にて波除柵木等も手薄故歟浪荒毎に欠崩文化十一成年冬大破には御手當被下修復致候へ共文政十二丑年の冬は濱側屋敷建家下迄引流し候に付是亦御手當被下跡墜め修復致し當時海坪の節磯傳通行致候濱は皆以前の屋敷の内には有之大間柴町の方は波除も手厚く一體の風受も違候故歟未だ屋敷内に菜園等も有之材木町板町程の變地には見え不申二三丁目より下戸の方は次第に濱廣く相成候へ共本文土器屋祖父咄の割にては此節迄の變地は纔成義に相見え申候其譯は土器屋少年の頃四丁目彈誓寺下の岩にて魚を釣々候由相語り其場所は四丁目町の濱側人家の裏にて夫より濱手に濱町有之其濱手に市町有之其濱手に非人小屋有之夫より汀え掛け白濱有之候と本文に相見え右土器屋元和年中の出生と有之に付元和元年と見十三歳の時右岩にて釣候ても寶曆六子年迄百二十九年に相成其間に四筋の町の外白濱迄出來候は大造之變地に有之右子年より當年まで八十五年に相成候處右白濱と有之場所の内に非人小屋地先の地面少々は出來候へ共格別廣り候體には相見え不申然は變地も程合有之者に御座候哉只材木町板町の濱側は此後浪荒の様子に寄り追々住居難出來様相成哉と奉存候魚獵有無の變鯛パンゼウの替りも只今迄本文に有之通に御座候其パンゼウを始め鱈鮓鳥賊杯も近年甚不獵にて御座候

處一兩年は何れも相應に揚りコオナゴと申魚昔は稀の由近年二見にては寒中より差網にて取り春夏タカ
 リと唱へ海中に涌候節は國中何方の海にてもタモにてすき候へ共縮と違ひ眼氣を損じ候故下賤の外食用
 には不致重に油を取り縮柏を肥に用ひ他國えも出し候事に御座候鯛は三十年前迄は三四月頃達者村の引
 網にて日々多く取り賣出し姫津稻鯨等にて延繩にて釣候處其後年を追少く近年に至り候ては稀ならて
 は無之越後出雲崎邊は鯛少き場所の處近年は夥敷揚り候由此魚の居所を替候も不審成義に御座候四十物
 師の義以前は身上宜敷者も有之候處寛政の頃暫く諸魚共不獲の義有之仕入錢も夫成にて戻り不申段々身
 上衰へ候故近年は小商人體の者四十物師に成其外干物買仲買杯名目の者多人數出來候故拔出身宜敷成
 候者相聞え不申候右等實曆以後の轉變に御座候。

一四十物代御貸の義享保四亥年河野勘右衛門殿北條新左衛門殿御支配の節當國町在の者共依願四十物仕込印
 銀と申名目にて印銀拜借被仰付其年金一兩分の印銀百六十目御貸出被成候へは翌年子十月右の公儀相場を
 以て金返納に仕候是は享保三戌年より新金通用にて乾字金八十目替を一倍の積り百六十目替に被仰付候翌
 年此願目論見右相場の印銀にて拜借致し翌年金返納の趣に相成候間 公儀と町相場の兩替達利潤の見込に
 て相願候哉又は兩替は同様位にても翌年返納の時節迄賣買元手の利潤を考候故相願候哉此程は不分明に御
 座候此節は當國にて年々出來小判有之御遣方に相成候間御遣方の金不足に付押被仰付候筋にては無之願
 の上被仰付候義に御座候但四十物仕込と申は名目一通にて實事には無之四十物魚曾て不仕者も印銀借受申
 候其後享保十己年より當國出來小判相止元文金に成又々當國にて吹被仰付候燒金にて江戸へ被遣候に付銀山御入用物油鏡其外材
 木紙鉛等の品々他國より御買上の代右返納金にて御拂被成候故此節は全く四十物代金返納御調法の筋に相

成候享保十一十二の頃は段々小判の町相場高直に相成候へ共公儀に金御拂底故町相場上り申候此節迄も少々利潤有之に付拜

借仕候處其後彌以小判拂底に相成返納の度々損失有之候に付町在の者及難義再三拜借御免相願候へ共最早
 御止被成候ては跡々御遣方差支候に付無據有徳人共え割付にて御貸被仰付候其後度々願出候故不得止事寛
 保元酉年田付又四郎殿御伺之上戌年より御貸相止爲其代御入用物代御拂方には他國御拂米代の内年々二千
 兩宛當國に御殘金に相成候様被仰付候此御殘金は他國より印銀にて御買入御成金々引當候且又四十物仕込印銀御貸高
 の義最初は金千兩分の印銀御貸出其後千五百兩分其後二千兩分段々願に付高御増被仰付候由及承候。

一町人共以前手前相應成者も正徳享保以來身上不如意に相成候は銀山不景氣は勿論其外請負方え廻船賣賣に
 て潰れ候者多く御座候世柄繁花成時は上方より買下し候商物一通にても家業に相成候處右年曆頃よりは其
 業不景氣故幅り有之者は外國え差渡り廻船の利徳を専らに致候義と奉存候在邊にては以前より廻船商賣の者多く有之候他國大所にて
 數十艘廻船を所持の者も分限の數え不入由及承候處別て當國は南海と違ひ北海の波濤を往來仕候事故五三
 年利徳を得候ても一時の破損に株を失ひ候族多く御座候且又請負方の筋も古來より元祿寶永年中迄は銀山
 御入用の油其外材木御用紙等迄諸役人の内實體成者を御撰ひ外國え其品を買求に被遣先々より賣上目録を
 取り差出候事故品宜敷其上受負に無之故中買の利徳丈御益の方に御座候但鐵は以前も請負に候哉當時中京
 町七兵衛家名を黒金屋と申候も右の商賣仕候故と及承候是等の請負方も中古迄は人心實體の方に其商致
 馴候者の外は押て脇より其業を奮取候巧杯は無之義と奉存候然處享保以來は御入用物請負に被仰付候故直
 段一通は御吟味行届候様に候へ共人心惡敷罷成候時節故別て近年に至り候ては町人共家業少く罷成候間色
 々の謀計を以て請負人に相成其品も不宜物を調へ改の役方え取入下品の物をも強て納に相成候様に取計候

様なる義夫に准し請直段を至極セリ落し請持候事故少し手筈違候へは大分の損毛に及候者數多有之候是等の風俗世柄の善惡に寄り候哉古今の相違に御座候且又鉛硫黃の類以前御買上の義は差て 公儀より御拂被成候御入用物にては無之金銀吹立要用の品にて買石共手前にて調可申筋に候へ共 公儀の御手を借り他國より多く御買上置其入用度々御賣渡被下候へば小身の者共勝手に畢竟金銀出來方の手合宜敷事故往古より如斯相成來候尤他國より御買上の直段よりは少々高く御拂被成其違丈は御利合勘定に立御元え入申候扱又往古より御金藏棚の内に御買上鉛を御埋置被成候由但何れの御支配に候哉年曆等は不相知旨に御座候明曆三百年若林六郎左衛門殿當國え御初入の節の書物に埋鉛の義御運上屋前に埋有之候を前代より受取渡の時貫目不改傳り申候の由の書面にて古代よりの埋鉛高九千二百二十五貫八百七十五匁と有之由及承候右の内七千二百四十九貫五十二匁は御同人御支配中爲堀出御拂相成候に付延寶三卯年四月會根五郎兵衛殿御支配の節最上鉛七千二百四十九貫目餘右高の通此數六百七十九枚と小切一ツ如此御買上如前々爲堀入被差置候處北條新左衛門殿御在勤享保三戌年閏十月迄に爲堀出皆々御拂に相成申候且又古代の殘鉛千八百七十六貫八百二十三匁は御金藏棚の内に有之筈に候處棚の内方々所を替へ御尋被成候へ共無之候由及承申候當時逆も御尋内の義に可有御座候哉尤其後年曆を經御沙汰も無之候趣に候へ共一廉の義故如此相記し申候。

追 加

町入共以前の餘澤にて寛政の頃迄の身代相應の者も有之廻船杯も相川市中に餘程有之候處銀山衰微請物の損分海獵不獵等にて段々潰れ候て當時曲にも昔の豪を持傳候者は御雇町人の内幾に相殘候迄に御座候一體在町共可成手廻り候様相成候へは家作を立派に致し金銀の屏風其外衣類諸道具等仕込手高に相成候

故不時の損分等有之候へば間もなく身代潰れ候類多く有之世界の奢に連れ身の分限を忘却致候も立越し豪富の者無之故少々も貯出來候へば頓て能顔に成り候て小國の淺間敷儀に御座候商人の諸色以前は總て京大坂より仕入染物まで上方え遣し候處五十年計以前より相川に江戸仕入始り候儀は寶曆以來江戸表より引越の御役人有之召仕男女の内當地の者を抱候も有之自然と江戸の風を見習ひ追々市中え押移り衣類其外髪飾の類迄も江戸の流行と申候へば有來品を賣拂ひ買取候様相成候故の義にて在方も近來江戸通ひの商人出來候哉に相聞え菓子類の義以前は飴菓子の外無御座候處寛政の末一丁目久兵衛と申者江戸菓子と唱へ飴又は黒砂糖等の仕立にて種々の形を仕出し有來の菓子より形は小さく價は高く候へ共困窮なからも上摺候世中に候へば下賤の子供たらしにも是を用ひ候様相成大に仕當候故當地の癖所々に同様の菓子屋追々出來手狭の土地賣先限有之義に候へば互に仕當に合兼候間白砂糖製其外餅菓子杯宜き品をのみ仕出し渡世張合候様相成料理屋の義己前は肴二三種にて酒商候煮賣屋に御座候處文化の末羽田町茂兵衛と申者江戸より歸り料理相始候てより煮賣屋共見習料理方器物を始め江戸の場末位には似寄候様相成寛政の末坂下町瀧藏と申者江戸より歸り髪結渡世相始候の處追々多人數に相成右菓子屋料理屋髪結等は張合候て共潰れに相成候様所々希に御座候へ共時勢に應じ候渡世に候哉何れもヶ成に身過相成候由是等は江戸風の移り昔無之所の渡世相増候に有之右様成行候故商人其外少の利潤有之候共雜費に被引候に付自ら諸色高直に相成商人共も身上宜きもの出來不申も理りに御座候寛政享和の頃までは請負者の爲に身代を潰し候者多く中には取上せ死失候ものも有之候故見懲候て其後は請負物望人も無之候處文化の末より金銀山御再興に付御入用品御仕入有之候へ共請負雜候者も無之故其筋に馴候ものえ爲請負相續致來候處當

年より蠟油等糶候者段々出候は商人共渡世の乏故に候哉直安に成り相續致候様所希に御座候。

一 佐州米前々他國拂有之候哉の義是は前にも記候通り往古は相川に入多く入込罷在飯米不足に付他國米を多く買入候事故當國の出來米を他國へ御賣拂被成除分は無之道理に御座候其後銀山衰へ人數家數等も相減其上寛文中若林六郎左衛門殿御支配の頃に至り別て及困窮候証は寛文七末年當國廣間役より若林六郎左衛門殿への御用狀に前廉も申上候通山中當國の方言に相川中事をも山中事をも申候也申候此文體も相川中の事と相見え申候候もの數多に御座候其上無據者は首掛り又は自害抔仕相果申候其外人に知れ乞食も罷成者は家々にて飢死仕候者の數多有之由の紙面に候夫より四年後成年より會根五郎兵衛殿御支配に成諸向御吟味有之候由依之當國え越米有之義捌き方御伺の上と相見え寛文十二子年前々成年米五斗入三萬俵を始て他國御拂に相成直段は金一兩に付一石七斗九升宛の由買入は江戸本船町米屋半兵衛と申者にて請人は本材木町四丁目伏見屋次郎右衛門本石町一丁目岡村市郎右衛門本船町二丁目正木半左衛門是等の者加印にて証文差出右御米代金の内半分は現金に差上半分は子十一月迄延金納の積仍て請合三人の者より於江戸質物家屋敷三ヶ所差出置受負候由に御座候但農家の部に申上候江戸廻米は此外の義に御座候其後元祿七成年米一萬石他國御拂に相成候直段は一石に付印銀二十九匁餘買入は越前仁左衛門佐州松ヶ崎村喜兵衛と申者に候翌亥年米六千石他國御拂に相成候直段は一石に付印銀卅八匁餘買入は佐州相川大工町孫左衛門松ヶ崎村喜兵衛是等に御座候但此節他國御拂に相成候もの右成年は御檢地分米高相極り且又右年曆の四年以前未年より年々取米相増臨時の御米有之候に付他國え御拂被仰付候義と奉存候夫より元祿年中は次第に銀山御取立所々盛出他國者多く入込候間他國御拂米の御沙汰無之候哉中絶仕候處享保年中に至り銀山不景氣に連れ人少に罷成連々御藏越米有之たけ痛米有之に付享

保十六年亥年窪田肥前守殿御在勤の節前々年酉地方米五千石他國御拂に被仰付候其後年々高相増御拂被成候右亥年他國御拂米被仰付候儀代金上納の譯にて被仰付候には無之候金上納の儀は享保十八丑年より始り候且又前々の義は如何御座候哉享保年中よりの他國御拂米の儀最初は他國の相場等能々聞合の上自他國の者入札致し請負申候其内には随分慥成者も有之又は請物方或は内借等に行當り候者共も表向は別人の名を出し請負或は翌年夏入札の上直段相極り候米を前年の冬より通訴を以て競請直段に何程御忠節可申由の願書相出し翌年可極義を兼て繩張を致候様に差働候事故翌年に至り候ての直段は自己の考に不拘人任せの直段に御約諾の忠節を相立體故其節名聞致忠節候者の内には右繩張同前の仕方を惡み且入札も噂事故高直段に書上げ件の忠節人甚損失仕候者共も御座候由及承申候畢竟世上詰り商賣少々相成候に付ての儀には候へ共旁不宜風俗に候當時は御代官掛りの儀儲なる説も承り不申候。

追 加

以前は御年貢米の内他國御拂の上代金江戸上納相成候處寶曆十三末年爲御試五百石大阪御廻米に相成御益も有之候に付明和元年一萬石御廻米相成安永三年迄は右代りとして越後出羽御年貢米の内佐州御藏納に相成候儀も度々有之其後は佐州米諸渡殘りの分都て御廻米に相成代米相止申候尤御手當地拂米並糶納十ヶ年目詰替の分他國御拂の御取極に候へ共數年作損故糶は正米に摺立市中え御拂相成地拂米も當年迄は他國御差留に有之候。

一 相川町人に往古は手前宜敷者多有之候由別て元和寛永の頃は一統潤色の節故左様可有之奉存候へ共悉は其世の風俗相知不申候竹村九郎右衛門殿御支配の内十二月晦日の夜御金藏え盜賊入延金竿金灰吹銀等を盗出

候事有之由承傳申候往古は大晦日の夜有金銀の内を御金蔵戸前え出し神酒を捧げ相祝候嘉例の由然處番の役人二便に参り候間に盜賊奪取候故に訴出嚴敷御吟味有之候へ共相知不申九郎右衛門殿にも至て氣毒に被思召候處京の吉左衛門と申者當時の下京町に住居の由京野が不明に候上下を着御陣屋に參上御直に申上度儀御座候段申上依之九郎右衛門殿御逢被成候へば吉左衛門申候は御藏の金銀紛失候段可申上様も無御座候就夫今以盜賊相知不申候間自然御江戸表え被仰上候はど大切の儀に奉存候間此度紛失程の金銀は私差上可申候若此上にも盜賊露顯仕候はど差上候金銀御返可被下段所存不殘申上候由併御聞置迄にて御食着不被及内浪人桑山佐平太どか申者盜取候に決し重き御仕置に相成候段申傳候其後延寶の未曾根五郎兵衛殿御支配の内打續銀山惡敷公納鍵買受候買石の者共及困窮急に返納難成仍て五郎兵衛殿被仰上候に付江戸表より佐州重役の内御尋の儀有之段被仰遣其節留守居役の内西村徳右衛門罷登候様に取沙汰有之候に付松ヶ崎村菊池喜兵衛と申者農家の部の義相記申候右徳右衛門同役辻八郎左衛門所え参り密に申候は今般各様の内出府の段粗風聞承知仕候若は此間密に取沙汰仕候筋にて萬一鍵代急返納無之候ては重役様方御申分難立筋にも罷成候ては竟舉下々の爲め被及御難義候段至て氣毒に奉存候間未進銀高不殘私引受皆濟仕御手合に罷成可申候條御安堵可被下段申候由然處徳右衛門出府の上右鍵代未進銀高辻七十四貫八百五匁七分是を鍵代了簡銀と唱へ申候延取立に被仰付候故不及其儀旨及承申候是等は手前過福の者とは乍申中々當時の町人の可及所存にては無御座候上代中古の人物堅固の風俗に候近來は兩尾村五郎右衛門と申者其居村は勿論隣郷までも貧民を救ひ頼敷ものゝ由及承候在中にはク様の類此外にも可有御座候相川町人には有之間敷候但銀山稼の者には間々有之候へ共是は家業の寛活より出候風俗にて奢に等しく候へば同様の沙汰には及申間敷候。

追 加

相川町人連年衰へ本文の吉左衛門喜兵衛の類は無御座候へ共天明四辰年羽田町覺左衛門當時掛屋渡邊覺左衛門曾祖父通船所持其頃の自他國飢饉にて取分相川市中小前の者共難義の體を見受越後より米穀を買入來願の上町々の者並小宮商川より出候銀山鑛山下げ人足え値安に拂遣去酉年凶作に付兩替屋川島藤七近町の間小前のものえ救米或直安に米拂遣二丁目土田屋善兵衛と申者も直安に米拂遣一丁目伊藤嘉十郎は年來小前の者を見繼候義有之在方には凶作又は非常の義有之節身分に應じ救等致候義有之儀に御座候。

一伊丹播磨守殿御支配と見え候書狀留に廣間役より江戸えの御答書の趣相川町人計酒造らせ在々は無用の由被仰下則在々の義は堅申付候相川にて造り候分は他國より参り候酒役程可申付の由被仰下候處他國より参り候酒役は一日に五百目六百目有之時も御座候左様の酒役を酒屋共え掛候ては一人も酒造り候者有御座間敷候間如前々上の酒屋は一ヶ月に後藤銀二十八匁中は二十二匁下は十六匁に可被仰付哉其上に増をも可被仰付哉の文體に御座候右紙面にては一ヶ月に酒御役計十六七貫目上納の月も有之候義と相見え申候其上に在町の酒屋にて造り申處彼是夥敷事に御座候尤農家の部にも申上候通り近年は別て當國の造酒他國中品の産にも不劣程に候へ共此紙面の如く大分の酒賣買仕候世柄に候はど地酒計にては届申間敷哉と奉存候其外の諸色も准之候儀但是は儘成古書員數等も有之候故書記申候。

追 加

相川の酒造屋寛政の頃迄は十一軒有之候處當時は纔三軒に相成相川の入用は近郷より日々負出候義に相成申候國中酒造屋百五十五軒元米高八百七十七石餘の内相川右三軒にて元米十一石其餘は皆在中の造高に

相成相川にて右の通酒造屋減候も中以上の町人潰れ候故の義と奉存候本文に見載候古今の轉變格別の義に御座候。

九八

一爰元人參賣買の義以前は殊の外高直にて品不宜をも手前宜者ならては難用程に御座候處享保年中萩原源左衛門御支配の節より人參御拂被下其以後は町賣直段も格別下直に相成其上近年は高多く御拂被成候故猶又重く御救の義に御座候處醫者の内にも御拂人參は甚功能劣り大病には難用由内々にて申觸し候由及承申候尤當所にて商候朝鮮人參と申物實に朝鮮の産を以て御拂人參に引就申義に候は、朝鮮の産には及不申義に候へ共其申觸し候朝鮮の産と申者或は唐の極品と申もの何れも根元無心元奉存候既に去々年私親頼安田與一左衛門と申者相煩候節私方に御拂人參遺殘所持仕候を遣し爲用候處其節與一右衛門由緒有之出家越後より參居是等の目利巧者なる僧にて右の御拂人參一覽致し殊の外賞美仕候此出家は羽州米澤に久々罷在候處彼地にて賣買の唐人參と競候ては格別爰元の人參勝れ羽州にて朝鮮人參と名付候ものにも不劣由申之是等の義にても當國の人心不直成慮顯れ申候公儀より御救の品に不勝の名を付候て町人賣買の引方宜き様に取捨候筋に相見え至て尾籠成風俗其上右の勝劣を相定候醫者も實々の目利は無心元畢竟藥賣の類に御座候。

追 加

天明三卯年輕き者共御救の御趣意にて佐州に於ても相用候様朝鮮種人參江戸表より御差下有之其以來年々御小納戸頭取衆え御掛合代金御差登御受取寛政元酉年より長崎奉行衆え御掛合の上廣東人參御買入在町の者願出候へば御拂相成候に付當時は藥店の品用候者稀にて輕き者まで心安く人參相用ひ格別の御救に相成候義に御座候。

一傳説に上相川柄杓町と申所に以前は比丘尼數多居候て相川中勸進致し内々は賣女同前の義にて柄杓役と申を公納致し其後山崎町え引移り^{當時の此時は並の賣女を抱へ山崎役と申を公納致し其後享保の始水金町え引移候段申傳候處古來の書物を見申候へば傳説の相違も御座候慶長十八丑年の書物に銀十六貫八百四十目餘山崎ひさく役と有之夫より元和元卯年迄年々山崎ひさく役相見え候元和二辰年より山先町役と名目改り夫より如此有之候是を以て相察候處慶長年中より元和元卯年迄山先町にて比丘尼を抱へ翌辰年より上相川柄杓町え引移其跡山崎町にては賣女を抱え御役差出候事と相見え申候其証は明曆二申年三月の宗門改上相川九郎左衛門町並後町の帳面に熊野比丘尼三十人有之此内生國分け伊勢十四人遠江一人伊賀七人佐渡八人是等の趣に御座候此時節は柄杓町には一人も見え不見候へ共上相川の内隣町にて御座候如此往古は僧尼遊民の類迄他國より多く入込居申候享保の中頃迄も比丘尼町々を勸化相廻り近年迄も老尼一兩人も死殘候者有之候處當時は絶果申候但道心尼は當時も多く有之候是等も古今轉變の風俗に御座候故書記申候。}

一博奕の義一統の御制禁に候へ共爰元の義は別て銀山國に候間世間の宜しきに付惡しきに付止み候義は無御座候往古は格別元祿中末頃世上豊成節は男女共日々寺院等に會合致し手遊仕候由其後兩御奉行御支配相成候ては白晝に無遠慮博奕致候様成義は稀に候由併忍候て夜中密成參會には却て身上掛の勝負を争候も有之由及承候享保年中にも御家人の内不行跡の御聞及にて不時の御役替或は遠慮等度々被仰付候小濱志摩守殿御支配の内相川門前町修驗日光院と申者方にて博奕致候段被及御聞御吟味の上日光院並同人借家に居候作右衛門前町研屋仁兵衛道心者善故右四人牢舎被仰付猶又御糺明の上國追放被仰付町役人兩人科料被仰付候其以後も前段の通御答等の筋は度々有之候へ共追放等の重き御仕置は無御座依之自然と不奉恐公儀重過仕

九九

近來は歷々の輩不宜風聞等有之候且又廿年計以來は源兵衛實引と申事時花り出し候由尤表向は實引の名目にて軽く相聞え候へ共近き頃は重き博奕同前の勝負を争候も有之候由風聞仕候。

追 加

博奕の義享和二戌年始て遠島追放等の御仕置有之候へ共其後も相止み不申候銀山大工水替等は短命を覺悟の渡世故多分は酒色賭事等にて親族も見限り候程の者に有之右兩職の者少く候ては銀山稼出來不申候故寸切斗絶候義は無之由歷々の町人杯も風聞に拘り候者も有之候へ共一兩年は徒黨御吟味を恐れ相慎候哉に相聞え申候。

一諸貸の義前段士農の部にも相記候通別て延享寛延年中は町人百姓とも色々巧なる申達を以て諸拜借致候義に御座候尤其以前逆もケ様の願致候者は巧ケ間敷筋より起り候へ共併實事は多候處右年曆頃は虚體成義多御座候享保年中四十物魚仕込印銀の御貸付をひたと御辭退仕候は全く御貸印銀を以て商賣の利勘に不當故相見え候處近年は其勘辨には不至一旦御貸印銀を以て自己の當用を取繕ひ或は銀山を稼候者も皆々望所え相掛け一筋に盛を得度と申所存に無之當分の身を安し候而已にて返納の期年に至り候ては天道次第の心當どならては見え不申候尤御救貸は以前の四十物貸とは違ひ公儀相場との段違ひ損分も少く其上返納も年延に被仰付候故御辭退に不及却て相願借受候筋に可有之哉然共質物等に謀計を差構候族を以て察し候へば正直の借人は十ヶ一も有之間敷哉と奉存候但當時御取立の御救貸の内にも内分にて外え預置候て其利倍を以て月々返納相立候も有之由然上永年賦に被仰付候義を至極難有存候者も有之候由及承申御是等は右申上候正直の借人共可申候其外逆も御救貸は都て諸貸より儘なる方に候を是計永年賦に相成銀山稼御貸等例の銀

山風にて返納期年も心當曾て無之者共拜借仕候分は却て其沙汰無之候間是亦追々永年賦の御沙汰有之様仕度奉存候但御救貸の義延享三寅年より寛延二巳年まで御貸高印銀七百五十六貫四百九十五匁此金壹萬貳千六百八兩一分の内印銀二百七十二貫十匁は寶曆三酉年八月迄金返納或は元印銀にて返納其外棄捐等の分に引之殘印銀四百八十四貫四百八十五匁の内西九月十六日兩御代官之御引渡跡全相殘分百九十三貫八百九十五匁八分八厘八毛二弗は三年前成年より御奉行にて年々御取立に相成且又御救貸の分は何れも質物有之其内田畑質は纔にて多くは家質にて御座候然る處永年賦に被仰付候間返納手切迄は質物を以て内借或は賣買等に相動候事難成此儘に被差置候はと連々及破損其上御救貸の外諸貸の内も家質有之候分の損所相加はり此末年を重ね候はと町々に寄一向退轉同様の所も出來可申候先達て永年賦に被仰付御御救貸の分成共質物は一向被下切にも被遊内借質物并賣拂候義共勝手次第に仕候様相成候はと町並相續可仕奉存候是等の義最初質地御吟味の節町家の永久を相考候はと家質は不取用田畑質に限り候様に重役より再應可相伺筈に候處右御貸方の義偏に御重寶の筋に内々にて申達候者も有之旨及承候間質物方の譯心付候ても差扣候義と奉存候但當時町人名前の御救貸の内には諸役人の内内々にて借受け町人の名前に相成居候も有之候。

追 加

諸貸御救貸共寶曆八寅年棄捐被仰付質地御返相成其後御貸付物無御座候處安永六酉年より他役人御切米出目錢在相川え御貸附始り寛政七卯年より溜間切代文化の頃より追々數廉御貸付もの有之候處拜借願の節は商賣方仕入其外品能く申立候へ共事實は暮方當座凌の類多く返納に至り及難溢年々手數掛り候様相成申候。

一右商家の風俗差當り古今の引當に相成候其証有之分等私存付候通書記申候此外世々の風俗買賣の榮枯等は委く難相記御座候前段所々へも申上候通相川の義は最初銀山の仕當に付府中に相成候趣に候へば都ての義銀山の盛衰に拘り候外別段の渡世考を以て不易の商賣方筋は無御座候且町年寄の者錢座御用に付享保二酉年より御給米被下其後錢座相止候ても御給米は引付に被下來旁難有奉存町々の者え行渡善惡をも相糺身邊の筋をも取示候筈の處左は無之等閑に心得候義故都て町人の風俗自己の勝手次第に罷成別て近年は至て高歩の貸引を致候者有之他の損毛を不顧一己の利欲を長し候風俗に御座候且又以前世柄宜き節も町人は別て公儀を重し其身は勿論妻子等迄年頭節朔神事物見せ等に着用の衣類も偏に上を憚り候處近年は世間至て不宜節に候へ共折節の衣類に女は紗綾縮緬を着し以前町方にては御雇町人の妻子ならては不用綸子の帽子杯の物をも不憚着用いたし徘徊候者多く御座候此儀は以前一統御支配の時と違ひ近年御支配三分に別れ御制度の義も其御支配限りの様に相成候間町人共に其風俗を見真似し仕候哉重役も一統御支配の節よりは御威光甚薄く罷成候去る末年以後諸向音信等相止専廉直の時節故崇敬の一入厚く可有之處途中にて行逢候町人無辭儀にて相通候族多く御座候是は近年御用向も少く諸方立會等相止其致御代官手代と御用文通對々の體にも相見え候故手代の輕き風俗に准し自然と重役をも輕し候筋に御座候哉と奉存候但是等は下々の義會て不足取義に候へ共人心格別に相變候事故申上置候畢竟至ての下々は賞罰共に身に引當不申事は屈服不仕道理に御座候間罰の義は勿論忠誠なるもの孝廉なる者町人の内にも自然可有之候間乍恐御糺の上相當御褒美共被下且又御貸方の内棄捐等をも被仰付候は其筋に不拘者まで及承實意に公儀を崇敬可仕候當時御支配役人小宮山彦左衛門召使の者至て忠誠なる者の由及承候是等は内々御聞心被遊紛れ無之候は少しの

御褒美にても被下候は御支配諸役人困窮の砌外々えも響候て自ら役人取締の勝手にも罷成且は御政事正しく忠孝の人を御擧容の御佳名も長く可奉吹聴儀に奉存候前々より不孝不義の輩有之無據出訴等に及候時は御答被仰付候事とも御座候へ共全く忠孝を御聞糺御賞美被成候は小濱志摩守殿御在勤の節原與次右衛門と申役人老母に孝行成者の由被及御聞在役より地方役え被召出右の趣被仰渡候段其外には及承不申候是等は志摩守殿の御佳名當時迄里談に止り申候前書申上候通右體の者町家には可有御座候哉偏に世智辯成世柄に候間無心元奉存候。

追 加

相川市中は金銀山の盛衰により榮枯有之義故既に文化中衰微極り候節は人別も今を以て見競候へは二千人餘減少致し困窮も右に准し候義に有之文化の末より追々御仕入にて金銀山御再興有之至ての薄鏈をも穿出し金銀の高を成し候故人歩多く相掛り多分の御入用市中の順通甘きに相成人別も追々増加商家の渡世致し易く相成候へ共文政の末より連年の凶作米價諸色の高直にて仕當に合兼當然の繰廻し面己にて取續候體故本文に論し候衣類を着飾候様の義も相聞不申文政中銀山カナコ杯には過當の義有之由に候へ共五六年以前より相止候様子に御座候町年寄共の義近年隱居致候伊藤三右衛門其親吉兵衛とも篤實にて町方の押へも出來候へ共當時は若年而已に相成取示方も充分には如何可有之哉御時節の義にも候へは町方掛世話致候へは追々行届可申本文小宮山彦左衛門召仕の者其外奇特者寶曆七丑年備後守殿御褒美有之其以來孝子奇特者時々御褒有之懲惡の御仕置は寛猛相交候處寛政より文化の半頃迄嚴刻打續其後は寛裕打續候方に御座候。

一佐州金銀山の開發は文祿三年越後國の商人渡海の節夜中に棹崎當時の澤崎の沖を馳通候處北方に當り鐵吹炎のとき光相見え候故船を漕寄見候處澤根の奥山に當り立登る地氣に候儘能々見定置其後右の船人共當國え來り澤根の地頭え訴候て件の光氣立候處え至り考を以て相稼莫大の盛を得申候由舊記に相見申候又一説に文祿四未年石見忠左衛門同人弟忠四郎石田忠兵衛此三人佐渡え來り鶴子にて稼所を見立同年五月より相稼夥敷盛を得る是佐州金銀山の始祖也此節相川は山林竹林木茂り候て人家漸く五六軒有之陣屋は鶴子に有之由相見申候此兩説の内文祿四未年より開發の説宜敷御座候半歟山師共舊記を以て十二年先延享二丑年銀山見分衆え書上候も文祿四未年と申事に御座候但鶴子陣屋の場所は近年迄御稼有之鶴子にては無之澤根の近邊元鶴子と申所に有之町名も當時相川中通の町名何れも鶴子を移し候由に御座候且又相川銀山開發の義は慶長六丑年三浦治兵衛渡邊儀兵衛同彌次右衛門と申者共鶴子にて相考北の高山草木の生立岩根の重り様儘に金銀有之所と相考其邊に至て鮎河當時の濁川を傳て分登り金銀山稼の所を見立稼入候へは次第に盛を得其後段々稼方相増鶴子に御陣屋有之候ては御用差支候に付大久保石見守殿御支配慶長九辰年相川え御陣屋を御引移被成候由に御座候右同年より同十四酉年迄六年の間に伊豆石見兩國より金銀山の巧者を御召寄山仕を名付候て享保年中より山師と御改稱成候金銀山を御預被成候人數凡三十六人稼所三十六ヶ所一人に一ヶ所宛御預被成候由則山仕爲御合力一ヶ年に御藏米二百俵つゝ被下其外油鑽炭留木松蠟燭等迄被下候由申傳候山仕共は一ヶ月二三度宛御預りの山元え相登り稼爲勵其外平日は手代共を登山爲致候由尤山師登山の時は乘馬挾箱を爲持其身帶刀は勿論の義に候處其後不景氣に相成候ては自然と乘馬も相止み帶刀は元祿年中後藤山師體の者一統御停止被成候右三十六人の外田邊十郎左衛門殿御支配中にも又々山仕御抱被成其節は一人に付御藏米百

俵宛御合力被下候旨申傳候慶長十八丑年古書に相川鑓銀七百四十貫六百目二分と有之元和四年の鑓銀千四百八十七貫百七十三匁二分と相見申候鑓銀と申は敷内よりの出鑓を御分けの定法を以て公納鑓の分を定め是を諸買右の者え御賣渡被成候代銀を如此唱へ候近年御代官え銀山御引渡の以前の公納鑓代と引當候ては二十ヶ年分程も取集不申候ては元和の一ヶ年に對應仕間敷候其後元和九亥年の上納銀六千貫目被遣候内四千貫目は江戸御藏え納り二千貫目は駿府御藏え相納り候旨承傳候其後寛永の末に至り候ては往古よりの稼所も出方細り候故歟未年寛永廿未年歟と有之江戸への御用狀留に山田孫兵衛山仕の内候哉不分明に御座候訴狀に付御裏書被下則御下知之通三十人の山仕共に一ヶ所宛三十ヶ所穴積相切候得由申付候就夫三十ヶ所の切山所え銘々御入用相渡候は山仕共私に取遣可申候間歩の内の義に候へは晝夜吟味も難成候間一ヶ所の切山所銀五百目に一ヶ月何間程切可申と間切に致し此段間切の始と見え候可然と奉存候間何れも相談にて申付候條山出來可申候尤鉦に附候は御入用を引山主に被仰付候様にと奉存候則繪圖に爲致候へは近き所は十間遠き所は二十間に御座候是等の趣の紙面相見申候同年の御用留に江戸より被遣候小判十二萬兩の御勘定可相極の由被仰下候此義は勘定役參候時御書替差上御勘定爲相極可申候と有之候翌々正保二酉年の古書に銀山爲御入用小判十二萬兩江戸より被遣内六萬兩は小判にて返納六萬兩は灰吹銀三千貫にて返納後藤銀五十五匁の積り是は江戸え持參に付町にて兩替致し小判にて返納利合二千四百三十七兩一分清勘定の元に立候由書面相見申候是以前は前々年の勘定を三年目に仕上候趣故如此翌々酉年の帳面に相立候義と奉存候間十二萬兩二度被遣候義とは相見不申候往古はケ様に夥敷御金を被遣丈夫にて御稼被成候事故稼衰候山所も又々潤色に相成取續申候然處慶安二丑年七月七日の大雨にて洪水出山の内諸間歩え水柄山押込割間歩元口は防留候へ共川上の諸

間歩の扱戸より水押込樋七本有之候分水仕上候由古書に相見申候不景氣の上に如此洪水にて旁世上困窮の體と見え申候但大切山間歩は此節も宜き由に御座候承應二己年播磨守殿御在府の時差上候御用狀留に諸間歩年々悪敷罷成山仕共身上曾て不罷成候就夫諸人銀山の稼無之に付候方少く相川在々迄殊の外詰り申候年々銀山悪敷候故御運上も不足に罷成其上諸人手詰り申候様子一通申上候如此文體に御座候同年山師味方治助相願候は割間歩上敷は稼候へ共水下敷々の分は樋の入用多く相掛候に付休置候然處往古より用來候樋長き箱の形にて窓に牛の皮を用ひ候は上り方少く候依之大坂に居申候水學と申者水を容易く上候方便功者成由及承候間此者を呼下し割間歩水敷を取立申度候段願之通被仰付右之水學呼下し候處其手立をいたし諸山仕共にも見せ候へは水容易く上り候故水上輪と申樋當時此樋拾方存候者有之候を仕立明暦元未年於割間歩樋八十艘相立敷通の水を取上げ稼方自在を得候に付大盛致候處寛文中若林六郎左衛門殿御支配の節出方衰へ樋の入用多く難相掛候に付稼相休め候由古書に相見え申候右水上輪樋を工候以後は水下の御稼には必定此品を用來候處享保年中打續銀山不宜御物入多く掛り候に付御止被成其以後背盤間歩甚五間歩水下の御稼には水替穿子と申者釣瓶を以て水を釣上げ申候但是は當分の水を扱候迄にて御座候此後元祿年中のごとく手廣に銀山を御取立被成割間歩等の敷通を丈夫に御稼の時は決て此水上輪を不用候ては抄取申間敷候且又萬治三子年御手洗四兵衛殿御支配の節山仕味方孫太夫江戸におゐて奉願銀山爲御稼金三千兩拜借被仰付割間歩新間歩等水下の敷々御稼盛出申候其後不景氣に相成寛文七未年若林六郎左衛門殿御支配の節廣間役より江戸えの御用狀留に山中殊の外詰り候路々行倒餓死人其外自殺の者共多候由の文體に御座候但大切山間歩は不相變宜き由に候へ共此外には諸銀山至て不景氣と相見申候併會根五郎兵衛殿御支配同十一亥翌子兩年の御運上銀合千六百二十五貫

五百五十八匁九分を上納宰領の役人於江戸銀座被相渡御金奉行衆の書替手形を受取候段是亦書狀留に相見え候右の員數を亥子兩年に引平均候へは一ヶ年八百貫目餘の運上に相見候右候へは至極困窮の時節とは乍申中々近年の及義には無御座候右子年山仕和田與左衛門於江戸奉願銀山爲御稼之金三千兩拜借被仰付江戸本兩替町縣久五郎と申者諸人に相立候由及承申候依之翌延寶元丑年割間歩取明之儀願之上被仰渡味方孫太夫和田與左衛門兩人山主に被仰付則普請仕入候處七枚棚と申新立合に切付此七枚棚盛と申は承傳候大盛に御座候大盛仕候此節は清次間歩も宜く候由翌々延寶五己年五郎兵衛殿より佐州廣間役えの御狀に割間歩去々年の如く高樋は不出候へ共中鏈押並て荷敷出候に付賣代銀多く依之稼候者も多く其外下ヶ鏈致候者男女三百人餘も入込四ッ留番所殊の外賑ひ町々迄甘き諸人難有奉存候由去々年よりも大盛可有之由去々年も一十日に五十貫目餘上納有之義は無之様覺え申候御老中え早速大盛仕候由申上候へは何れも御満足被遊候旨の御紙面に相見え申候其後鈴木三郎九郎殿御初入延寶八申年八月十一日洪水にて諸銀山所々痛み別て割間歩水道の落込場所故水多く仕込樋數百八十艘及破損稼相止候由に御座候翌々天和二戌年鏈代了簡銀七十四貫目餘之儀に付御勘定所より三郎九郎殿え被遣候延返納の斷書にも打續銀山悪敷其上去申年就洪水買石等困窮之由と申御文體に候且又天和元酉年御同人御支配の節鳥越間歩を開發被成間切數十間爲御切被成候へ共時至らざる故敷打續不景氣に候處元祿四未年萩原彦次郎殿御支配に相成諸銀山御取立間切數十ヶ所被仰付手濶く御稼被成候故夥敷盛を得申候享保三四の頃迄も一ヶ年に千三百貫目餘も江戸上納有之候元祿年中は如此御稼も丈夫に被仰付銀山爲御入用江戸より年々小判被遣候元祿八亥年一萬兩子年七千兩丑年一萬五千兩寅年一萬六千兩卯年二萬五千兩辰二萬兩己年一萬兩午年一萬兩如此年々被遣候處同十六未年二萬四千兩佐州にて小判究候

に付此年より被遣金相止申候其後又々小判被遣候由御座候但當國にて小判究候儀元和七酉年鎮目市左衛門殿御伺佐州にて小判御究被成可然奉存候筋金江戸え遣し小判此方え被遣候儀海上無心元候間後藤庄三郎手代此方え呼寄置佐州にて小判相極可然奉存候段被仰上依之同年七月伺之通被仰付今年より始て小判相究則佐州に於て金銀山稼御入用に被成以後年々新小判相究候段古書に相見申候然共右年曆以前年々筋金砂金共江戸え被遣候書物相見え候間一圓に當國にて小判に致候儀とは不相見候右元祿八亥年より同十五年迄江戸より年々小判被遣候儀は佐州にて出來小判有之上へ又々江戸より被遣筋候には無之元祿八亥年より元之字金御吹替に付四年前申年より同十三辰年まで砂筋金共右御用に付江戸え被遣當國出來小判無之候故江戸より被遣候趣に相見え申候併其後も小判被遣候儀有之候近年當國の出來金を年々江戸上納に相成候に引競候へは以前世柄宜しく國中潤候も理に奉存候然處享保五六之頃は一年の江戸上納銀六百貫目餘に相減同七寅年は九百貫目餘同八卯年は四百貫目餘にて上納も劣り候故歎當國の銀山請山に御沙汰有之諸役人の内も甲府え可被遣御手配等も有之候處翌辰年八月御在勤山岡傳五郎殿山方役一同被召出佐州金銀山之儀去々年より請山に可被遊候哉之旨 上音を以て被仰出候處此度請負山之儀御免被遊前々之通御直山に被仰付候段被仰渡候且又右年曆之頃より江戸上納相減候故銀山稼方或は金銀吹立方共御吟味嚴敷被成候此節迄は諸買石の者共居宅にて自分買請候鑓を粉成候て金銀を吹立其上吹分床屋え持參候て金銀吹分を申候處享保八卯年小濱志摩守殿御在勤の節諸買石共所持の鑓不殘御取上げ其上買石共の内御撰にて上中下三組に小床屋十軒吹分床屋二軒は此外に候 御定外銅床屋一軒但一ヶ所に役人兩人宛御掛被置候處猶又翌々己年御吟味の上寄床屋三ヶ所に御定 公儀御修復被仰付上中下三組に買石共相分り此三ヶ所え持寄り一ヶ所に役人三人宛掛り合金銀

吹方見届其上爲御取締御目付役並使役等入交り終日相廻申候就夫伊丹播磨守殿御支配承應元辰年留守居役より床屋番役人えの細狀に小床屋二ヶ所山仕床屋三ヶ所吹分床屋一ヶ所但小床屋は役人三人宛山仕床吹分床は役人兩人宛十日限りに入代り相勤候書面に見え申候如此往古は取締も有之中頃相止人別吹立に相成候哉其上往古の山仕床屋と申候は甚尤成儀に奉存候子細は買石共鑓買候時は自己の利慾に募り其鑓の目利よりは格別直段低く直入をいたし候族も有之山仕の者所存と違ひ候分を山仕引受粉成候て右の山仕床屋と申所にて金銀吹立試み候事と相見え申候左候へは買石の者過分直段の買落しは不相成儀と奉存候既に先年奥州半田銀山え私相勤候處彼地の山師は佐州の山師と違ひ悉皆自分入用にて銀山相稼候事故七十人餘の買石共え日々鑓賣渡候に付其内山師所存に不引合直段安き分は則山元買石と申候者山元買石と申者は山師の被抱候者に候 引請粉成吹立方共度々様し見候て彌買落し候に紛れ無之候へは斷出其買石の者登山を差留申候是全く當國往古の致方に符合仕候依之六年以前未年私山方役勤候節松平帶刀殿え 公儀御様しの粉成場被建置度々御試無之候ては山稼の働出精も徒事に相成買石の御吟味筋行届不申譯にて吳々申上候儀に御座候且又前文に相記候享保九辰年佐州銀山請山の御沙汰相止候に付此上は猶以御直山榮久之御稼方に無之候ては國脉相續不仕事故翌己年閏四月二十三日山岡傳五郎殿松平兵藏殿御立會之上銀山本間切六ヶ所被仰付候内二ヶ所青盤間歩一ヶ所甚五間歩一ヶ所中尾間歩一ヶ所鳥越間歩一ヶ所市之瀬間歩如此間切爲御切被成候處全體時代の不景氣に連れ御入用御厭被成御稼手弱き方に候故歎差足盛にも合不申候但右六ヶ所の間切御立被成候以前より御立被置候中尾間歩幾助間切と申場所享保十六亥年九月鑓に合候て其後十三年餘も不絶出方相續仕候右申上候通間切被仰付候ても入用御厭當分の儀にては段々國中及衰微候故元文元辰年相川町中の者訴出候は御藏拂

米一石に付本代の外印銀二匁つゝ差上可申候間御取立被下大道間切御立被下度之段奉願同年十一月より願之通間切代御取立間切も追々御立被成候へ共早速出来も無之依之御止被成間切代は前々の通不逞に御取立被成只今にては間切代御取立の時實も疋と不存者も有之様相成申候是は先達も申上候通り公儀之御預ケ銀同様にも心得罷在候者も有之段及承候何卒此後の儀町々之者共大望の筋徒に相成不申様の御賢慮も可有御座儀に奉存候但元文以後度々間切所々御掛引等の次第は略仕候去る未年も間切所々御立被成候へ共早速出方に不相成候に付段々御止被成候。

追 加

寶曆八寅年金銀山一件御奉行所御支配に相成同年迄は本途買石御直山の鎚外吹買石古間歩自分銀又は拾ひ石揚柄山買受粉成吹いたし候もの銘々住居の町々居宅に勝場有之鎚粉成北澤町次助町大床屋町三ヶ所に有之寄床屋にて山吹銀吹立上京町に有之候分床屋にて金銀吹分賣上來候處同九卯年本途買石の勝場床屋は當時の場所外吹買石は御陣屋後當時同心住居の所え御引移本文に論じ候御試勝場も御取立本途の口は辰巳口外吹の口は坂本口と唱へ兩口留番所出來本文享保以來の御取締より猶又御手厚に相成銀山御稼方は青盤甚五鳥越中尾雲子五ヶ間歩にて鎚宜處計撰穿に不致敷所相當の大工當りを以てカナコ共引請相稼候儀に御取極大道間切之儀も市中より納置候間切代を以て青盤甚五鳥越え一ヶ所宛御取立同十辰年より出方と御入用差引御損失さへ無之候は左而巳御益之無貪着多く穿出候儀專に致し候御主意に相成大工御斷も相増古間歩相稼候分も右五ヶ間歩の附山と唱へ本途大工御仕掛有之稼方御手廣の儀に相成安永二巳年より中尾間歩えも間切御取立右間歩々々間切追に鎚に切當相稼代々々盛衰は有之候へ共天明の頃迄は多分の出方も有之同二寅年に

至り買石共金銀御買上代下直にて仕當に合兼候由を以て直増相願既に粉成方手を引候に付同年より銀山勝場共御直稼に相成悉皆役人取計カナコ買石は世話煎と申名目にて御雇入下世話爲致寛政元酉年如以前引請稼に立戻り本途外吹共山吹銀代直増有之取績候處同六寅年銀山向御入用御省略出方少く御損分に相成間歩々々追々御休外吹買石は御差止右職之所業は穿鑿掛取扱粉成吹いたし候儀に相成其外右代直段立方御改正高直に相成候に付間切代御取立は相止且天明三卯年迄は御藏金一兩錢四貫二百文替の定相場の處翌辰年より相場立方改り候に付御益金の内五分通金銀山穿鑿爲御入用受取往々御替山共可相成場所御仕入其外薄鎚穿鑿致し候義に相成候處寛政七卯年より員數御減少之上定高に相成敷内御普請間切切山外吹稼之品粉成吹入用等も右之内にて仕拂候儀に相成敷内稼方は地當りと唱へ青盤は大工一人に付鎚代十匁五分鳥越は十匁中尾は十一匁と御取極鎚引相變御合力大工相願候へは一人當七匁にて御仕掛之儀に相成敷内出水有之場所又は留棚崩込候所は其儘差置鎚の顯れ候場所も御入用と引合候處而已撰穿に致候故中尾も出水のため御差止にて御藏金御拂高相減御充實に相成追々に多分の御金江戸御藏移有之銀山二ヶ間歩にて僅の出方に相成候に付文化元子年より地當御差止一二匁當りにても御仕掛の積り相成候へ共以前の穿鑿を穿取候迄にて穿鑿可致場所は水埋又は留山崩込有之文化の末に至り候ては衰微極り相川市中の者渡世を失ひ人別も多分に減少相成在中より銀山勝場並相川市中え諸色賣込渡世致候村々不少候處是等えも相響一國の衰微に相成候に付追々多分の御入用を以て金銀山御再興有之大工御入用穿鑿御入用等も寛政以前に復し山吹銀御買上代も相増候へ共熟作打續米價下直にて御藏金續き不申候故文政中江戸表より追々に金一萬五千兩御差下越後水原之者共三千兩佐州在町の者三千四百兩餘上ヶ金其外品々御繰

合を以て御稼有之出方追々相増候へ共昔の盛と違ひ上鏈の多く出候に無之御入用の掛入力の勵一逼にて薄鏈をも多く穿出粉成吹の上金銀の高を成候故働には人数多く相成下々の甘きに相成當時は市中の人別も天明寛政の頃より相増候方にて一同安住仕候儀に有之然處金銀山御再興の驗相顯候様又は御下金被仰上方其外の模様になり出方相増ため押張候稼方敷年來打續候故惡弊相生じ規則混亂其ため役人の風儀も損じ候間右弊引直し方の義去る申年以來御沙汰有之畢竟山方役掌握中の儀に候へ共當然代銀の出來劣りを恐れ殊に二十餘年の習に相習候故申合も届兼御哉之處今般追々の御沙汰心根に徹し一同先非後悔いたし候趣に付此後は際立相改り可申儀に御座候大道間切は鏈に合候儀間遠の節は人情の退屈より時々途絶候へ共畢畢大道を開き候主意とは乍申儀に逢候儀間遠の節は傳馬と唱へ左右え切山を入れ穿鑿可致等の處夫等之儀も無之退屈いたし見切候ては間切の證も無之候に付去卯年より不怠に切延年々延尺被仰上候儀に相成當時鳥越の稼所は右卯年後の間切にて鏈に切當候より相續致し中尾の西敷も同様有之青盤の稼所は以前の間切場所より稼上り相續致居雲子は未功も相見え不申候へ共何れの間切も無退屈切延其模様になり切山而已穿鑿致候は追々効驗も可有御座奉存候。

一當國山師之先祖多くは他國より來り其内には由緒正しき者も有之候往古金銀山繁昌の節も出鏈の高に應じ過分御分ヶ領前を被下候事故住宅の修補暮方共誠驚耳目候事共に候由別而味方但馬と申者は村井長門守筋目之者に御座候處佐州え罷越山仕に相成慶長年中割間歩大盛致し公儀え莫大の御連上銀上り候に付權現様御目通え被召出御紋之御時服頂戴其後鎮目市左衛門殿御支配之節夥敷御連上銀上り候に付但馬倅虎之助と申者

台徳院様御目通え被召出御紋之御時服を頂戴其後虎之助弟孫太夫治助

大猷院様御目通え被召出御紋之御時服頂戴仕候如此代々御目通えも罷出御時服等拜領仕持傳候て近年迄も所持罷在候段及承申候且又但馬當國にての屋敷當時黒金屋七兵衛と申者の屋敷より一町計り下會津町えの小路切に家建廣げ致仕居候由當時の御雜藏場所も皆々但馬自分の藏地にて油鐵材木等を入置候處の由其後身上衰候て公儀の御藏地に相成候段申傳候但馬子之代願之義に付江戸表え罷越候節屋敷は弟味方與次右衛門に譲り其後孫太夫は南澤に當時妙國守屋敷に候住居仕候京都の屋敷は萬治二亥年改の古繪圖を見申候に三條通藝華院の南六角堂の東一町四方の屋敷味方但馬と有之候江戸にも大成屋敷所持の由所は相知不申候其外相川にも所々抱屋敷等有之在邊の義は夥敷幅りに候江戸表にも所縁共敷多御座候猶又内藤勘兵衛と申山仕は内藤修理の孫候由竹村九郎右衛門殿御支配の節御下知を不相用江戸え及出訴候儀有之段々御吟味の場におゐて土井大炊頭殿の御事を勘兵衛口上にて大炊頭殿と申候に付吟味の役人中より其段申上候大炊頭殿御意には今般出訴の趣は勘兵衛理分の様にも相聞え候へ共山仕の分として吟味の場におゐて天下の老中を殿付に申にて察候へは曲者と相見え候條奉行頭人の支配をも中々用ひ申間敷人柄に候段御沙汰之由其後何の子細に候哉於江戸表打首に被仰付候段申傳候此説は虚空の程無覺東奉存候其外關原主兵衛と申山仕門兵衛坂に當時小田切仁右衛門住宅の邊住居依之其名を坂の名に取用候由此者後には宗清と改名仕候其節は銀山繁昌の時故か山師共何れも御奉行所え御出入申候由宗清儀九郎右衛門殿え參上御對談之砌食事の義に付樂首杯申傳候且又秋田權右衛門と申山仕は羽州秋田より罷越其次二代目の權右衛門は後々道榮と申當時の權右衛門養方祖父に候元祖の甥にて養子に相成是も秋田より罷越候處至極銀山の功者にて稼方の考一々其圖に當り候事共敷多の由申傳候且鳥越間歩開發之義も天和元酉年鈴木三郎九

郎殿御支配之節二代目権右衛門考を以て草際より相稼八ヶ年の間間敷八十間餘無用の石中を切延未だ考に不當依之御休置被成候處元祿四未年萩原彦次郎殿御支配に相成又々権右衛門申立にて六十七間御切繼被成則縫に逢ひ夥敷盛を得申候其外西五十里村仕出喜間歩を元祖権右衛門考を以て開發いたし是亦夥敷盛哉得元祿八九年迄相稼其後稼疲れ捨り申候此外の山師何れも御預りの山々にて考を以て盛を得候へ共権右衛門は別而功者之由當時迄申傳候者故其証少々書記申候且片山勘兵衛當時は跡無之と申者は一丁目表町同裏町江戸澤え掛け住宅建廣げ罷在候由和田七郎左衛門と申者當時與左衛門先親往時は下戸町に住居有之家作等其近邊には無双之體に候由外何れも是等の身柄に候間家内五七十人暮の者多く金銀を得候事は何時にても自在に相成候物の様に心得湯水の如く遣捨候儀故國中えも散廣り豊に相成候事に御座候但山師の風俗算勘に拘り候事は手代共に任せ武術遊藝等心々に相勵み候由山根彌三右衛門と申山仕は當時山師跡無之候丸橋流の槍術を相極め當時迄も書物等残り申候味方仲景と申者平野仲安弟子にて筆達の名を得其末當次右衛門養父も居合劍術等を極め恭は強伸手と申程に打申候味方但馬曾孫孫太夫と申者は當時より四代先殊更多藝にて居合劍術等を極め立花樂舞等をも心得治郎齋流の筆學に秀候由年長け痘瘡を煩ひ病中に痘瘡神を斬候て其勇名を顯し無程致死去候其外の者共相應の藝術等不嗜者無之人物に御座候然共享保年中より打續銀山惡敷山師共至て及困窮當時は身柄心達迄卑敷町人同前に相見え候者共も御座候併去る未年御仕替之節由緒共御聞札之上爲取續之御扶持方被下之其内味方孫太夫儀は別而由緒も正しき者故別段の五人扶持被下其餘の者共四人扶持三人扶持被下候尤領前相應に有之間歩の山師御扶持方不被下も御座候扱又往古より功者の山仕考置候由相川金銀山は都而立合白石引候を立合と申候其内に縫生し申候二十一枚右東西引にて中央を中山立合と名付七枚有之候黒物立合中通り本立合猿松立合

ねは立合中立合千之助立合厚身黒物立合如此に候北の方を厚身立合と申候て九枚有之候淺右衛門立合松木立合桶屋立合與市立合嘉左衛門立合勘兵衛立合火繩立合與四郎立合虎の皮立合如此に候南の方を薄身立合と申候て五枚有之候白銀立合七枚棚立合本立合唐島立合大薄身燒刃立合如此都合二十一枚に候ク様に往古より大方を考置候上に猶又山師共工夫を以て譬へは東何間歩にて何立合を何百間切り盛に合候間其所より何百間西にて右の立合を切申時厚身歟薄身歟何れなり共何十間横抜に切通し候へは件の立合に相當候と申勘辨を専らといたし候但東西に引渡り真直に引候へは無相違可相當道理に候へ共其東西數百間の間には山形の入等形に准し立合も狂ひ或はドヤと申して立合を突切杯いたし又は東にて一筋の立合數百間西にて二筋三筋に分れ候も有之本立と枝との紛れ等は等の變に勘辨功者も入申候段及承候然上は往古數十ヶ所間切御立被成候時も當時出方計りの稼所にてても大小の變のみにて右の考を山師共不斷の職分に御座候其外石中の事故一様に無之種々臨機應變の儀も有之候よし依之山師家々の傳書等御座候得共兎角其業に馴不申候ては畢竟傳授一通の筋にて其働に至り不申候間此後大道間切御立被成候は追々山師とも家業を勵み修練長し御爲に相成候儀にも可有御座候。

追 加

山師の内寶曆元未年御扶持不被下者三人天明二寅年より御直稼に付同四辰年より三人扶持宛被下當時迄十二人連綿はたし山方役之支配にてカナコえ稼方の差圖いたし間切切山等之義申立間歩相續いたし候様鍛鍊第一の家業に御座候以前は其考的中いたし候儀間々有之趣にて既に鳥越間歩之山師下田理左衛門と申者明和三戌年勘左衛門間切縫に切當カナコは領地相渡候節冠え稼上候事四丈を限り若狹に稼上り候は

水切出可申旨考置稼所之規定に致置候處右は畢竟見越之義的當之程難計差向備り有之鏈に候へは難打捨其儘相稼四丈を越候處天明八申年果而水切出し敷内永々の患に相成候義に有之青盤間歩臺の方に薄身荷替と唱へ候水溜有之此内に鏈有之候へ共臺通の水此處迄汲溜置夫より冠え汲上げ候へは水替入用相省候に付鏈穿取不申定之處文政の初出方相増候ため右鏈穿取水溜破れ候故臺稼には多分の水替入用相掛り候様相成右體一旦の出方のため水替入用永々の御費を引出し山師の深き考も山方役の不取用義にては功も立不申山方役の心術精粗により御損益は勿論一山之安危に拘り不容易役筋にて近來功者の山師出來不申候も役人より鼓動いたし不申故に可有之哉間歩内の義に至り候てはカナコの内にて却て山師より功者の者も可有之哉然らば山師の功不功者は家業に身をはめ不申故にも可有之哉草見立と唱へ春秋の内岡山の立合を廻り敷内の稼場と考合間切切山の立方等工夫いたし候義の處當然代銀の調方等に被追候哉近來右様之義も間遠に相成候趣に御座候本文味方但馬屋敷當時黒金尾七兵衛屋敷と有之候は中京町南側上角にて只今は井上邑次郎拜領地に相成申候。

一カナコと申者は全く稼人の名目にて御座候山師は何間歩と申一山に拘りカナコ其一山の内何敷と申一敷の領地を御定之上稼申ものに御座候前々のカナコは手前貯有之者歟或は儲なる金主有之候て稼候故自分の物入を不厭丈夫に相稼公納をも差上候者共多く候カナコ稼候時は公儀より御合力大工と申を被下自分大工に入交相稼又々出方に成候へは御合力大工は御引取被成候如此其勵方實體に候處其後不景氣に連れ稼人も身元儲成者は稀に相成享保の中頃より自分大工入立候義も總に相成悉皆公儀より御稼被成候様に相成申候近年は別而世柄惡敷候故カナコ共の内には公儀より被下候御入用をも潛み候て當日の鹽増にも仕候様

なる風俗に相成如此信義を失ひ一日送りの渡世稼に相成候ては如何 大山祇の神慮にも叶間敷候へ共時世の不景氣に連れ候事故無是非次第に御座候併當時連も敷所直り候時は例の銀山風にて更に貯を不心掛手廣き風俗は相残り商家の族には雲泥の違に御座候以前の諸間歩カナコ共の内にて過分金銀を得候者共敷多御座候中に中古鳥越間歩助吉敷のカナコ關東彌右衛門と申者^{岡山五郎右衛門町邊關東と申所有之彌右衛門住居の跡に候}元祿の初助吉敷を稼候處存寄深敷所故敷年物入いたし稼候へ共仕當不仕身上潰し自身堀の體にて^{大工の致し候手業の義}幽に相稼或年大晦日に諸方借金方の者催促に參らせたり候故在宿も難成體無據鳥越間歩え參り右の助吉敷え夜分罷越年來稼切捨候敷所え行き彼是往事を觀しヶ程に身命を抛ち稼候へ共考に不當殘念至極と獨言を申携候鐵槌を以て敷所の横の方を打碎候へは白立合石欠崩落候を取上見候に槌にて打候方は白く有之欠口の方黒く鏈の様に見え候へ共灯油にては其程見え分り不申候に付岡え持上り夜明け候を待ち能々見申候へは黒き所皆々至極の鏈に候故又々敷所え至り切廣け候へは段々幅廣に丈夫に見え候に付稼入夥敷盛を得家作等美々敷建廣け凡平日の遣方に印銀を四斗入の油明樽にて計り出し候様なる身上に相成候旨及承候此者の孫を孫右衛門と申候て青盤間歩カナコ致し罷在候處敷所不宜段々困窮および去年死失仕候貸方取立も難成程の貧者に御座候右祖父彌右衛門金銀可有之敷所と存込敷年稼候へ共鏈に逢不申候故段々東口切延候跡にて纒の石を打落し大盛に相成候儀偏に時節到來とも可申候哉諸銀山仕當の者も多く有之候へ共考的に當り候は理の當然にて此彌右衛門一件は甚妙之筋に御座候故書記申候。

追 加

本文カナコ共 公儀より被下候御入用を潛み自分の鹽増にも仕候風儀に相成候と有之寶曆の頃すら右之

趣に有之夫より後は猶更の儀に可有之天明二寅年より御直稼中は世話煎の名目にて御雇者に相成寛政元酉年カナコえ歸職いたし候後銀山御入用御減少間歩々々地當りと唱へ大工當り御取極め被成右御入用丈の稼いたし候故縫引の所のみ繰穿に相成候に付普請穿と唱へ左右の切山切廣度又は縫引變じ候節穿鑿致度御合力大工相願候へは一人當り七匁ならては御仕掛無之程稼續手を引候へは大工水替日雇取體の者跡代りに成一旦自身穿等にて相稼候ても以前の穿幾少々宛有之候を穿取候迄にて次第に衰微致候に付右地當御差止一二匁當りにても御仕掛の積相成敷内の模様に応じ御仕掛有之候へ共青盤鳥越二ヶ間歩而已にて臺通は水埋留棚損し候所は其儘に打捨有之不盛打續永續無覺束候に付元青盤間歩カナコ兵助元鳥越間歩カナコ政八儀寛政十二申年買石共相對縫一件にて相川拂に相成候へ共稼方功者のものに付文化七午同八未兩度に御伺之上御仕置御免カナコ被仰付右未年より金銀山御再興相始り追々間歩數も相殖敷内留山御手入水埋の敷所御取明等有之至而の薄縫迄も穿揚げ少も金銀餘計出來候儀を專要にて夫々大工御仕掛有之候に付カナコ職は取續候へ共數年押張候代銀賣立候餘弊にて中には風儀不宜ものも有之由惡き事は外え移り易き方に御座候間之を引直し候は山方役一同骨折の時節と奉存候。

一買石の者の風俗も金銀山の榮枯に連れ申事にて出方宜節はカナコの者の風體に相替儀無御座候但家業勵方は別段に御座候前段所々にて申上候通往古は過分身代宜者も有之候由及承候へ共山仕とは格別身元も輕き者にて當分の利徳により其名も人に知られ候儀に御座候二三十年以前夕白町に治助と申老人有之昔物語仕候内に延寶年中割間歩七枚棚大盛之節買石の者仲間にて山ノ神邊え遊山に罷越亂酒に長し大山祇の鳥居に登り笠木に並居候て升にて酒盛をいたし興を盡し右治助も伴れ拵にて三獻給へ候迄は覺候其後鳥居を下り

候事も覺不申皆々泥醉にて打臥夜中の儀も不存翌日目覺候て其邊を候へは何れも平地に打臥候者共宿所々々より美々敷夜具持參差置候其節の世柄にては是等の事會て目立耳仕候者も無之抔申候ケ様の時節には買石カナコは勿論大工穿子其外共に亂悞の風俗故却て人々平生に存居候事と奉存候其後元祿の中末は猶更の儀に候處享保の中頃より段々不景氣の上に吹方嚴敷御吟味彼是及困窮六七年先までは相應なる身上の者も無之候處其後は前方より格別手前宜相成候者共も有之由及承候尤當時は如何様の勵筋にて利得有之候哉不奉存候へ共銀山盛り世上一統宜き節は山師カナコ買石共は第一潤色の筈に候へ共並を抜き買石計宜候は此段は前書にも申上候通山師床屋享保中頃よりの御吟味筋にては不審成義に奉存候以前吟味合の形を以て申候時等にて様々無之故の儀に御座候哉 是出鐘の直段を格別買落し候て買石自己の利得に相成候趣にも可有之哉併御代官所にての吟味筋左様の所手抜可有之義とも不奉存畢竟他支配之義故此段は委難相記御座候。

追 加

買石之儀町々住居の宅々に勝場有之床屋も町方に有之候處寶曆九卯年御陣屋御圍内え御引移相成其以前は本途御買上代筋金十匁に付印銀三十五匁灰吹銀百匁に付印銀百四匁之處諸色高直等の申立にて灰吹銀百匁に付印銀二十匁と増代被下候處其頃は買石共山吹銀の内より筋金吹分いたし面筋金打合買上候に付筋金山出方宜き節は分筋金も餘計出候故利得有之義の處筋金山衰候て銀山重の出方に相成仕當に合兼候由にて天明二寅年金銀代直増相願候に付銀山勝場共御直稼に相成買石共は世話煎と申銘目にて御雇成縫目利いたし此時より分筋金は一圓御徳分の積り山吹銀にて御買上代取極粉成吹いたし寛政元酉年御直稼相止如以前銀山勝場共引請稼に立戻り山吹銀御買代直増有之一貫目に付七十一貫三百五文に相成尤其節

迄は本途鑓買石共山許にて鑓代一貫目と直入いたし候は山吹銀一貫出來候積りの處右御買上代内にて上納鑓代山師領前等引候ては粉成入用引足不申候に付鑓代一貫目と直打いたし候ても吹歩三割五歩の唱山吹銀三百五十目宛餘計吹立此分は上納其外の鑓代差出候に不及是にて粉成入用を補ひ候積りに相成文化元子年山吹銀入目相止候に付其節より吹分三割九分に相成且鑓代高直に付山吹銀御買上代七十三貫九百十八其節定御問吹所文に相成申候本文三割五分に相成候節の書物寛政十一年御役所類焼の節焼失いたし割合勘定内譯相知れ不申候御取立荷分鑓の内五ヶ一十ヶ一宛繁々の御試粉成有之元鑓代より餘計出來候へば引請高之外右割合之通増吹いたし其外御手當引上方割合等御取極有之御問吹所にては御入用掛候ても金銀餘計取上候義專一にいたし買石共御定の御買上代を以て御問吹出來形の通増吹いたし候義故損分相嵩み拜借錢等を以て取凌候へ共逆も直増無之候ては難取續趣を以て寛政十年年直増之義類て相願候故御直粉成にて御様有之候處直増に不及積りに付其節の買石十二人翌未年職分御取放跡職望の五人え引請被仰付候處不埒の取計有之翌申年一國拂被仰付外に買石望の者無之左候迎目鑓利の者無之候ては銀山御稼差支候に付午年御取放相成候内買石の名目にて御雇人引受の姿にて悉皆役人の取計に相成其後連年銀山不景氣故粉成入用御足拂多く相掛候に付文化三寅年山許より安鑓不差出様之仕法に相成候處左候ては稼方難取續上納金相減候趣を以てカナコカナコの者粉成方引請御試同八未年より御直粉成同十四五年より粉成入用目當を付買石引請御試文政二卯年は山方役の手にて粉成高迄取計同三辰年より本途薄鑓山吹銀御買上代百二十七貫三百十八文に御斷有之同年より同午年迄買石引請御試有之候へ共猶過分の御足拂相掛候に付其後は當時迄御直粉成に有之數年來山許にて押張候稼方打續惡弊出來致候に付右の場合改り稼方治定目利の鍛鍊をいたし相當の直段にて金銀御買上有之候はど買石の引請にも相成可申義に有之一體買石共山元にて直入いたし候節

者銘々見込の鑓直取糶入札致候儀の處四十餘年前の儀に付き當時の者共は右等の儀を相辨不申先年の試に引請候節も一同相談の一枚入札にて鑓も平等に引分粉成吹致候得共間もなく立行不申御直粉成に相成候儀にて昔の買石とは雲泥の違に相成申候。

一 銀山にて堀出候ものを大工と唱へ申候是は鑓を堀候時金銀の毒氣有之石埃或は灯油の烟を喰ひ其上堀場にて代り合候明手の間は其處に臥候義共彼是の疲故三十ヶ年先迄は必定短命にて上大工は漸三年程ならでは存不仕依之平生其覺悟致し曾て永久の事を不患賃銀有丈遺漬し酒色は勿論美食美服を第一の榮花に仕候以前は平日丹後編杯の物を着し敷内えは別以前は信州上田邊奥州會津等よりも多く入込大工の業をいたし一體の風服を着候當時は至て卑き衣類を一統着申候俗男伊達杯申者の様に口論等を仕掛毎月二ノ日荷分ケの夜は町筋所々に酔臥或は出入等に及候儀有之其外夜祭盆中などは殊の外騒ぎ歩行喧嘩取詰候ても自己の短命を申立どいたし非を理に曲て相挑み候様なる人柄に御座候得共都て大工をば人々除て通し候故猶更無憚所振舞申候近年も御代官所の近邊然共病氣付候時は主掛りの者も主人見捨て候ていむ所は古間歩の口或は小屋掛杯の内にて及死歿候處近年は金銀の毒氣も薄く相成候哉如以前堀倒體の者も少く如細たなれとは疲れ大工を長命なる者多候様に相見え申候又は少々如此唱申方言に御座候の元手を仕度いたし大工を止め候て茶烟艸の小商等致候者も有之身持換とか申風に相成是等は只今格別の違にて御座候就夫或雜書を見申候處金銀の毒氣に中る説有之其趣は金銅の堀様にて風の不透には風抜の穴を不開時は陰氣籠り氣絶候事事も害の毒に同じ又金銀銅山の煙瘴の氣に觸て病者の狀ち身の色黄み咳嗽出で痰粘く漸々に纏て三輪組む様に成る也此症に米の粉にて丸めたる團子を鹽氣なきを好む者は不治未だ病不迫内には是を治る一方あり解煙散と名く是を白湯に搔立て日々に用て可治如此相見え申候右解煙散の方組の義醫

家え承合候ても不分明に御座候何卒此法を以て右等の病人を救ひ申度年來心掛罷在候乍恐思召被爲附候義も御座候はゞ御傳被下置候様に奉願候當國は銀山國故大工は不限其筋え立入候者は是等の病症多く御座候に付奉申上候。

追 加

本文實曆の頃大工に長命の者見え又は大工を止め小商等をいたし候もの有之由認有之其頃は如何様の事にて右様相成候哉當時大工に相成候者通例は酒色博奕等にて借財濟方のためカナコより錢借受飯宿と申に被抱候者坏は仕事いたし候賃錢有之候ても飯代酒代其他雜費相拂僅ならては残りも無之此分賃錢の内え引取候へば時々仕着入用等賃添いたし遣候に付當日の仕事不致候へば頭大工の者繩を掛け嚴敷責苦め候故職替致度候ても錢嵩多く候故外に借替候程の渡世無之勿論仕事いたし候賃錢ならては正錢の返済は受取なす右の振合に付欠落の外は通れ方無之仕事手馴上大工に相成候へば五三年の内には病死いたし候へ共カナコの者見繼假宿にて介抱いたし候故本文穿倒の取扱とは當時は格別の違に御座候カナコより錢借受大工に相成候を身を賣ると唱へ以前は錢高多き所十貫文より以上は無之通例五貫文三貫文の貸付の由に御座候處文化の末より銀山御仕入始まり大工引足不申故一人も大工に可成もの有之候へば糶買の如くいたし五兩三兩の貸付をもいたし候振合に相成當時も二三兩宛の貸付不致候ては大工仕入出来不申候由夫より追々賃添等いたし候故中には五十貫百貫の賃高に相成死後又は欠落等いたし候度々カナコの損分に相成候由然共本文の穿倒と違ひ病中死後迄厚く取扱候は偏に御仁政の風化の及ぼし候故歟と奉存候尤大工の内差働有之頭立候て敷岡の世話いたし候ものは妻子等も有之小商をもいたしカナコの明候節は

跡職にも相成候類有之候へ共是は一ヶ間歩に兩三人ならては無之儀に御座候此外冬春の内海獵無之日雇にて相稼候者日雇稼等少き節欠穿大工と唱へ元賃錢借受不申日雇にて相稼候者は身にも障り不申夫丈カナコ共の爲にも不相成候間宜き場所えは差組不申地大工と唱へ元賃有之大工大勢抱不申候ては手強きカナコとは不申候本文に有之解煙散の義當時醫家え承合候ても存候もの無御座候且又本文に荷分の夜は町筋所々に酔臥候と有之候は以前は荷分の日を打替日と唱へ稼相休候故大工共出前引候處天明二寅年より休日相止候由に候へ共御入用並錠代勘定等は今も九十日を九日の積りに割合申候。

一御抱山留の者働の義は先達も申上候通り敷内急所の留山に身を入相働候者に御座候故出水或火事場等におゐて働方宜く可類者も無之程に御座候且功者成山留の敷内にて高き空虛の所より不意に抜石崩掛り候時山留聲を掛け候へば崩止り其内に留木を以て留申候如此嚴敷働の者故出水火事場等の變を平生心に心得申者共に御座候手傳穿子は賃錢雇にて御抱には無之候へ共手傳より段々所作仕入山留の者養子等に仕候義に御座候。

追 加

山留の働烈敷義は今も同様に御座候文政五年閏正月五日鳥越間歩切山改として目付役早川爲四郎穿鑿掛酒勾立四郎當時酒勾文三郎養父御番所役古藤清左右衛門當時の清左衛門養父敷下りいたし奥の方に罷在候處字中臺と唱候處冠通り以前稼捨の地山堅二間横五間程の石通行筋え崩落右響にて尙又大石落重り五六尺以下の石は夥敷落候に付諸間歩より山留並手傳穿子等驅集石の落候隙見計ひ段々階子掛渡し夜に入り落石と落石の間え留木を以て橋の如く渡し且人勢烈敷節は落石不致ものゝ由にて山留共落石場所の間左右え立並居爲四郎

始通行爲致候處一同右場所逃揚候後間もなく又々石崩落申候右通行筋の落石故爲四郎等を始め奥の方に罷在候大工水替共終日食を斷罷在候故山留共の働方烈敷且十丈も上八方より落候石に候へば落口の様子如何とも難計候處其下え立並助出し候體更に身命を惜候者とは相見不申其節私儀山方役にて爲四郎等助揚方差圖のため敷詰いたし居見請申候其出火の節風下の建家を切潰し消留候杯烈敷働を職前に相勵候御調査の者共に御座候併當時の若者共は無心許候。

一往古鶴子相川其外在々の金銀山ヶ所慥成書物所持不仕候寛永十三子年頃は相川鶴子入川大津當時の大須田切須新穂是等のヶ所に相見え申候十ヶ年以前寛延元辰年江戸より御越の御勘定神山三郎左衛門殿吉田宇内殿え差出候古今の稼所間歩名相知候分總て百四十六ヶ所其内相川銀山稼捨古間歩九十二ヶ所在々銀山在捨古間歩三十三ヶ所相川にて稼有之間歩々々二十一ヶ所如此に候此二十一ヶ所も其後段々稼捨候場所多く御座候。

右金銀山の全體存候儀共相記候へ共事多き儀故百ヶ一にも及申間敷候別段所々とも申上候通當國の儀は四民の風俗も止る所は銀山風と落込候へ共其中にも銀山の稼一件に拘り候ものは一段風儀寛活にて其筋え不立入者は又例の銀山風歟と目立申程に其様相變候故銀山の常語に一瀬一袋と申事其筋立合は傳へなから金銀間遠に相成候を瀬の内と申候一袋堀ると申は袋に物を入候様に金銀の鏈有之を如此唱申候又立齋と申事有之候是は往古他國より立齋と申者當國え來り居候て密に相對を以銀山の内より外え鏈を抜し候を御糺の上及露顯重き罪科に被行候由其後右の者の名を以て拔鏈の名に唱候由申傳候且又相對銀代と申事銀山の手筋惡敷儀に候へ共是は拔出等の惡事とは違ひ銀山盛の節は曾て無之儀に御座候其子細はカナコの者丈夫

に稼候て出方相應成時は相對にも及不申候此起りは都て御入用を以御稼被成候享保の中末頃より始り候縱は何間歩何敷え御入用何程御仕掛可被成候間鏈代何程急度賣立候様可相勵之段被仰付其上掛り合の役人も出精いたし鏈數相増候様に勵み候ても敷所不宜時は鏈數計多出候も買石の者直段先十日より格別直安に入札いたし其安直を以總出鏈代を積り候に付最前御入用引請候節の御請合に符合不仕旁無據筋にて密に買石えカナコの者内々相對之上載代銀をいたし公邊の口塞に右載代銀の約諾銀を相渡候へば買石は金銀吹立方密々に相働申事に御座候是は前方御奉行方より直段高下の道理を分明に御得心の時代には買石入札の直段高下により其十日の鏈代増減共に御聞届被成候間相對銀代の手筋曾て無御座候且右之譯を御聞入無之一向に鏈代増候様に御せたり被成候時代には下の實意上に不相達載代銀も甚莫大に成御稼の妨に相成申候如此風俗は往古は無之儀にて尤不景氣とは乍申畢竟上下之趣意不通故ヶ様の手筋出來候事と奉存候扱又卑賤の諺に銀山宜候へば難を藏し候と申儀誠に當國の風俗にて縱は小濱志摩守殿御在勤中鹿伏三社え御參詣之節神明神主佐々木出羽と申者に御尋被成候は當社にて石の鳥居建候儀其謂如何と被仰候へば出羽申上候は如御意唯一神道には石の鳥居用ひ不申候處當國は銀山國故カナコの者共寄願に付相建候石中の稼仕候者の願候由に御座候間石を用度一筋の所存に付其儀差止候へば願主の心に任せ不申依之暫く法を寛め候由御答申候處志摩守殿御意に如何様國柄には尤の事と被仰候段及承候一國の風俗には一道の制度をも黙止候儀共其外之小事は難聞盡候世の諺に理を曲ぐる法と申候へ共法を曲ぐる國柄も無據筋に奉存候右神主出羽は若年より吉田え罷越近仕いたし神學粗勝候者之由當時國中社人の内に社人がましく少々神學の心得有之者は出羽を師範に仕候輩多御座候如此者に候間無心付偏に願主の心任に石の鳥居を相建置御不審の時差當り候逃

口上とは相見不申候是全く元祿の末銀山の壯成風體故と奉存候其外承應二巳年の古書に相川下寺町吟山寺と申寺號觸狀に相見え候處其後改り當時は銀山寺と申宗門も同宗候間別寺とは見え不申候改名の譯は相知不申候へ共寄附杯の筋により無據改り候哉如此出離の族迄も金銀山繁花の風俗に連れ候事共に御座候。

追 加

四民の風俗止る所銀山風に落込候趣本文に論候通古今同様に御座候一瀬一袋之儀古來も不盛にて市中餓死等に至候程の儀有之候へ共其後も御仕合に寄大盛も度々有之候當時不盛中申候ては國最負に當り候へ共稼相續さへ致居候へば此後も大盛有之間敷とは難申彌十郎間歩の義去る午年迄は一ケ年の出來銀二三貫目前後の處去る亥年は七十貫目餘の出來にも相成中尾間歩の儀享和二戌年御休山に相成候程の場所文化十四年御再興にて去る辰年分出來銀百六十貫目餘の出高も有之何れ石中難見極義に候へば瀬に相成候池打捨候へば袋に可至義無之袋に至候迎永久盛計穿候義に無之候間袋に至候は瀬に相成候時の替の稼所御仕入無之候ては豊年に凶年の備無之も同様にも可有之依而間歩數多くも間歩の内には稼所ヶ所多く候へば代るく盛衰有之候ても稼方相續いたし候義に有之只盛衰事實に應じ金銀山永續致候様奉願候外無御座毎以數年押張候稼方と申候は近年表向の文言にて事實は本文載代銀も甚莫大なる御稼の妨に相成候と有之類之儀に御座候處右之場合御會得被下御改被下候義に付筋能相成安心仕難有奉存候義に御座候且石中不定之金銀山を以恒之産に致居候土地に御座候へば本文に有之法を曲る國風に類可多候へ共其内に生産の者は夫共不相辨義可笑可被思召事多き義に可有御座奉存候。

本 文 寶曆六子年十二月 追 加 天保十一子年十二月

佐渡四民風俗追加共下卷畢

佐渡國四民風俗二卷は寶曆六子年大石谷備後守殿御在勤の節廣間役高田久左衛門へ内密御尋に付き取調差上候書に御座候處右寶曆より今天保子年迄八十五年の沿革を御覽可被遊旨御好に依り見聞之趣一部中箇條毎に追加相認申候。

原田次郎右衛門

跋

本書の内容に就ては岩木氏の序文精細に之を悉せり曾て本郡二宮村の齋藤氏が佐渡史林の一部として刊行せる際家藏本を提供せしに何故にや半途にして廢刊せしは史界の爲甚だ遺憾に堪へざるなり當時本書を校閲されし矢田求氏は其記述か民卑の傾きあるこ文辭の精ならざるを認めしも著者等が當時の境地を察したりけん何等の改削を加へざりし吾が郷土史に精通せらるる岩木矢田兩氏が本書に對し等しく推獎せられしは實に高田翁並に乃祖父の榮譽なりとす爰に尤も遺憾なるは余が東都在住中大正癸亥の大震災に遭遇し家藏本が他の家乗と共に空しく灰燼に歸せし事也悔恨極りなきも亦如何ともする能はず唯幸に其傳寫本が萩野永井兩家其他に留存されしを以て請て謄寫校合し更に岩木氏の再閱を煩し原文の儘之を剞劂に附し廣く頒布し聊か以て乃祖父の靈に謝する所あらんこす顯みれば本文追加の天保度已後約九十年我國の世態民情は又異常の變化を來たせり願くは篤學の士其推移を細叙追補し本書をして益完全ならしめんこを切望に堪へず聊か所懷を述べて以て跋文とす。

昭和四年八月

原田廣作識



579
459

110